子どもの学校外での学習活動に関する実態調査報告

平成２０年８月

文部科学省

※本調査報告は、文部科学省から財団法人日本システム開発研究所に委託して調査を行った「平成１９年度 児童・生徒の学習塾等での学習状況及び保護者の意識に関する実態調査報告」について、調査結果の分析・活用に資するよう、文部科学省において、関連項目ごとに調査結果を整理し、取りまとめたものである。

【本調査報告の構成】

◆調査の概要 ・・P2

◆過去調査との経年比較に当たっての留意点 ・・P4

◆調査結果の概要 ・・P6

1．学校外での学習活動全般

（1）子どもの活動状況【保護者調査】

①実施状況（学習塾、家庭教師、通信添削、ならいごと）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P6

②学習教科（学習塾、家庭教師、通信添削、ならいごと）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P12

③指導内容（学習塾、家庭教師、通信添削、ならいごと）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P18

④平均月謝（学習塾、家庭教師、通信添削、ならいごと）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P22

⑤その他（学習塾、家庭教師、通信添削、ならいごと、都市階層別、将来進ませたい学校の段階別） ・・・・・P28

（2）子どもの意識【子ども調査】

①学校外での学習活動の好き嫌い（学習塾、家庭教師、通信添削、ならいごと）・・・・・・・・・・・・・・・・P30

②好きな理由（学習塾、家庭教師、通信添削、ならいごと）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P34

③嫌いな理由（学習塾、家庭教師、通信添削、ならいごと）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P38

2．学習塾通い

（1）通塾経験の有無【保護者調査】 ・・・P42

（2）通塾経験に係る理由【保護者調査】・・・P44

①通塾させた理由、②通塾させなくなった理由、③通塾させていない理由

（3）通塾で良かったと思うこと【保護者調査、子ども調査】・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P50

①保護者の意識、②子どもの意識

（4）通塾で心配していること【保護者調査、子ども調査】 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P54

①保護者の意識、②子どもの意識

（5）塾通いの過熱化について【保護者調査】 ・・・P58

①塾通いの過熱化に対する意識、②塾通いの過熱化の背景・要因、③塾通いの過熱化により懸念される問題

3．子どもの生活習慣と学校外での学習活動との関係【子ども調査】・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P66

①起床時間、②就寝時間、③放課後の過ごし方、④休日の過ごし方

◆調査の概要

（1）目　的

　学習塾やならいごとなど、子どもの学校外での学習活動に係る実態については、これまで、昭和60年度、平成5年度には「学習塾等に関する実態調査」として、また、平成14年度には「完全学校週5日制の下での地域の教育力の充実に向けた実態・意識調査」として調査を実施。

　今回の調査は、過去に調査が実施された時代から今日に至るまでの間に、子どもの学習活動を取り巻く環境にも様々な変化が予想される中、全国調査により、子どもの学校外での学習活動に係る最新の実態や意識を把握し、今後の子どもの学習活動の充実に資する基礎資料を得ることを目的として実施。

（2）対　象

・全国の公立小学校1年生から6年生及び公立中学校1年生から3年生までの児童・生徒の「保護者」
・全国の公立小学校3年生から6年生及び公立中学校1年生から3年生までの各学年の「児童・生徒」

（3）調査方法

・対象となる各学年ごとに、全国の公立小・中学校に通う児童・生徒数の1%にあたるサンプルからの回収を目標として、市町村の人口規模に留意して調査対象市町村を設定。
・当該市町村から無作為抽出した市町村の教育委員会に対象校の選定を依頼した上で、教育委員会を通じて対象校に調査票を配付。
・当該学校にて対象となる児童・生徒に配票・回収した後、学校から直接当該学校分をまとめて調査実施主体（（財）日本システム開発研究所）に返送。

（4）調査時点

平成19年11月時点での状況

（5）調査事項（下線部は新規事項）

【保護者調査】（平成5年調査の項目を基本として、部分的に新たな内容を追加。）

・学校外での学習活動（学習塾、家庭教師、通信添削、ならいごと）の実施状況　（※）

・学習塾通いに関する意識

【児童・生徒調査】（平成5年調査及び14年調査の項目を基本に、新たな項目や内容を追加。）

・<u>学校外での学習活動（学習塾、家庭教師、通信添削、ならいごと）に対する意識</u>

・普段の生活習慣（起床時間、就寝時間、放課後や休日の過ごし方）と学校外での学習活動（学習塾、ならいごと）との関係

（※）本調査における「学習塾」及び「ならいごと」の定義は、過去の調査に準じて以下のとおりとしている。

学習塾：学校ではなく自宅外で、国語や算数等の教科の指導を行うものをいい、そろばん等のいわゆるおけいこごとは含まない

ならいごと：自宅や自宅外で、習字、そろばん、ピアノやスポーツなどの指導を受けるものいう

（6）回収サンプル数

保護者　　：67,512人（小学生：44,276人、中学生：23,236人）

児童・生徒：53,458人（小学生：30,222人、中学生：23,236人）

調査票の種類		小学校						計	中学校			計	合計
		低学年票		3～6年生票									
（調査対象）		保護者のみ		保護者と子ども両方					保護者と子ども両方				
（対象学年）		1年	2年	3年	4年	5年	6年		1年	2年	3年		
政令市	調査対象母数	214,146	213,904	218,447	215,278	214,830	210,210	1,286,815	195,180	187,784	188,457	571,421	1,858,236
	回収サンプル数	842	830	889	924	989	877	5,351	963	939	828	2,730	8,081
	最終抽出率	(0.4%)	(0.4%)	(0.4%)	(0.4%)	(0.5%)	(0.4%)	(0.4%)	(0.5%)	(0.5%)	(0.4%)	(0.5%)	(0.4%)
その他の市町村	調査対象母数	941,252	946,851	961,037	956,622	966,784	952,509	5,725,055	931,902	905,291	918,915	2,756,108	8,481,163
	回収サンプル数	6,099	6,283	6,572	6,578	6,570	6,823	38,925	7,013	6,863	6,630	20,506	59,431
	最終抽出率	(0.6%)	(0.7%)	(0.7%)	(0.7%)	(0.7%)	(0.7%)	(0.7%)	(0.8%)	(0.8%)	(0.7%)	(0.7%)	(0.7%)
合計	調査対象母数	1,155,398	1,160,755	1,179,484	1,171,900	1,181,614	1,162,719	7,011,870	1,127,082	1,093,075	1,107,372	3,327,529	10,339,399
	回収サンプル数	6,941	7,113	7,461	7,502	7,559	7,700	44,276	7,976	7,802	7,458	23,236	67,512
	最終抽出率	(0.6%)	(0.6%)	(0.6%)	(0.6%)	(0.6%)	(0.7%)	(0.6%)	(0.7%)	(0.7%)	(0.7%)	(0.7%)	(0.7%)

※「調査対象母数」は平成19年度学校基本調査（速報値）による全国の公立学校の学年別児童生徒数であり、調査票の配布数ではない。

◆過去調査との経年比較に当たっての留意点

	昭和60年調査 （児童・生徒の学校外学習活動に関する実態調査）	平成5年調査 （学習塾等に関する実態調査）	平成14年調査 （完全学校週5日制の下での地域の教育力の充実に向けた実態・意識調査）	今回調査 （子どもの学校外での学習活動に関する実態調査）
調査対象	①児童・生徒（小4～6年生、中1～3年生） ②保護者（小1～6年生、中1～3年生）	①児童・生徒（小4～6年生、中1～3年生） ②保護者（小1～6年生、中1～3年生）	①児童・生徒（小3・5・6年生、中2・3年生、高2年生） ②保護者（小2・3・5・6年生）	①児童・生徒（小3～6年生、中1～3年生） ②保護者（小1～6年生、中1～3年生）
調査項目	学校外での学習活動状況　等	学校外での学習活動状況、保護者の意識　等	学校外での学習活動状況、生活習慣　等	学校外での学習活動状況、保護者や子どもの意識、生活習慣　等
調査種類	世帯調査	世帯調査	①児童・生徒調査 ②保護者調査	①児童・生徒調査 ②保護者調査
回収状況	40,692人（小：27,309人、中：13,383人）	41,769人（小：28,207人、中：13,562人）	①59,840人（小：43,375人、中：11,482人、高：4,983人） ②57,804人（小のみ）	①53,458人（小：30,222人、中：23,236人） ②67,512人（小：44,276人、中：23,236人）

（1）調査対象の相違

昭和60年調査及び平成5年調査は世帯調査であったため、調査対象となった世帯の子どもが私立校に通っている場合も調査対象となるが、平成14年調査及び今回調査では公立学校に通う児童・生徒を対象とした調査であり、私立校に通う子どもの実態については含まれない。

（2）対象学年の相違

昭和60年調査、平成5年調査及び今回調査では、いずれも小学生全学年（子ども自身は小4～6年生（S60・H5）、小3～6年生（今回調査）、中学生全学年を対象としているのに対して、平成14年調査では、保護者調査は、小学生2・3・5・6年のみを対象とし、子ども自身への調査としては、小学生は3・5・6年の3学年、中学生は2・3年の2学年となっている。このため、「全体」や「小学生計」、「中学生計」などでの比較については、欠損する学年があるため、平成14年調査の結果は含めない。

（3）学習塾やならいごと等の指導内容についての把握方法の相違

昭和60年調査及び平成5年調査では、学習塾やならいごと等の具体的な指導内容等について把握する際、通っていた学習塾やならいごとひとつずつについて個別に調査しているが、今回調査では、それぞれ主なもの1ヶ所（又は一人）について把握したものである。このため、項目によっては直接パーセントを比較できないものもある。

（4）月謝等の経費に係る比較にあたっての留意点

上記（3）に関連し、昭和60年調査及び平成5年調査で把握されている一人あたりの経費については、通っていた学習塾やならいごとひとつずつについての月謝の合計から算出されており、1か月分の経費として集計されている。これに対し、今回調査では、主なもの1ヶ所（又は一人）に対する月謝を把握しているため、それぞれの学習活動にかかった1か月分の総支出とは異なり、過去調査の月謝等との単純な比較はできない。ただし、例えば学習塾についてみれば、通っていた箇所数が「1ヶ所」の割合は昭和60年調査では92.6%、平成5年調査では91.6%と、いずれも9割を超えており、主なもの1ヶ所について把握した今回調査の結果と、参考として概ねの傾向を比較することはできるものと考えられる。

（5）学習塾に対する意識の変化を見る上での留意点

学習塾に通わせた理由や通わせていない理由、通わせるのをやめた理由などの通塾に関わる理由や、あるいは学習塾に通わせて良かったことや心配なことなどについては、昭和60年調査、平成5年調査及び今回調査で選択肢の構成がそれぞれ異なるため、これらの比較にあたっては、全調査で共通する選択肢についてのパーセントの変化をみるにとどめ、パーセントが大きかった項目の順位は比較していない。

（6）その他の留意点

過去の各調査の結果はそれぞれの報告書に掲載されていたデータで把握されたものであるため、報告書に掲載されていないデータについては経年比較を行っていない。また、設問内容は同じであっても、選択肢が異なるため経年比較を行っていない項目もある。

◆調査結果の概要

1．学校外での学習活動全般

（1）子どもの活動状況【保護者調査（小1～中3）】

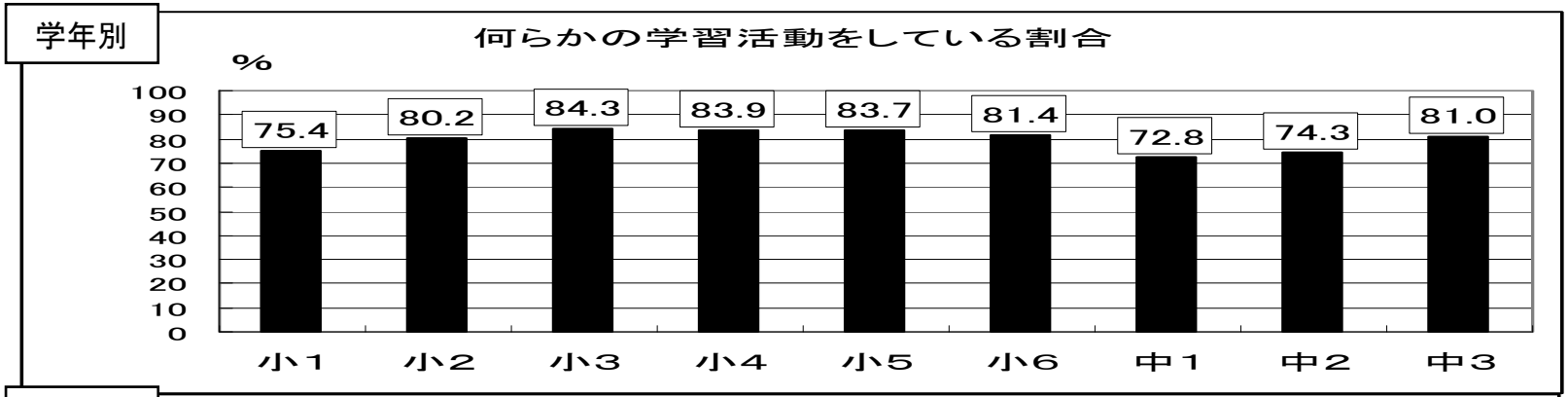
①実施状況

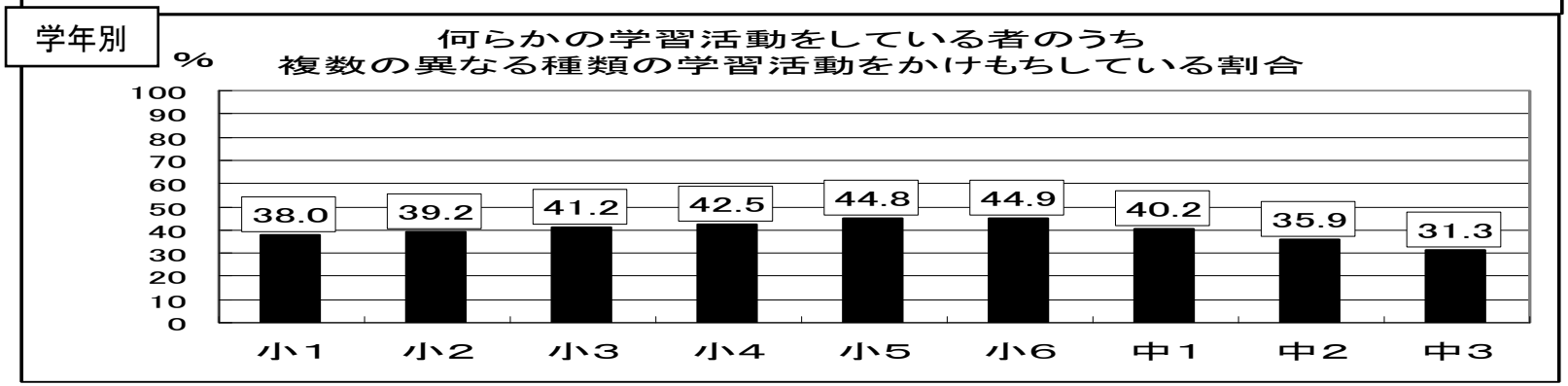
（平成19年11月中）

＜全　般＞

・学校外での何らかの学習活動（学習塾、家庭教師、通信添削、ならいごと）の実施状況は、小中全体を通じて、各学年とも概ね80%前後となっている。

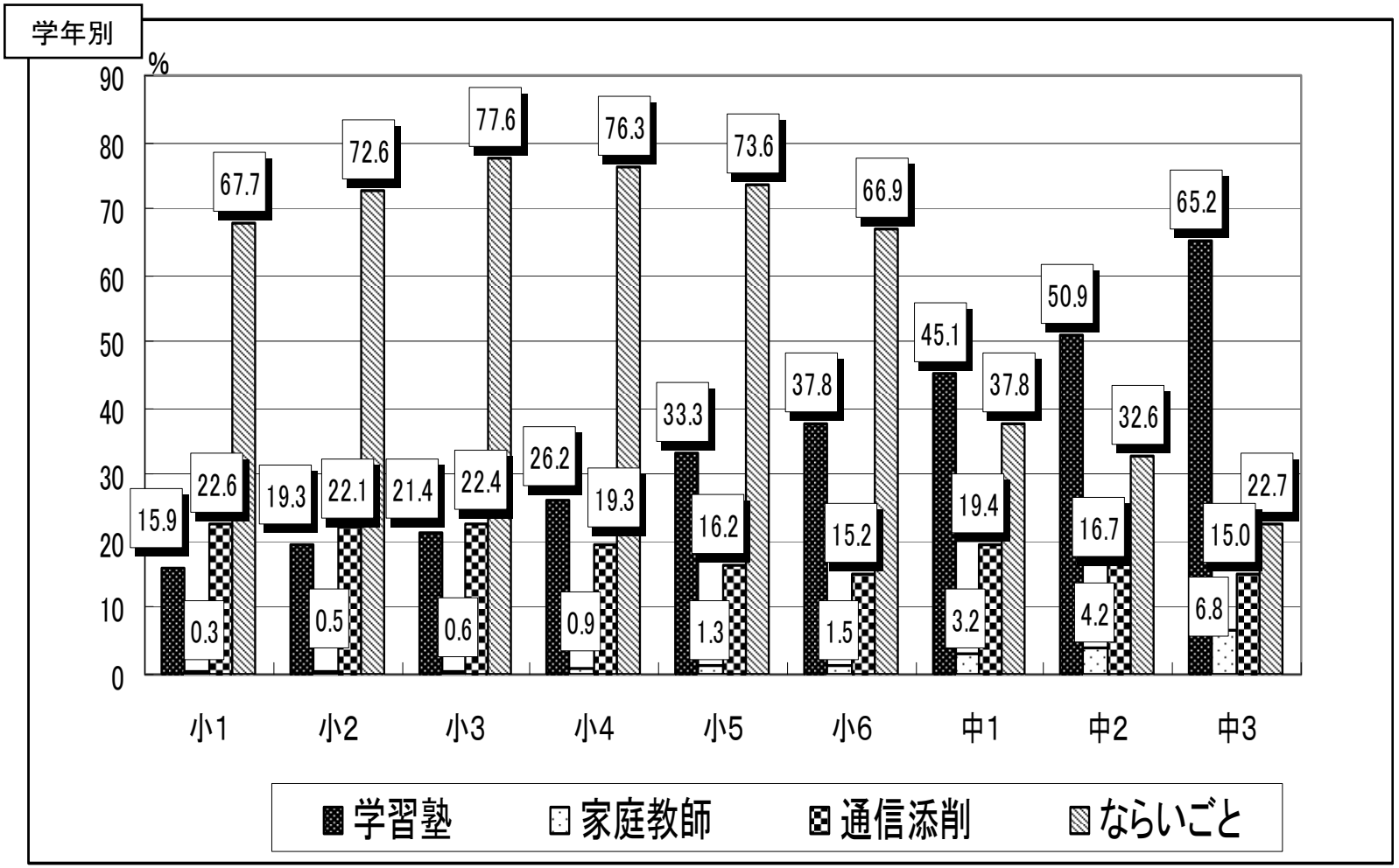
・学校外での何らかの学習活動をしている者のうち、複数の活動の実施状況は、小中全体を通じて、中学2，3年を除き40%前後。





＜学習形態別＞

・通塾率は、学年が上がるにつれて増加し、中学2年で50%を超え、中学3年では65.2%。
・家庭教師による指導割合は、各学年とも低率であるが、学年が上がるにつれて増加。
・通信添削による指導割合は、小低学年で2割を超えるが、小4から中3にかけては15～20%で推移。
・ならいごとの実施割合は、小学生では各学年とも3人に2人以上の割合で実施。



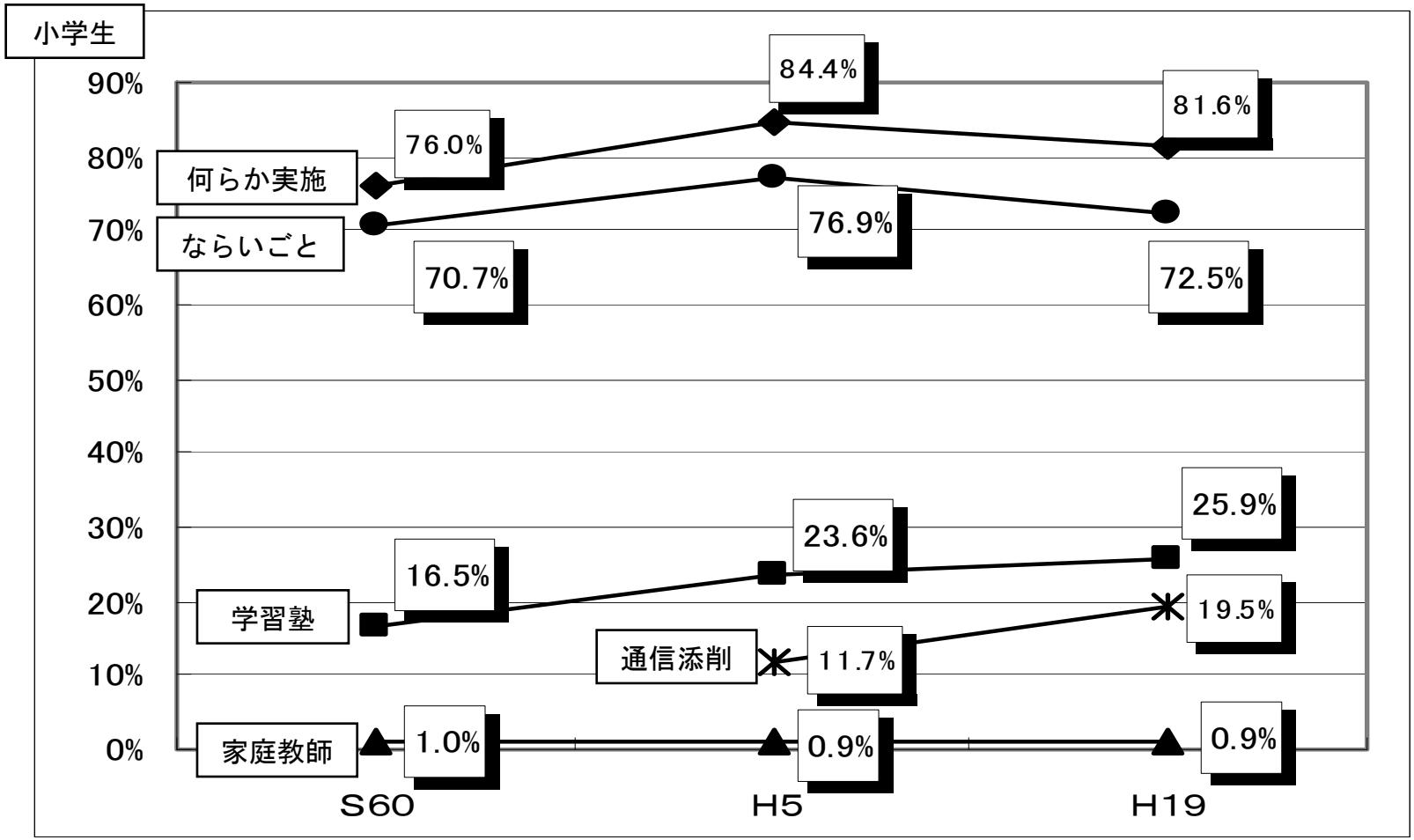
（経年比較）

＜全　般＞

【小学生全体】

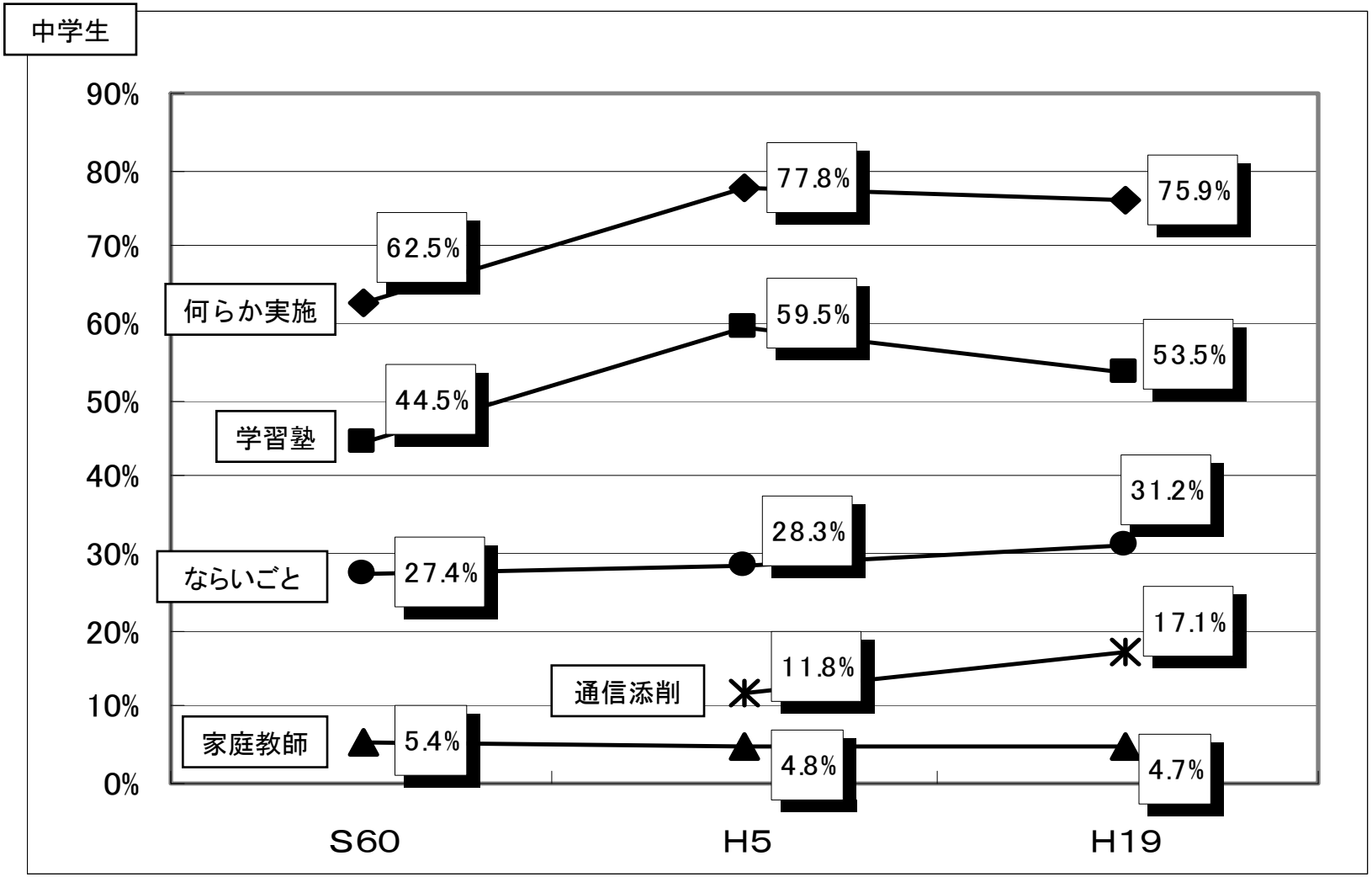
・学校外で何らかの学習活動を行っている子どもは、昭和60年調査から平成5年調査にかけて8.4ポイント上昇したが、今回調査にかけては2.8ポイント低下。

・学習形態別にみると、平成5年調査から今回調査にかけて、ならいごとによる学習が低下し、学習塾や通信添削での学習が上昇。



【中学生全体】

・学校外で何らかの学習活動を行っている子どもは、昭和60年調査から平成5年調査にかけて15.3ポイント上昇したが、今回調査にかけては1.9ポイント低下。
・学習形態別にみると、平成5年調査から今回調査にかけて、学習塾の通塾率が低下し、通信添削やならいごとの実施率が上昇している。

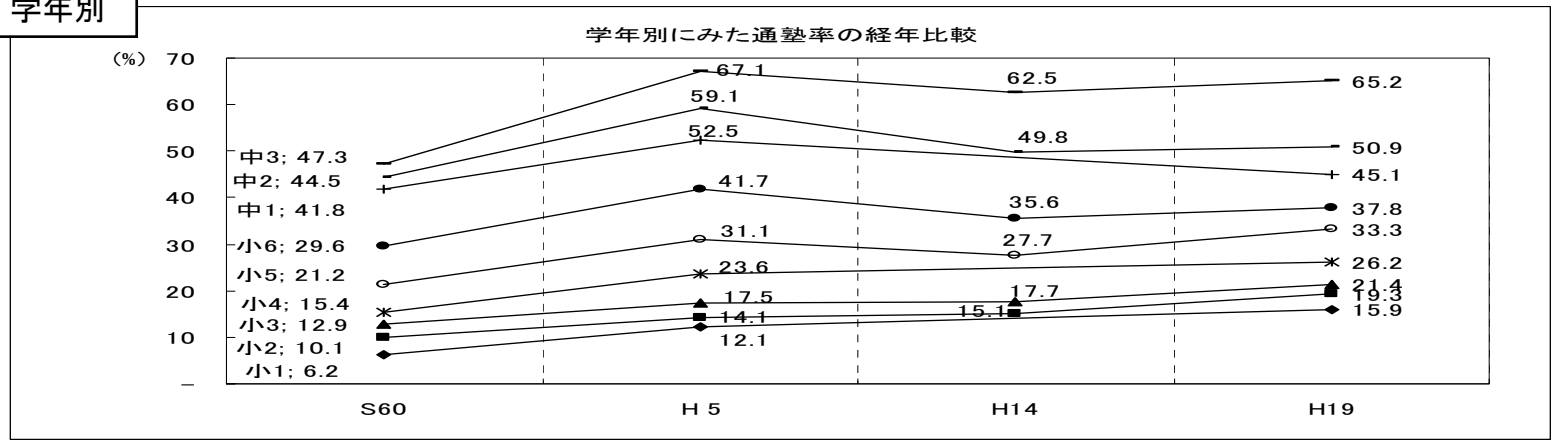


＜学習形態別＞

ア．学習塾

・昭和60年調査から平成5年調査にかけて小中ともに全学年で増加したが、平成14年調査にかけては比較可能な学年のうち、小低学年（小2,3）で増加、小高学年（小5,6）と中学生（中2,3）で減少したものの、今回調査にかけては、小中とも比較可能な全学年で増加。

学年別



イ．家庭教師

・小中全体を通じて、学年ごとにややばらつきがあるが、昭和60年調査以降、やや低下もしくは横ばいの傾向。

学年別（男女別）

	調査年	合計	小学生 計	小学生 1学年	小学生 2学年	小学生 3学年	小学生 4学年	小学生 5学年	小学生 6学年	中学生 計	中学生 1学年	中学生 2学年	中学生 3学年
計	S60	2.5	1.0	0.2	0.4	0.5	0.8	1.6	2.1	5.4	3.4	5.6	7.3
	H 5	2.3	0.9	0.2	0.3	0.5	1.4	1.2	1.8	4.8	3.2	4.7	6.6
	H19	2.2	0.9	0.3	0.5	0.6	0.9	1.3	1.5	4.7	3.2	4.2	6.8
男	S60	2.6	1.0	0.2	0.3	0.4	0.6	2.1	2.2	5.5	3.3	5.2	8.3
	H 5	2.5	1.0	0.3	0.4	0.5	1.4	0.9	2.1	5.2	4.0	4.8	6.9
	H19	2.1	0.9	0.4	0.5	0.7	0.7	1.4	1.7	4.4	3.2	3.5	6.6
女	S60	2.5	1.0	0.1	0.5	0.7	0.9	1.2	2.1	5.2	3.6	5.9	6.3
	H 5	2.1	0.9	0.2	0.2	0.5	1.3	1.4	1.5	4.4	2.4	4.5	6.4
	H19	2.2	0.8	0.2	0.5	0.5	1.0	1.2	1.4	4.9	3.1	4.8	7.0

ウ．通信添削

・小中全体を通じて、平成5年調査より、全学年で増加。

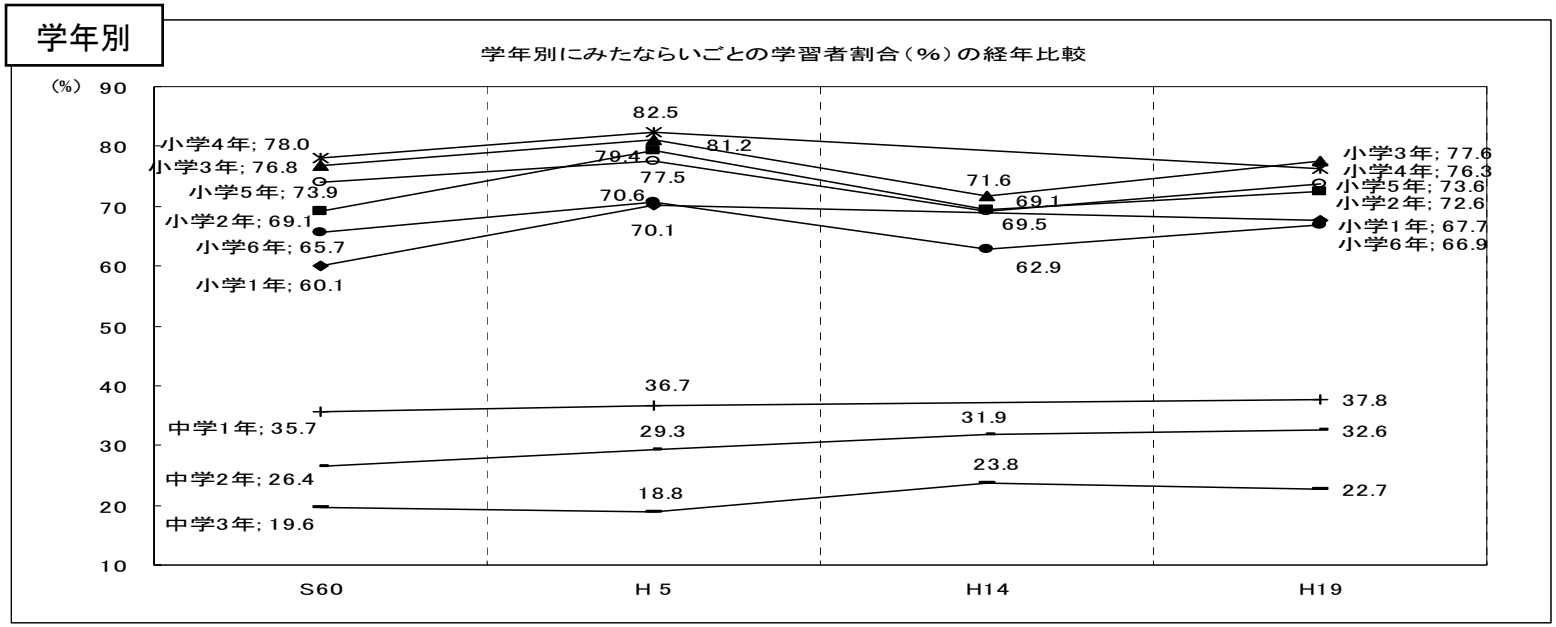
学年別（男女別）

区分	調査年	合計	小学生 計	小学生 1学年	小学生 2学年	小学生 3学年	小学生 4学年	小学生 5学年	小学生 6学年	中学生 計	中学生 1学年	中学生 2学年	中学生 3学年
計	H 5	11.7	11.7	10.1	12.6	11.2	12.3	12.5	11.4	11.8	12.2	12.0	11.2
	H19	18.7	19.5	22.6	22.1	22.4	19.3	16.2	15.2	17.1	19.4	16.7	15.0
男	H 5	10.5	11.1	9.8	11.8	11.5	12.2	11.1	9.9	9.5	9.9	9.6	9.0
	H19	16.8	18.2	21.3	21.4	21.4	17.3	15.2	12.8	14.1	16.5	13.7	11.9
女	H 5	13.1	12.4	10.5	13.5	11.0	12.4	13.9	13.0	14.3	14.6	14.6	13.6
	H19	20.6	21.0	23.9	22.9	23.5	21.2	17.2	17.6	20.0	22.2	19.7	18.1

エ．ならいごと

・平成5年調査から平成14年調査にかけては、比較可能な学年のうち、小学生（小2,3,5,6）で減少、中学生（中2,3）増加していたが、平成14年調査から今回調査にかけては、中3を除き、比較可能な全学年で増加。

学年別

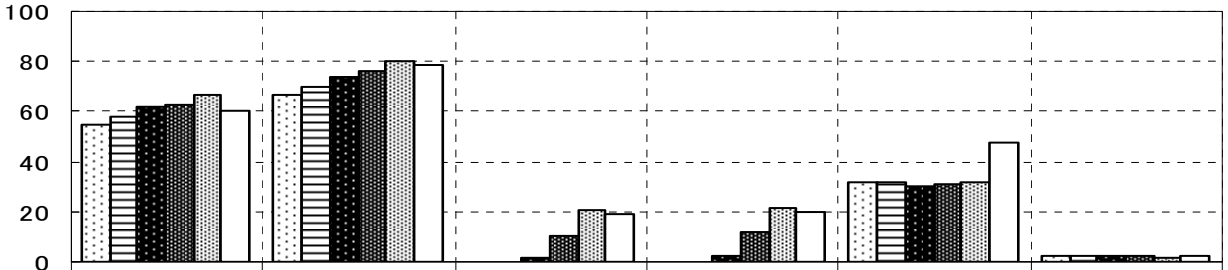


②学習教科
（平成19年11月中）
ア．学習塾

・小学生では、どの学年も「算数」「国語」の順に多く、「英語」は小学1年～5年で30%前後だが、小学6年で約5割。
・中学生では、中学2年まで「英語」「数学」に順に多く、中学3年で「数学」「英語」の順に逆転。「国語」「社会」「理科」は、中学2年までは50%未満だが、中学3年で50%を超える。

問9　学習塾①指導を受けた教科

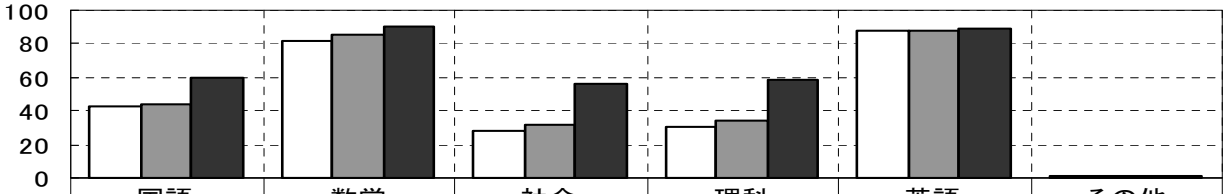
小学生



	国語	算数	社会	理科	英語	その他
小学1年(N=1102)	55.1	66.3	0.1	0.2	31.6	2.2
小学2年(N=1376)	57.9	69.5	0.1	0.2	31.8	2.4
小学3年(N=1595)	61.7	74.0	1.9	2.1	29.8	2.1
小学4年(N=1967)	62.8	76.6	10.2	11.7	30.9	2.1
小学5年(N=2518)	66.4	80.4	20.4	21.6	31.9	1.6
小学6年(N=2908)	60.6	78.8	18.9	20.0	47.7	2.2

問9　学習塾①指導を受けた教科

中学生



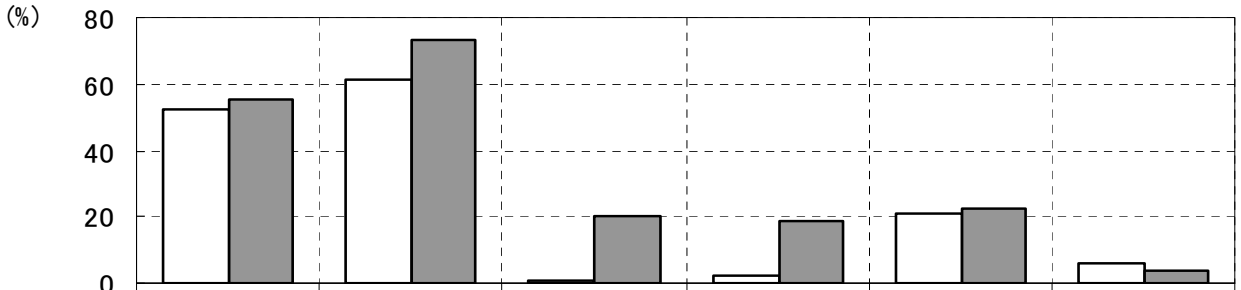
	国語	数学	社会	理科	英語	その他
中学1年(N=3596)	42.4	81.5	28.1	30.3	87.3	1.1
中学2年(N=3970)	43.8	85.5	32.3	34.4	88.2	1.1
中学3年(N=4865)	59.4	90.8	55.7	58.2	89.3	1.2

イ．家庭教師

・小学生では、低学年、高学年ともに「算数」「国語」の順に割合が高い。
・中学生では、どの学年も「数学」「英語」に順に多く、「国語」「社会」「理科」は、どの学年も3～4割前後。

問13　家庭教師①　指導を受けた教科

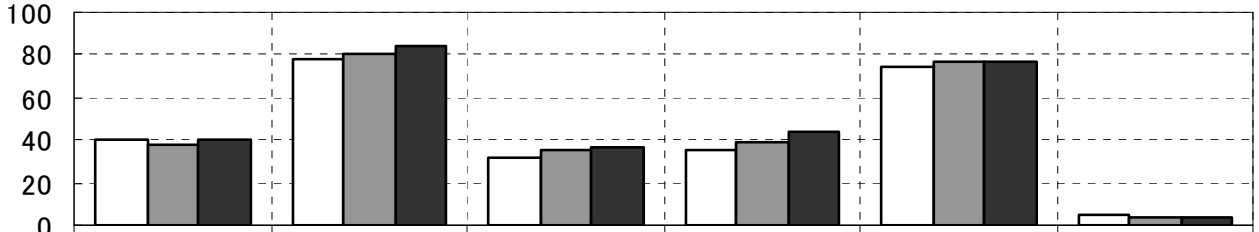
小学生



	国語	算数	社会	理科	英語	その他
□ 小学校低学年(N=101)	52.5	61.4	1.0	2.0	20.8	5.9
■ 小学校高学年 (N=281)	55.2	73.0	19.9	18.9	22.4	3.6

問13　家庭教師①指導を受けた教科

中学生



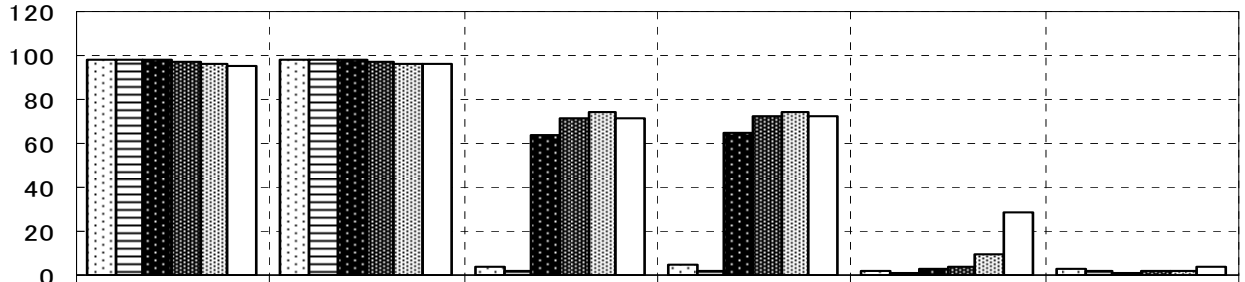
	国語	数学	社会	理科	英語	その他
□ 中学1年(N=252)	40.1	78.6	31.3	35.3	73.8	4.8
■ 中学2年(N=324)	37.3	80.6	35.2	38.6	77.2	3.4
■ 中学3年(N=506)	40.3	83.6	37.2	43.9	76.5	3.4

ウ. 通信添削

・小学生では、どの学年も「国語」「算数」がともに95%以上であり、「英語」は小学4年までは5%未満だが、小学5年で9.2%、小学6年では3割弱である。「社会」「理科」は、小学3年で6割、4年以上で7割を超える。
・中学生では、どの学年も「国語」「数学」が9割強であるが、「社会」「理科」「英語」も概ね9割弱である。

問17　通信添削①指導を受けた教科

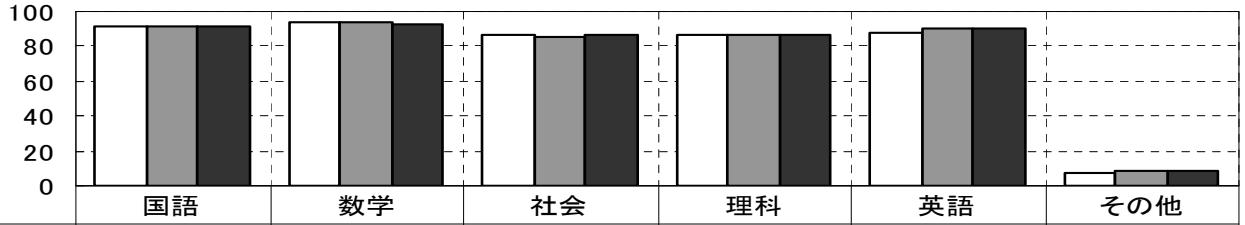
小学生



	国語	算数	社会	理科	英語	その他
小学1年(N=1569)	98.4	98.4	3.8	4.5	1.8	2.9
小学2年(N=1575)	98.1	98.2	1.5	2.2	1.3	2.3
小学3年(N=1670)	97.7	97.8	64.1	64.5	2.5	0.9
小学4年(N=1445)	96.7	96.9	71.8	72.0	3.5	1.8
小学5年(N=1223)	95.8	96.2	74.2	74.5	9.2	2.4
小学6年(N=1173)	95.4	96.0	71.8	72.0	28.4	3.7

問17　通信添削①指導を受けた教科

中学生



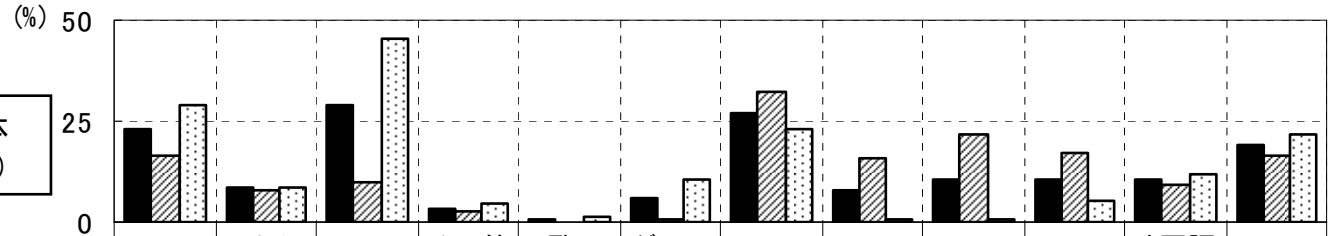
	国語	数学	社会	理科	英語	その他
中学1年(N=1545)	91.4	93.5	86.7	86.5	88.4	7.4
中学2年(N=1304)	90.9	93.5	85.9	86.3	90.3	9.1
中学3年(N=1121)	91.7	92.8	86.8	86.6	89.9	8.5

エ．ならいごと

・小中全体でみると、「水泳」、「サッカー」、「武道」といった体育・スポーツ系や、「ピアノ」、「習字」といった、いわゆる「けいこごと」などが多く、男子では体育・スポーツ系が、女子ではけいこごとが多くなっている。

問20　指導を受けた種類

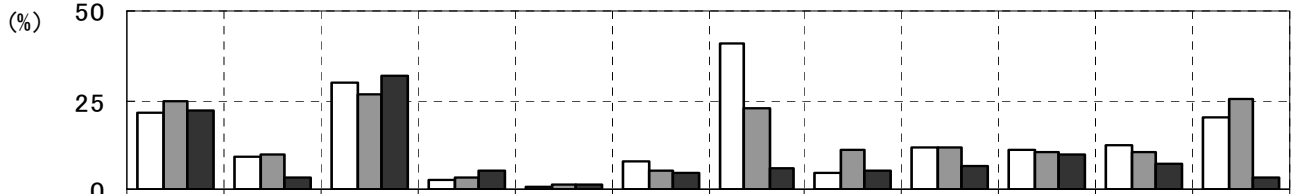
小中全体（男女別）



	習字	そろばん	ピアノ	その他の楽器	歌・合唱	ﾀﾞﾝｽ・日舞	水泳	野球	ｻｯｶｰ	武道	外国語会話	その他
■ 全体(N=39336)	22.8	8.3	29.0	3.4	0.9	6.0	27.0	7.7	10.6	10.6	10.8	19.3
▨ 男子(N=18361)	16.3	7.6	10.1	2.3	0.2	0.9	31.9	15.8	21.7	16.9	9.3	16.5
□ 女子(N=20880)	28.6	8.8	45.7	4.3	1.5	10.5	22.7	0.5	0.9	5.1	12.1	21.8

問20　指導を受けた種類

小中別

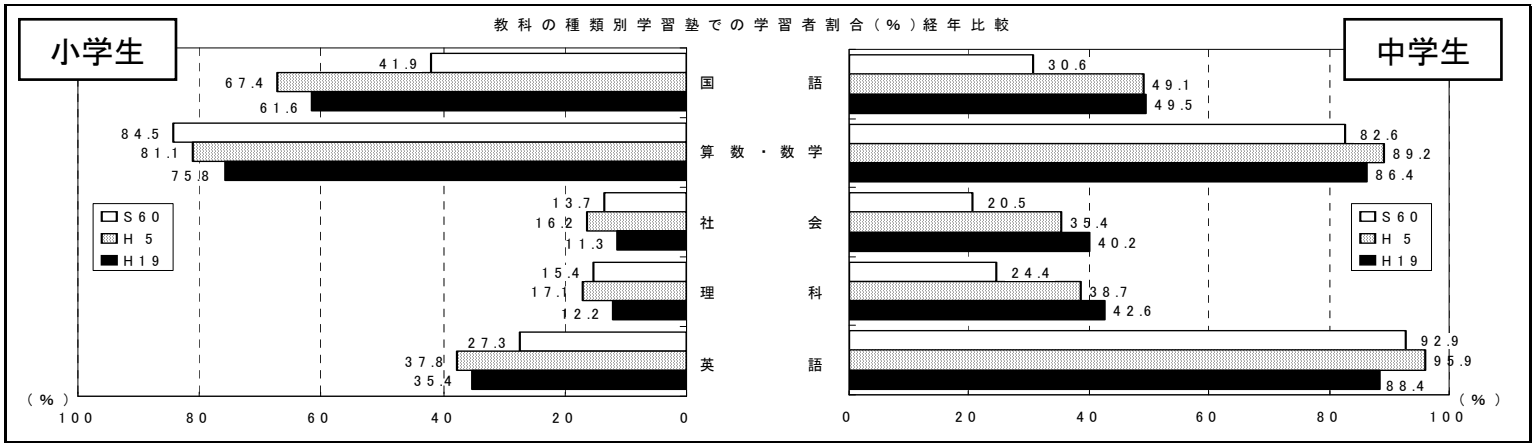


	習字	そろばん	ピアノ	その他の楽器	歌・合唱	ﾀﾞﾝｽ・日舞	水泳	野球	ｻｯｶｰ	武道	外国語会話	その他
□ 小学校低学年(N=15646)	21.4	9.0	30.0	2.6	0.8	7.5	41.1	4.8	11.7	10.8	12.6	20.5
▩ 小学校高学年(N=16440)	24.7	9.9	26.9	3.4	1.0	5.3	22.9	11.3	11.4	10.7	10.5	25.3
■ 中学生(N=7250)	21.8	2.9	31.7	4.9	1.1	4.3	5.9	5.5	6.5	10.0	7.4	3.5

（経年比較）

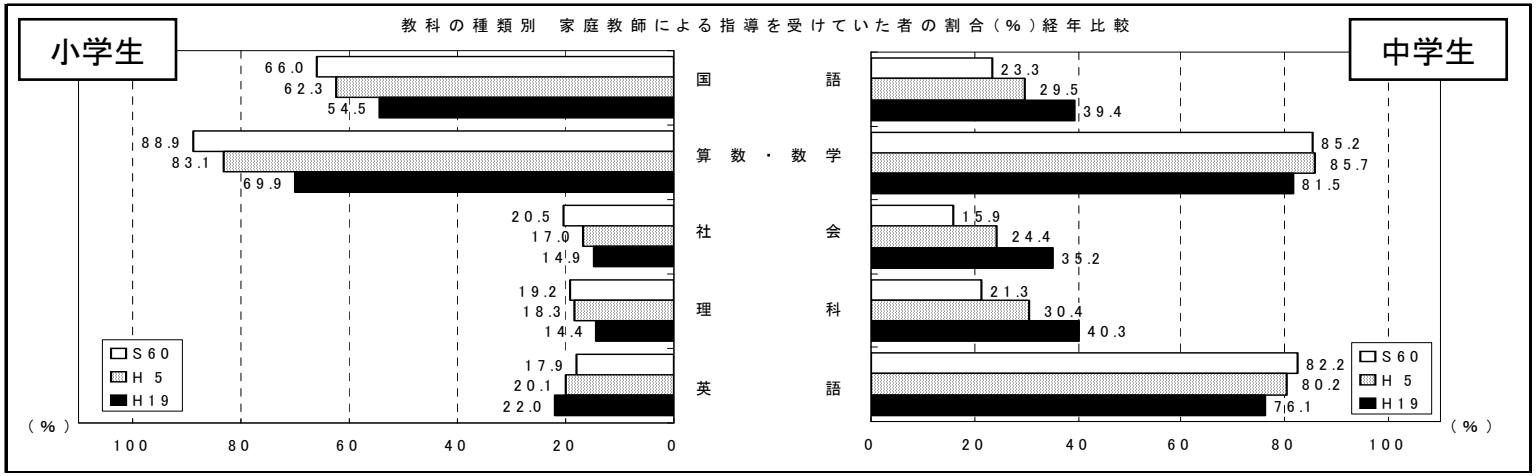
ア．学習塾

・昭和60年調査から平成5年調査にかけては、小中全体で、概ね各教科で増加したが、今回調査にかけては、小全体で各教科とも減少、中全体では「数学」「英語」で減少、「国語」「社会」「理科」で微増。



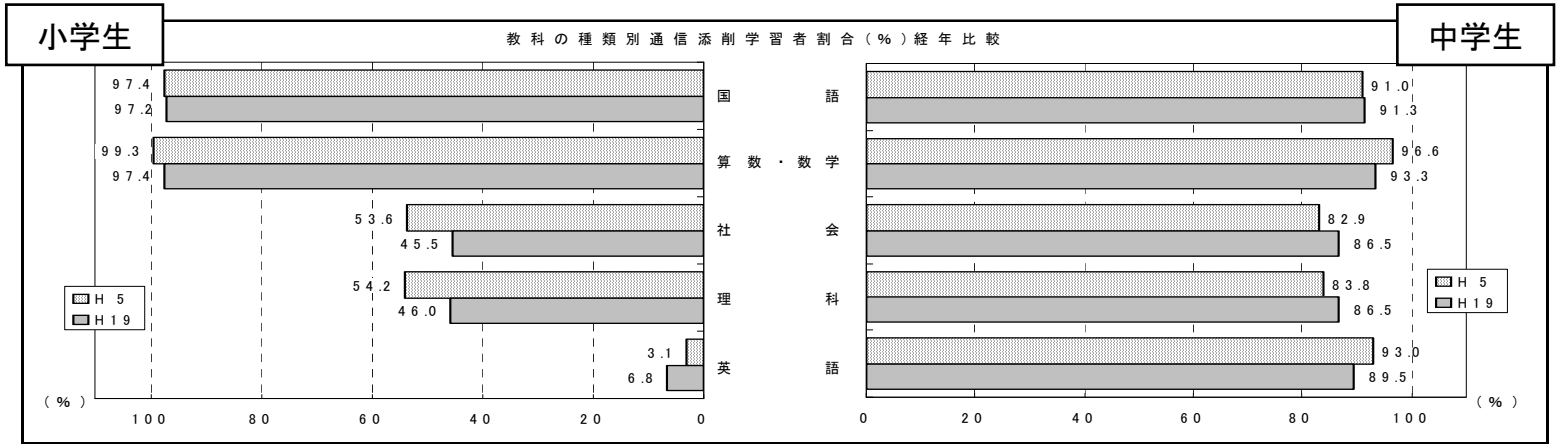
イ．家庭教師

・小全体では、調査を経るごとに、「英語」を除き、各教科とも減少。中全体では、昭和60年調査から平成5年調査にかけて「英語」を除き、各教科とも増加したが、今回調査にかけては「数学」「英語」で減少、「国語」「社会」「理科」で増加。



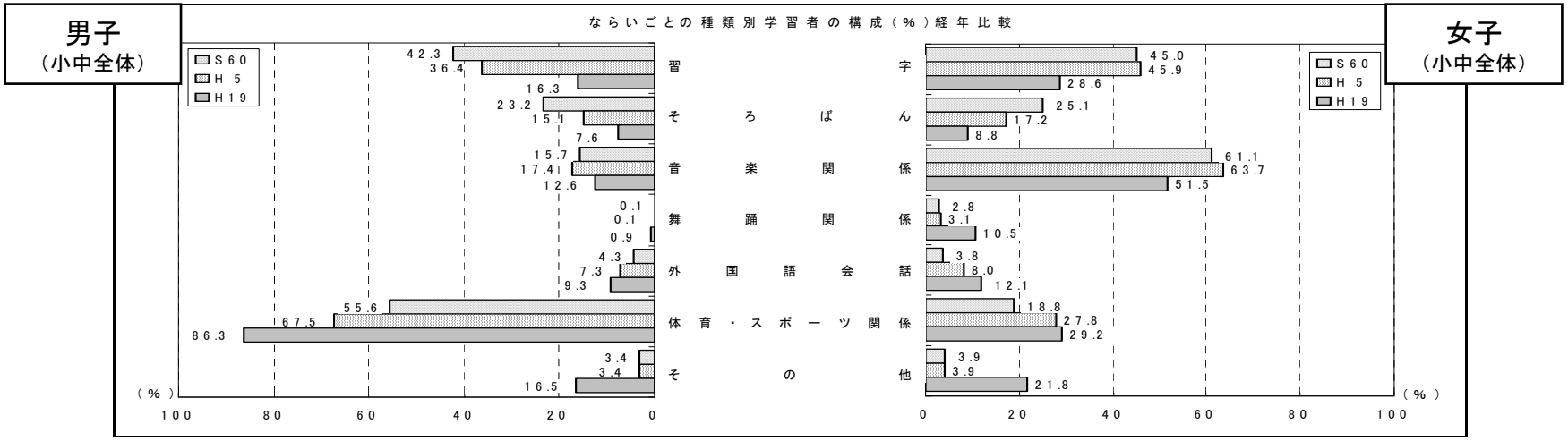
ウ. 通信添削

・小全体では、平成5年調査から今回調査にかけて、いずれも低率であるが「英語」は増加、他の科目は減少。
・中全体では、今回調査にかけて、「数学」「英語」が微減、「国語」「社会」「理科」が微増。



エ. ならいごと

・小中全体で、体育・スポーツ関係の割合が伸びている（特に男子）ほか、10%程度であるが、外国語会話や舞踏関係（特に女子）が増加。



③　指導内容

ア．学習塾

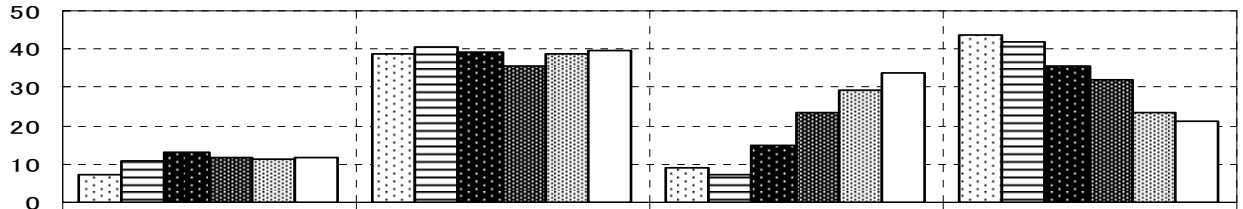
（平成19年11月中）

・小学生では、どの学年も「学校の宿題や予習・復習」が約4割と最も高い。小学5，6年では「進学準備が中心」も約3割と高く、小学6年では、33.8%。

・中学生では、「学校の宿題や予習・復習」は学年が上がるにつれて減少、「進学準備が中心」は学年が上がるにつれて増加しており、中学3年では、64.4%で中学2年の約2倍。

問9　学習塾②指導内容

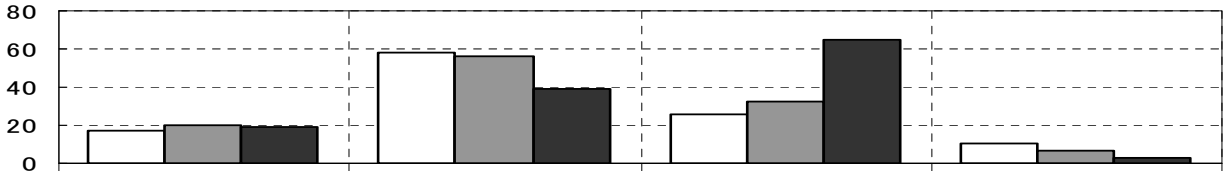
小学生



	勉強の遅れを取り戻す指導	学校の宿題や予習・復習の指導	進学準備が中心の指導	その他
小学1年(N=1102)	7.3	38.7	9.1	43.8
小学2年(N=1376)	10.8	40.3	7.4	41.9
小学3年(N=1595)	12.9	39.0	14.8	35.7
小学4年(N=1967)	11.7	35.4	23.4	31.8
小学5年(N=2518)	11.4	38.9	29.4	23.4
小学6年(N=2908)	11.8	39.7	33.8	21.1

問9　学習塾②指導内容

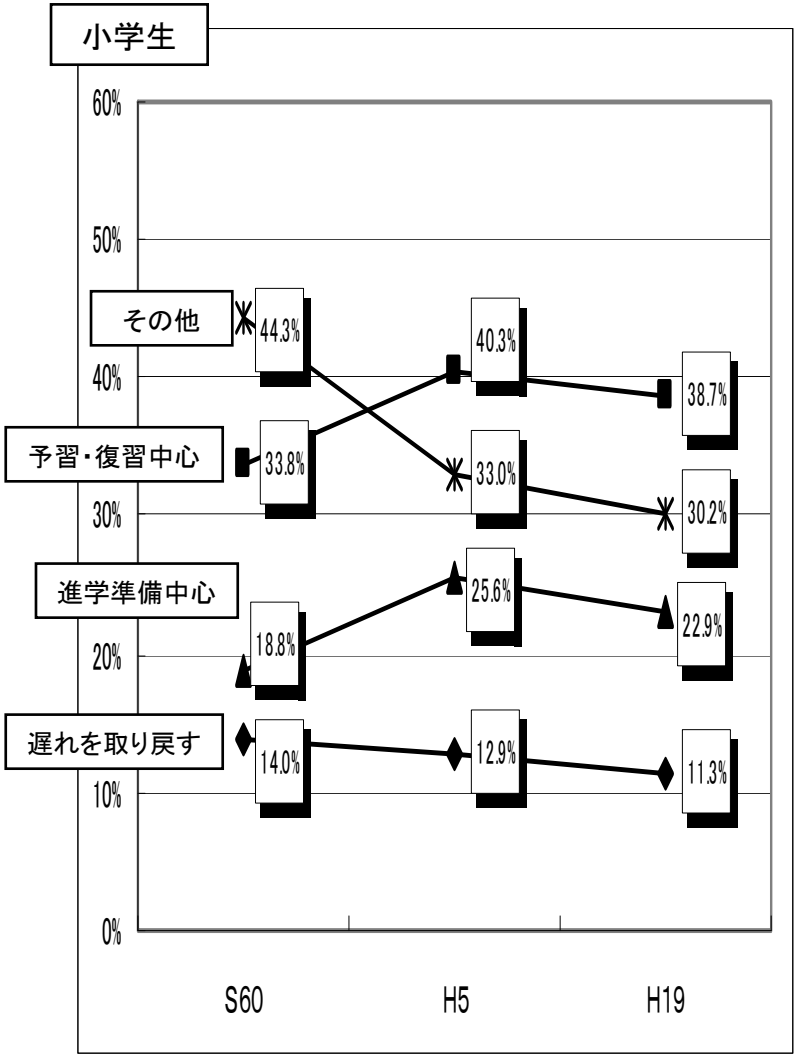
中学生

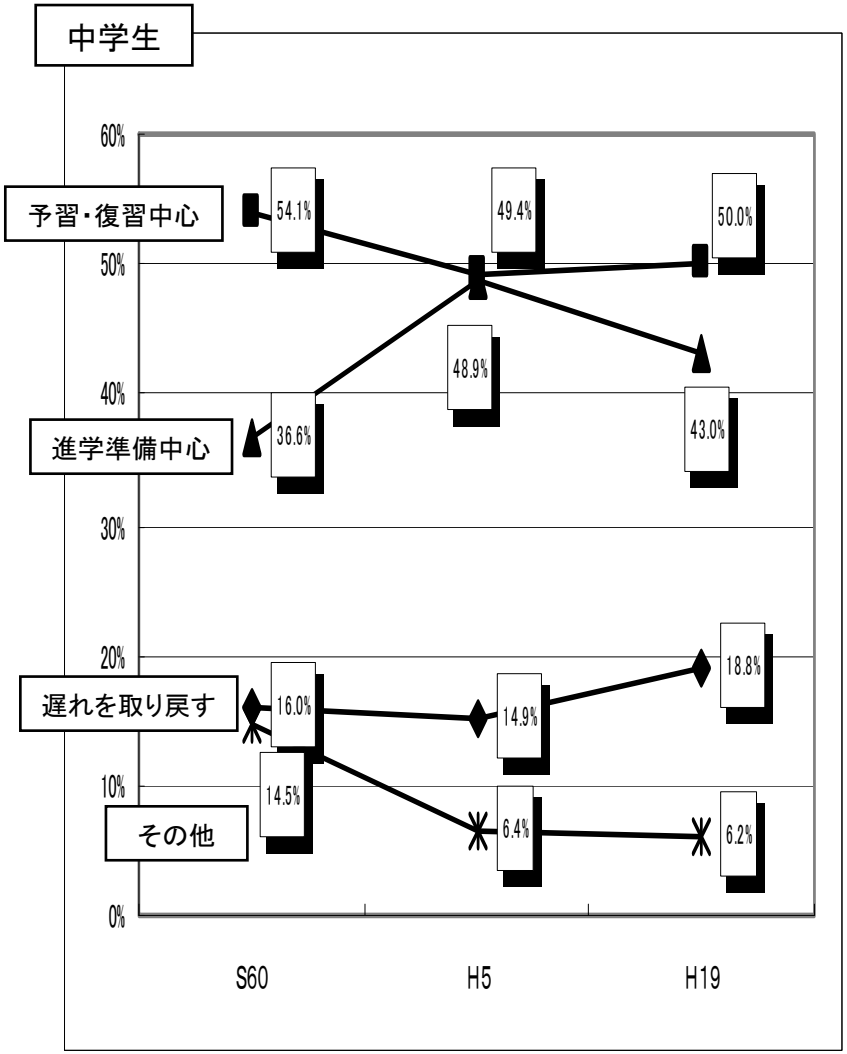


	勉強の遅れを取り戻す指導	学校の宿題や予習・復習の指導	進学準備が中心の指導	その他
中学1年(N=3596)	17.0	57.9	26.0	10.1
中学2年(N=3970)	20.0	56.3	32.3	6.2
中学3年(N=4865)	19.1	39.0	64.4	3.1

（経年比較）

・小中ともに、各調査を通じて「予習・復習中心」が概ね最大だが、「進学準備中心」は、昭和60年調査から平成5年調査にかけて増加したが、今回調査にかけては減少。（特に中学生は5.9ポイント低下）



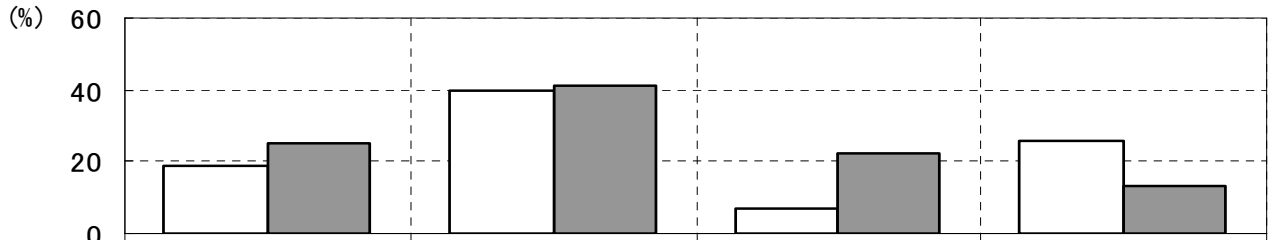


イ．家庭教師（平成19年11月中）

・小学生では、低学年、高学年ともに「学校の宿題や予習・復習」が約4割であり、「進学準備が中心」は高学年で2割強。
・中学生では、どの学年も「勉強の遅れを取り戻す」や「学校の宿題や予習・復習」が多いが、「進学準備が中心」は中学2年から中学3年にかけて約4倍に増加。

問13　家庭教師②　指導内容

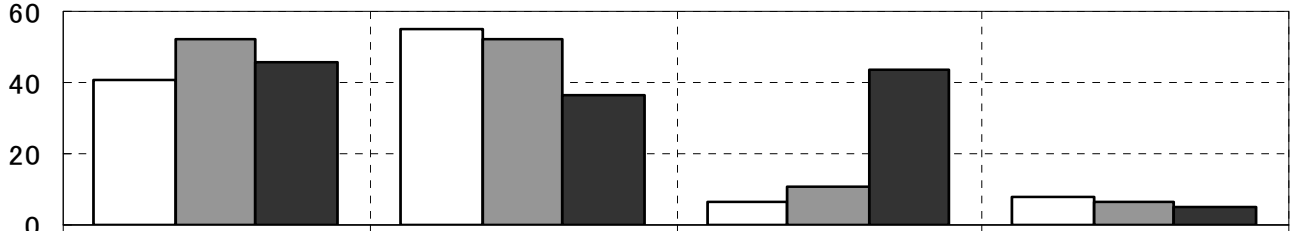
小学生



	勉強の遅れを取り戻す指導	学校の宿題や予習・復習の指導	進学準備が中心の指導	その他
□ 小学校低学年(N=101)	18.8	39.6	6.9	25.7
■ 小学校高学年 (N=281)	25.3	40.9	22.4	13.2

問13　家庭教師②指導内容

中学生



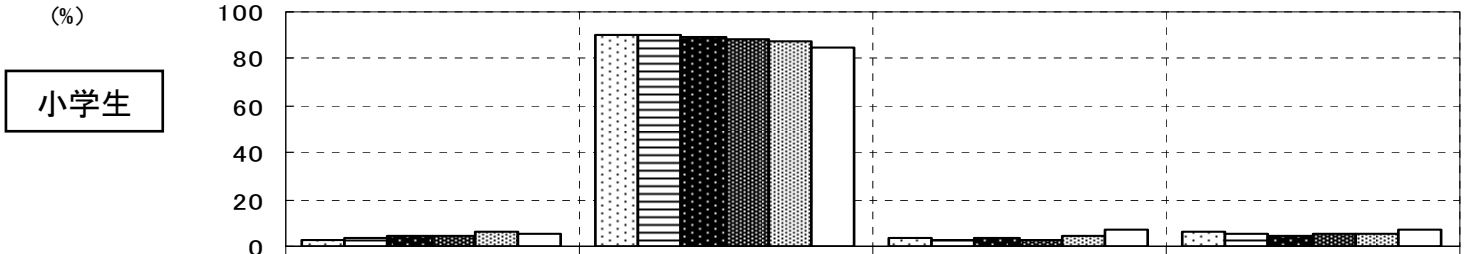
	勉強の遅れを取り戻す指導	学校の宿題や予習・復習の指導	進学準備が中心の指導	その他
□ 中学1年(N=252)	40.9	54.8	6.7	7.9
■ 中学2年(N=324)	51.9	52.2	10.8	6.5
■ 中学3年(N=506)	45.8	36.4	43.7	4.9

ウ．通信添削（平成19年11月中）

・小中全体を通じて、どの学年も「学校の宿題や予習・復習」が最も高い（小学生では概ね9割弱）が、中学生では、その割合は学年が上がるにつれて減少し、逆に「進学準備が中心」が増加し、中学3年では約5割となっている。

問17　通信添削②指導内容

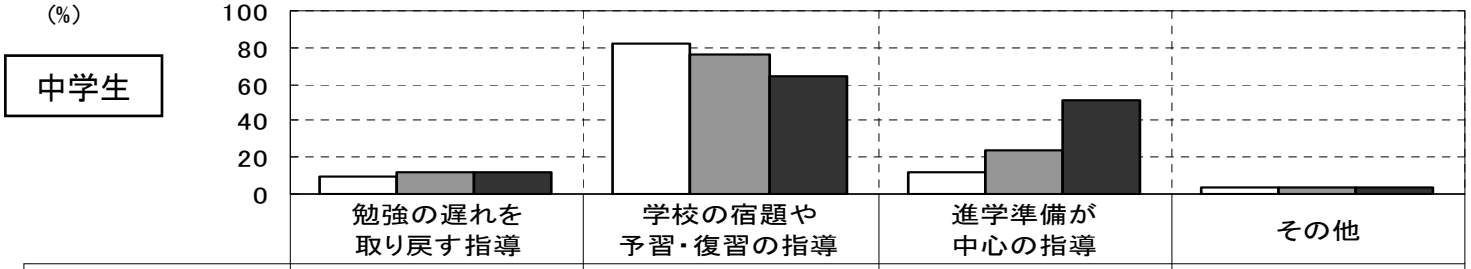
小学生



	勉強の遅れを取り戻す指導	学校の宿題や予習・復習の指導	進学準備が中心の指導	その他
小学1年(N=1569)	3.1	90.1	3.8	5.9
小学2年(N=1575)	3.2	90.3	2.6	5.8
小学3年(N=1670)	4.4	89.5	3.5	4.5
小学4年(N=1445)	4.8	88.6	3.0	5.7
小学5年(N=1223)	6.4	87.5	4.3	5.2
小学6年(N=1173)	5.5	84.4	7.5	6.9

問17　通信添削②指導内容

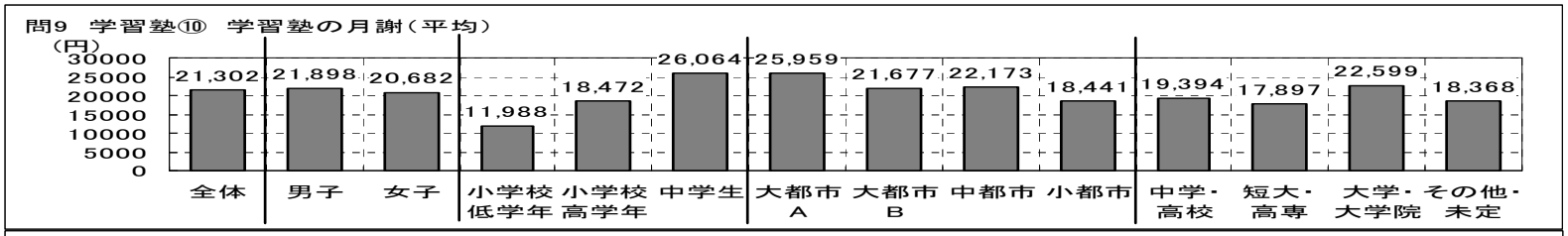
中学生

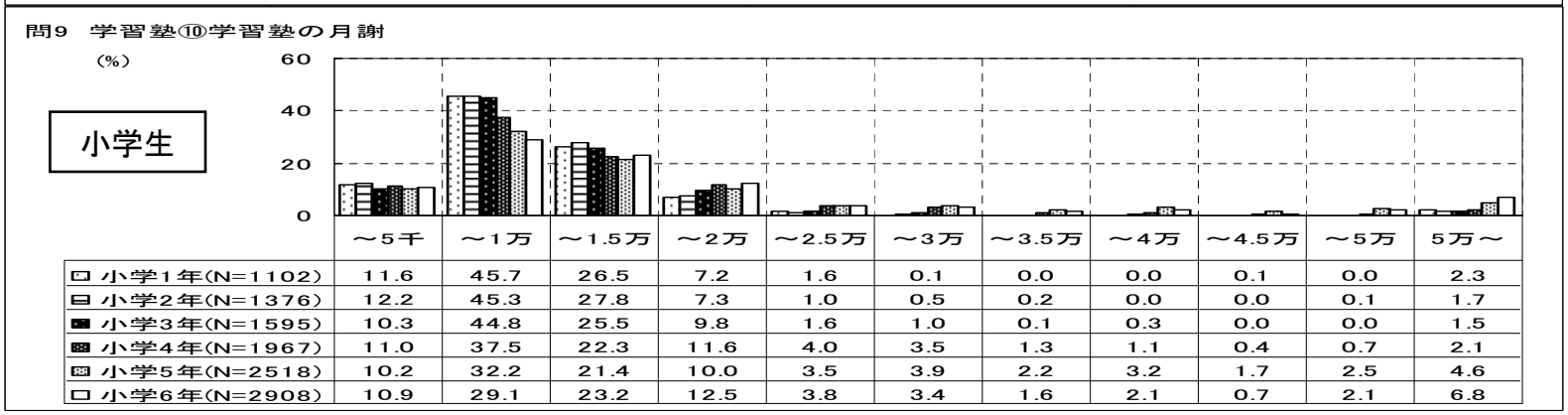


	勉強の遅れを取り戻す指導	学校の宿題や予習・復習の指導	進学準備が中心の指導	その他
中学1年(N=1545)	9.9	81.6	11.7	3.9
中学2年(N=1304)	12.1	75.8	23.9	4.1
中学3年(N=1121)	11.3	64.0	50.9	3.0

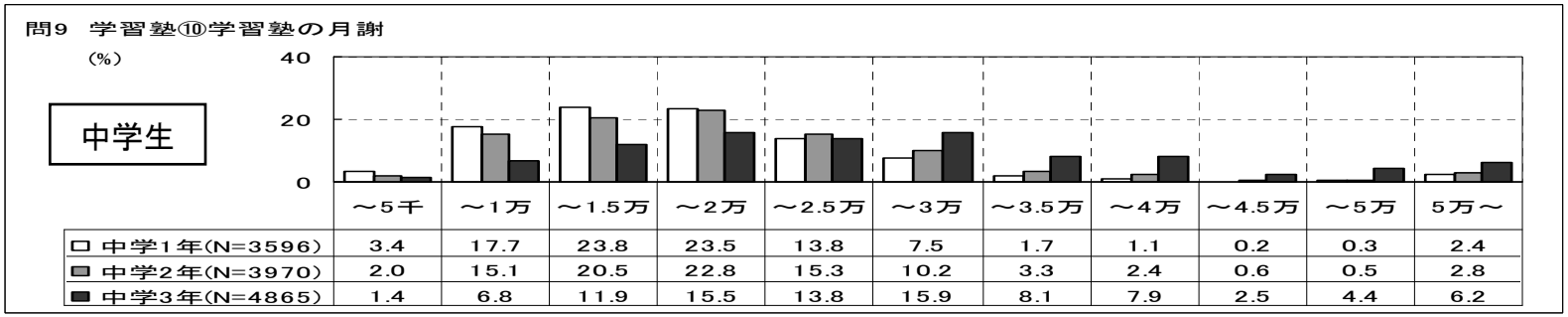
④平均月謝
（平成19年11月中）
ア．学習塾

・小学生では、低学年平均で11,988円、高学年平均で18,472円。区分別では、どの学年も「5,001円～10,000円」が最も多く、低学年では45%前後となっている。
・中学生では、全体平均で26,064円。区分別では、中学1年で「10,001円～15,000円」、中学2年で「15,001円～20,000円」、中学3年で「25,001円～30,000円」が最も多い。





	～5千	～1万	～1.5万	～2万	～2.5万	～3万	～3.5万	～4万	～4.5万	～5万	5万～
小学1年(N=1102)	11.6	45.7	26.5	7.2	1.6	0.1	0.0	0.0	0.1	0.0	2.3
小学2年(N=1376)	12.2	45.3	27.8	7.3	1.0	0.5	0.2	0.0	0.0	0.1	1.7
小学3年(N=1595)	10.3	44.8	25.5	9.8	1.6	1.0	0.1	0.3	0.0	0.0	1.5
小学4年(N=1967)	11.0	37.5	22.3	11.6	4.0	3.5	1.3	1.1	0.4	0.7	2.1
小学5年(N=2518)	10.2	32.2	21.4	10.0	3.5	3.9	2.2	3.2	1.7	2.5	4.6
小学6年(N=2908)	10.9	29.1	23.2	12.5	3.8	3.4	1.6	2.1	0.7	2.1	6.8

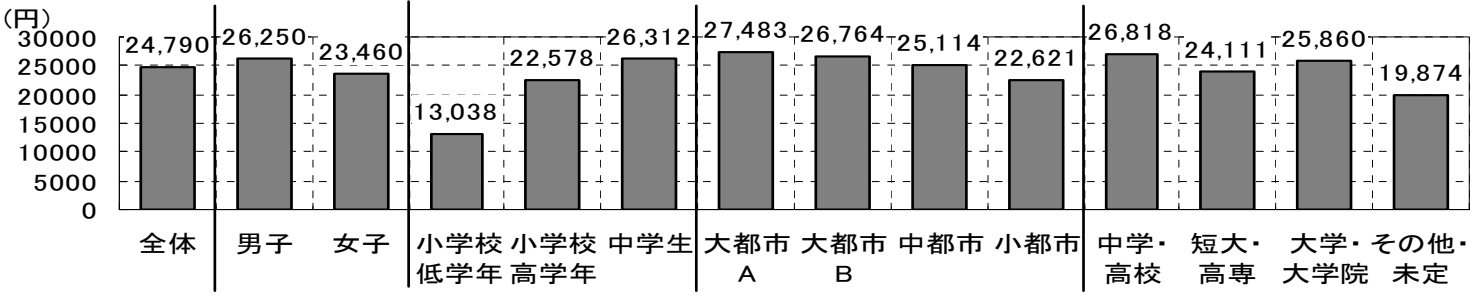


	～5千	～1万	～1.5万	～2万	～2.5万	～3万	～3.5万	～4万	～4.5万	～5万	5万～
中学1年(N=3596)	3.4	17.7	23.8	23.5	13.8	7.5	1.7	1.1	0.2	0.3	2.4
中学2年(N=3970)	2.0	15.1	20.5	22.8	15.3	10.2	3.3	2.4	0.6	0.5	2.8
中学3年(N=4865)	1.4	6.8	11.9	15.5	13.8	15.9	8.1	7.9	2.5	4.4	6.2

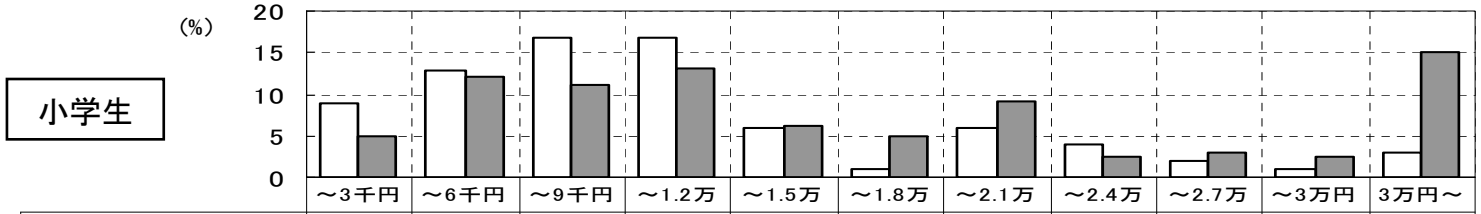
イ．家庭教師

・小学生では、低学年平均で13,038円、高学年平均で22,578円。区分別では、高学年で「30,001円以上」が最大。
・中学生では、全体平均で26,312円。区分別では、中学1，2年で「9,001円～12,000円」、中学3年では「30,001円以上」が最も多い。

問13　家庭教師⑦　家庭教師の月謝（平均）

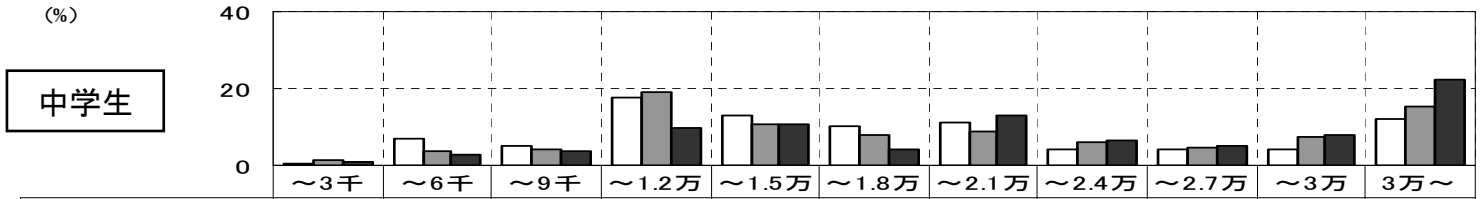


問13　家庭教師⑦　家庭教師の月謝



	～3千円	～6千円	～9千円	～1.2万	～1.5万	～1.8万	～2.1万	～2.4万	～2.7万	～3万円	3万円～
□ 小学校低学年(N=101)	8.9	12.9	16.8	16.8	5.9	1.0	5.9	4.0	2.0	1.0	3.0
■ 小学校高学年 (N=281)	5.0	12.1	11.0	13.2	6.0	5.0	9.3	2.5	2.8	2.5	14.9

問13　家庭教師⑦家庭教師の月謝

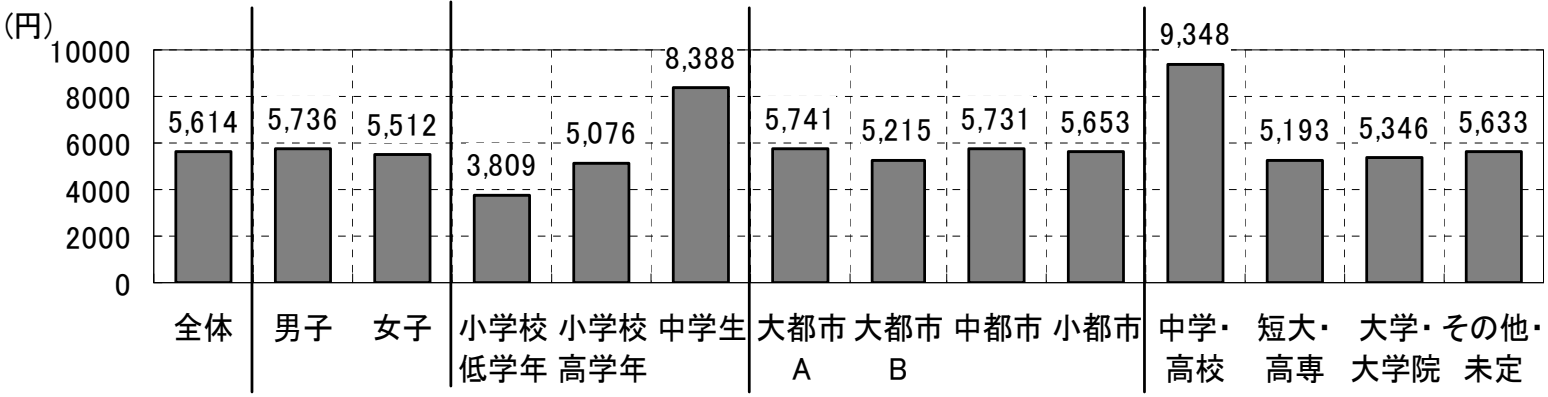


	～3千	～6千	～9千	～1.2万	～1.5万	～1.8万	～2.1万	～2.4万	～2.7万	～3万	3万～
□ 中学1年(N=252)	0.4	7.1	5.2	17.9	13.1	10.3	11.1	4.4	4.0	4.0	12.3
■ 中学2年(N=324)	1.5	3.7	4.3	19.1	10.5	7.7	9.0	6.2	4.6	7.4	15.1
■ 中学3年(N=506)	0.8	2.6	4.0	9.7	10.7	4.2	13.0	6.3	5.1	7.9	22.5

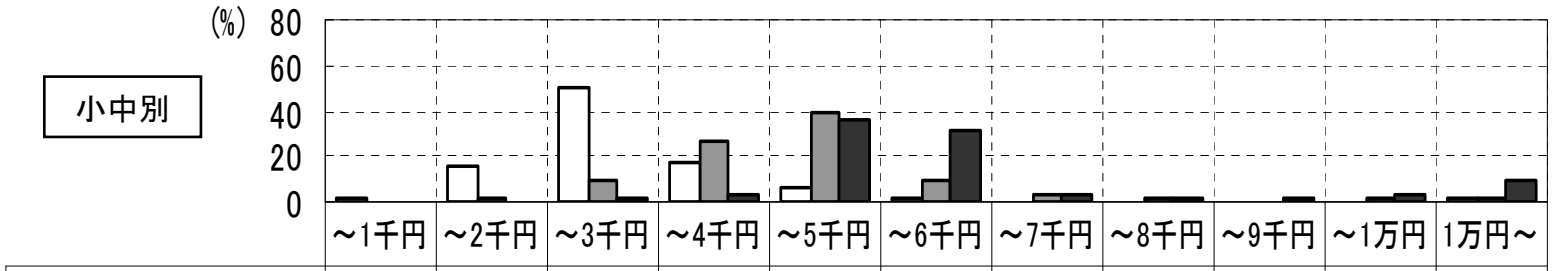
ウ. 通信添削

・小学生では、低学年平均で3,809円、高学年平均で5,076円。区分別では、低学年で「2,001円～3,000円」が約5割、高学年では「4,001円～5,000円」が約4割となっている。
・中学生では、全体平均で8,388円。区分別では、「4,001円～5,000円」が最大。

問17 通信添削⑦ 通信添削の月謝（平均）



問17 通信添削⑦ 通信添削の月謝

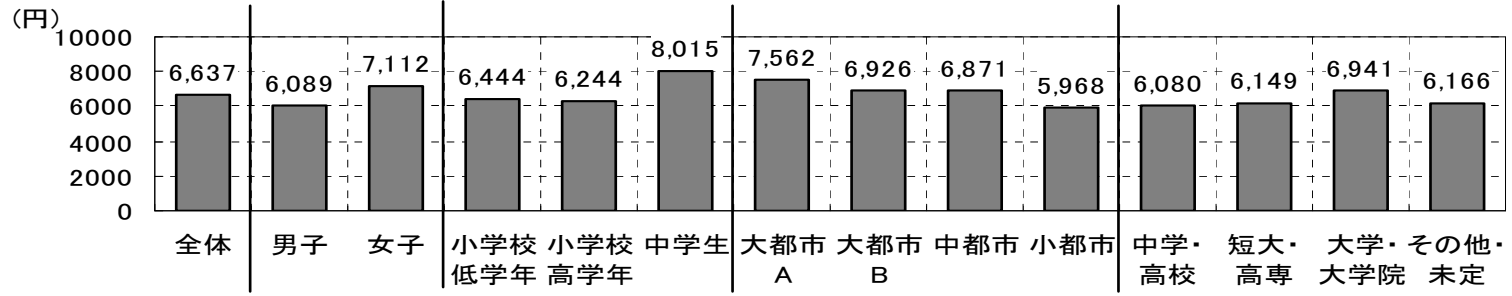


	～1千円	～2千円	～3千円	～4千円	～5千円	～6千円	～7千円	～8千円	～9千円	～1万円	1万円～
□ 小学校低学年(N=4814)	1.4	15.2	49.9	17.1	6.1	1.4	0.7	0.5	0.1	0.4	1.4
■ 小学校高学年(N=3841)	0.8	2.3	9.6	27.1	38.6	8.7	2.4	0.9	0.5	0.9	1.8
■ 中学生(N=3970)	0.1	0.4	1.5	3.9	36.7	31.0	2.6	1.9	1.2	3.7	9.0

エ．ならいごと

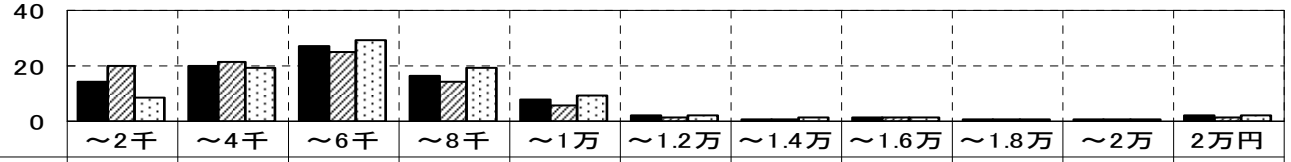
・小中全体の平均で、男子では6,089円に対し、女子では7,112円。小学生では、低学年平均で6,444円、高学年平均で6,244円であり、中学生では、全体平均で8,015円。
・区分別では、小中全体で、男女とも「4,001円～6,000円」が最大。

問22　ならいごと⑧　ならいごとの月謝（平均）



問22　ならいごと⑧　ならいごとの月謝

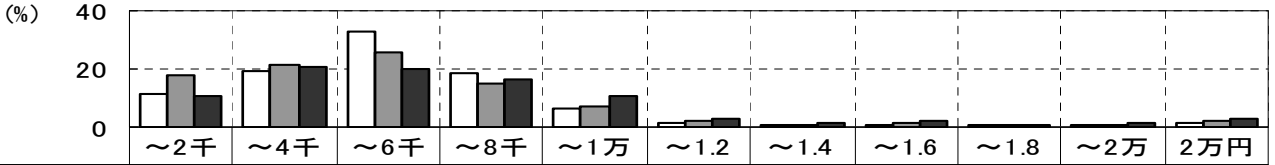
小中全体（男女別）



	～2千	～4千	～6千	～8千	～1万	～1.2万	～1.4万	～1.6万	～1.8万	～2万	2万円
■ 全体(N=39336)	14.1	20.3	27.4	16.8	7.6	2.0	1.0	1.2	0.5	0.8	2.0
▨ 男子(N=18361)	20.1	21.1	25.3	14.1	5.7	1.6	0.8	1.2	0.4	0.7	1.7
□ 女子(N=20880)	8.8	19.6	29.4	19.1	9.2	2.4	1.2	1.2	0.7	1.0	2.3

問22　ならいごと⑧　ならいごとの月謝

小中別



	～2千	～4千	～6千	～8千	～1万	～1.2	～1.4	～1.6	～1.8	～2万	2万円
□ 小学校低学年(N=15646)	11.5	19.0	33.2	18.9	6.6	1.6	0.7	1.0	0.5	0.6	1.5
■ 小学校高学年(N=16440)	18.0	21.6	25.4	14.8	7.2	2.0	1.0	1.1	0.6	0.8	1.9
■ 中学生(N=7250)	10.8	20.4	19.7	16.6	10.6	3.2	1.4	1.9	0.6	1.4	3.1

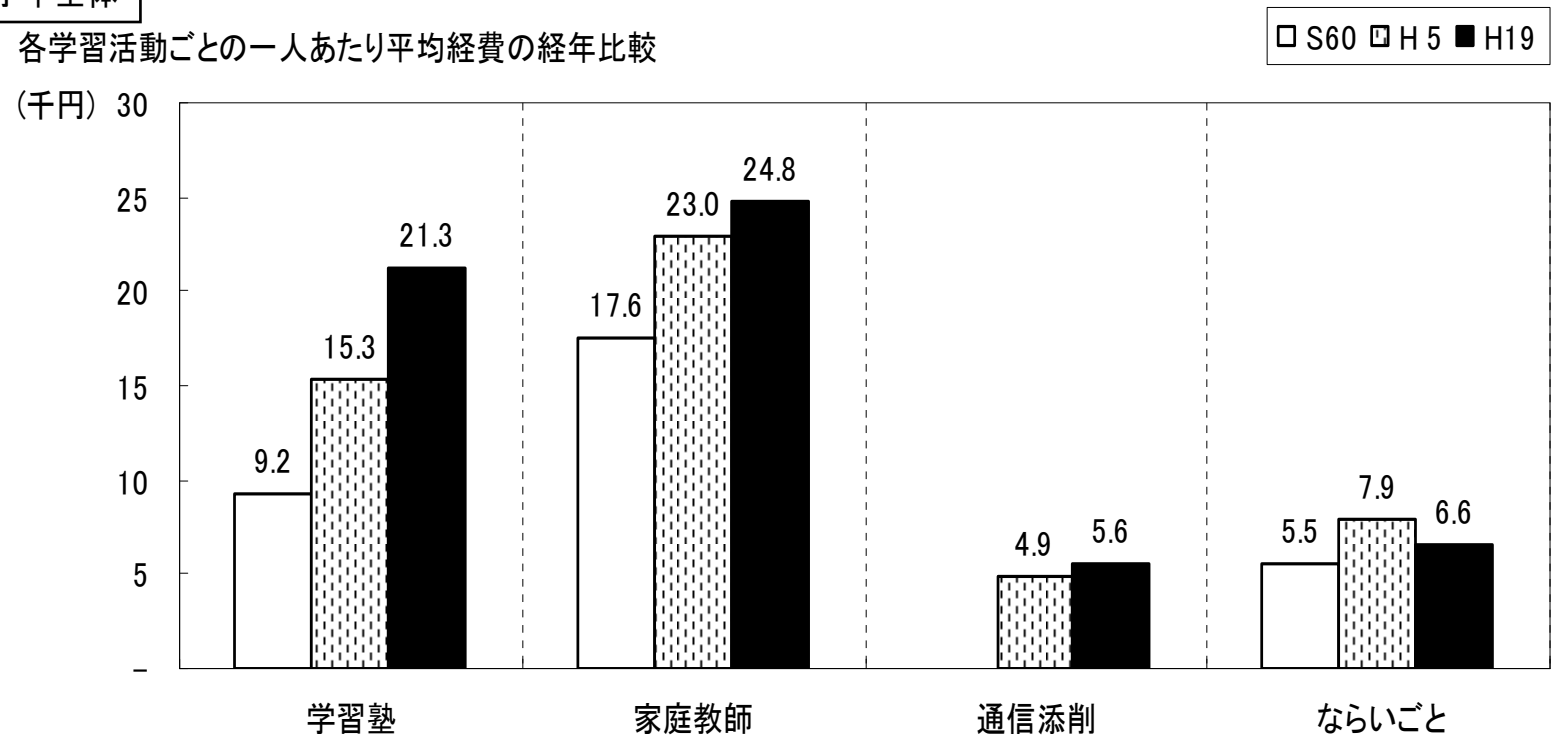
（経年比較）

ア．学習形態別

・学習塾、家庭教師、通信添削は、小中全体で、調査を経るごとに高額になっており、昭和60年調査から今回調査にかけては、学習塾では1万円以上、家庭教師では7千円以上の増額。

小中全体

各学習活動ごとの一人あたり平均経費の経年比較



○　昭和60年調査・平成5年調査の経費は複数ヶ所での学習活動を全て含めたものであり、今回調査ではそれぞれ主なもの1ヶ所（又は一人）に対する月謝から集計しているため、比較する上では留意（特に「ならいごと」）する必要がある。（※「ならいごと」の平均実施数は、S60：1.5、H5：1.7、H19：1.6）

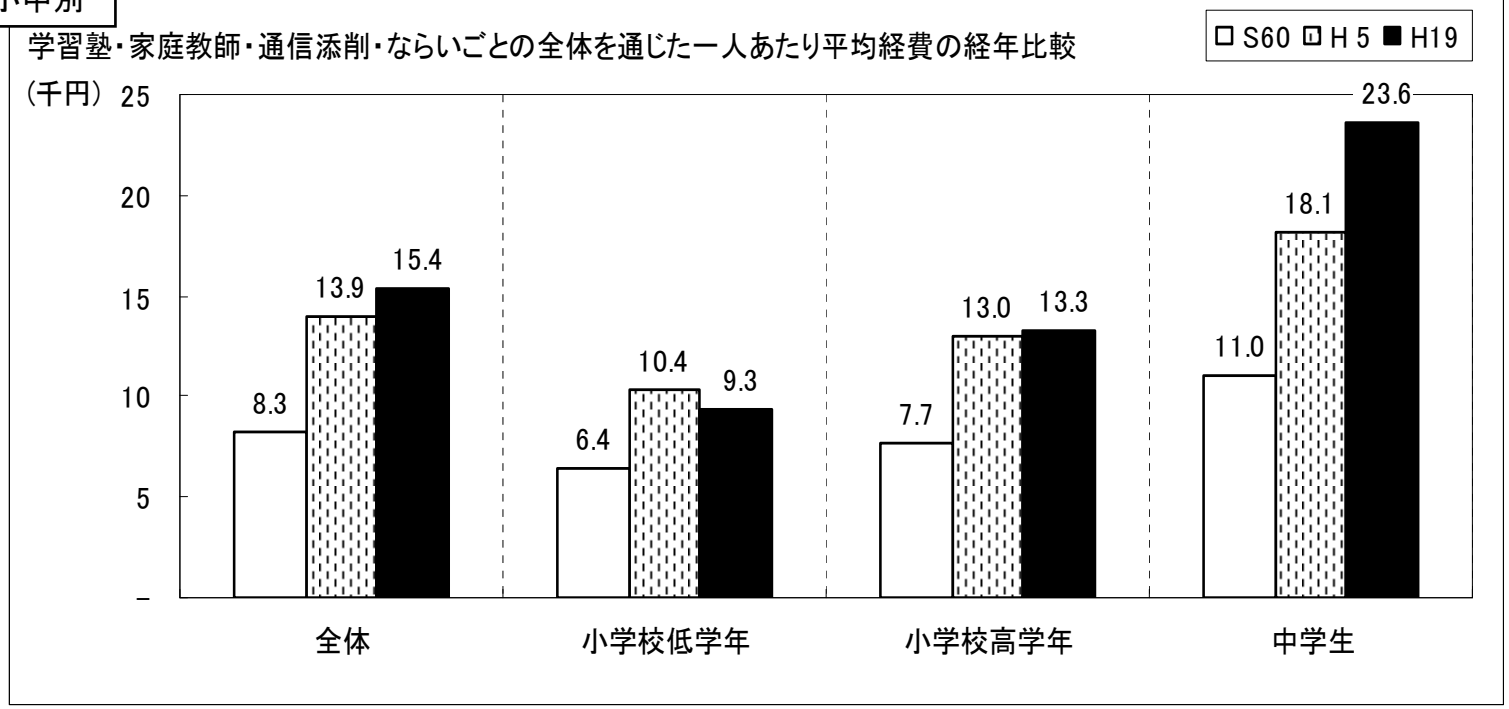
○　また、ここでの比較は、アンケートから得られた回答から集計したものであり、過去調査から今回調査までの間の物価変動や平均年収の推移等を加味したものではない。

イ．全　体

・平成19年11月中にいずれか1種類以上の活動をしている子ども一人当たりの平均経費をみると、小低学年で平均9,300円、小高学年で平均13,300円、中学生では平均23,600円であり、中学生では小低学年の2倍以上。
・経年でみると、特に、中学生平均では、昭和60年調査時の11,000円から今回調査では23,600円と2倍以上に増加。

小中別

学習塾・家庭教師・通信添削・ならいごとの全体を通じた一人あたり平均経費の経年比較



○　昭和60年調査・平成5年調査の経費は複数ヶ所での学習活動を全て含めたものであり、今回調査ではそれぞれ主なもの1ヶ所（又は一人）に対する月謝から集計しているため、比較する上では留意（特に「ならいごと」）する必要がある。
○　また、ここでの比較は、アンケートから得られた回答から集計したものであり、過去調査から今回調査までの間の物価変動や平均年収の推移等を加味したものではない。

⑤　その他

ア．学習塾

・平成19年11月中に通っていた学習塾の箇所数は、小中全体で9割近くが「1ヶ所」。

・小中全体で、平成19年11月ひと月での通塾回数は平均9.0回であり、1日あたりの平均指導時間は「1～2時間未満」が49.4%と約半数。学年区分別では、学年層が上がるにつれて1日あたりの指導時間も長くなる傾向。

・学習塾への往復に要する時間は、小中全体で「30分以内」が90.2%となっている。

・学習塾から帰宅する時刻は、小中全体では22時以降が23.0%、21時台が20.0%と多く、学年が上がるにつれて帰宅時間も遅い。

・経年では、小中全体で、1日あたりの指導時間は長時間化している傾向がみられ、また、往復に要する時間はやや短縮されているが、帰宅時間については特に中学生で遅くなっている傾向がみられる。

イ．家庭教師

・平成19年11月中に指導を受けていた家庭教師の人数は、小中全体では「1人」が85.9%と割合が高い。

・指導を受け始めた年齢をみると、小中全体では「中学1年から」が25.9%と最も高く、次いで「小学校5・6年から」が18.1%、「中学2年から」が17.0%となっており、小学校高学年から中学1・2年頃にかけて家庭教師の指導を受け始めるケースが多くみられる。

・指導回数は、小中全体で月平均5.2回、1日あたりの指導時間は「1～2時間未満」が61.8%と6割強となっている。なお、1日あたりの指導時間は学年が上がるにつれて長くなる傾向がみられる。

・指導を受けていた家庭教師の職業をみると、小中全体で「学生」が42.7%と最も多く、次いで「塾・家庭教師会社等の講師（学生以外）」が28.6%であり、高学年ほど「学生」の割合が高くなっている。

ウ．通信添削

・平成19年11月中に指導を受けていた通信添削の数は、小中全体では「1社」が97.1%となっている。

・指導を受け始めた時期をみると、小中全体では「小学1・2年」からが46.3%と最も多く、「就学前」と併せると67.9%が小学2年までの比較的早い時期から通信添削を始めている。

・通信手段は、小中全体で、「郵送」が88.1%となっている。

エ．ならいごと

・平成19年11月中に通っていたならいごとの箇所数をみると、小中全体で「１種類」が54.6%、「２種類」が29.3%となっており、低学年ほど複数のならいごとに通っている割合が高い。

・通い始めた時期は、小中全体では「就学前」が57.3%と最も多く、女子の方が比較的早くから始めている。

・平成19年11月ひと月でならいごとに通った回数は、小中全体で平均6.3回であり、１日あたりの平均指導時間は「１～２時間未満」が43.4%となっている。

・ならいごとから帰宅する時間をみると、小中全体では18時台が24.2%と最も高く、その前後１時間（17時台から19時台）に帰宅時間が集中。

・経年でみると、１日あたりの指導時間は長時間化している傾向がみられ、往復に要する時間はやや短縮されている。また、ならいごとから帰宅する時間は、特に中学生で遅くなっている傾向がみられる。

オ．都市階層別

・都市規模が大きいほど通塾率は高くなる傾向がみられる（小都市：32.5%→大都市A：41.3%）。

・大都市Aと小都市の平均月謝を比較すると、通信添削のみは都市の規模による月謝の差はほとんどみられないが、それ以外は大都市Aの方が高くなっており、学習塾では約7,500円、家庭教師では約5,000円、ならいごとでは約1,600円の差がみられる。

（注）大都市A：政令指定都市＋東京都特別区、大都市B：30万人以上、中都市：10万人以上30万人未満、小都市：10万人未満

カ．将来進ませたい学校の段階別

・将来進ませたい学校の段階をみると、全体では「大学・大学院まで」が52.2%と約半数であり、男女別にみると、男子では60.5%、女子では44.3%となっている。なお、女子では「短大・高等専門学校まで」とする割合も21.0%となっている。

・「大学・大学院まで」進ませたいとする保護者の子どもの場合、88.2%が「何らかの学習活動をして」おり、中学・高校まで」とする保護者の子どもの56.0%と比べると、30ポイント以上の開きがみられる。

・経年では、特に「大学・大学院まで」進ませたいとする場合の通塾率が上昇（S60：30.9%→H19：43.2%）。

（２）子どもの意識【子ども調査（小３～中３）】

①　学校外での学習活動の好き・嫌い

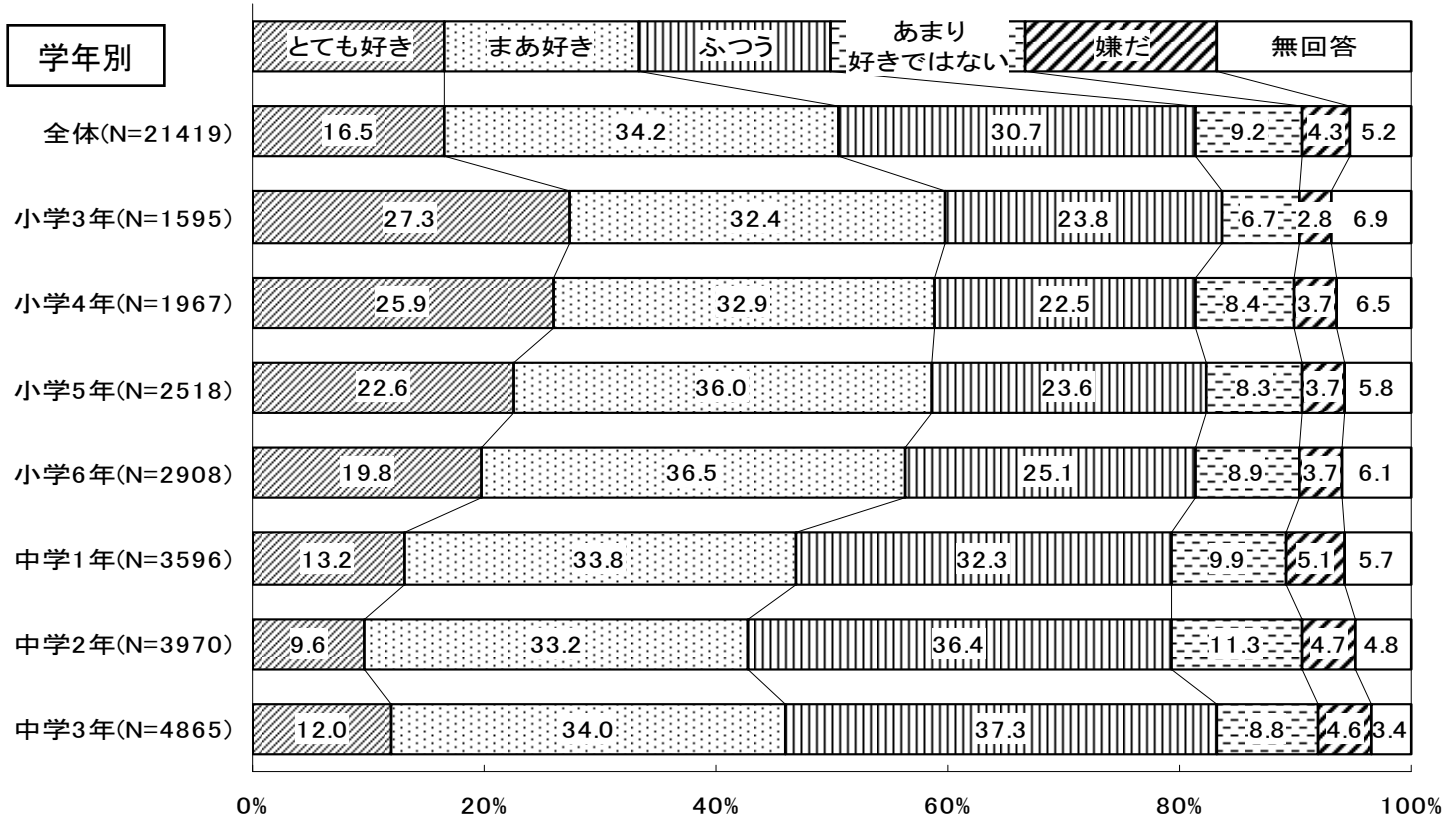
ア．学習塾

「平成19年11月中に学習塾に通っていた子ども自身」の好き・嫌いは、

・小学生では、「好き」（とても好き＋まあ好き）とする子どもの割合は学年が上がるにつれて減少するが、どの学年も5割以上であり、「嫌い」（あまり好きではない＋嫌だ）とする子どもは、どの学年も1割前後。

・中学生では、「好き」とする子どもは、どの学年も4割台であり、「ふつう」は3割以上、「嫌い」は15%前後。

問42 通っている塾の好き・嫌い

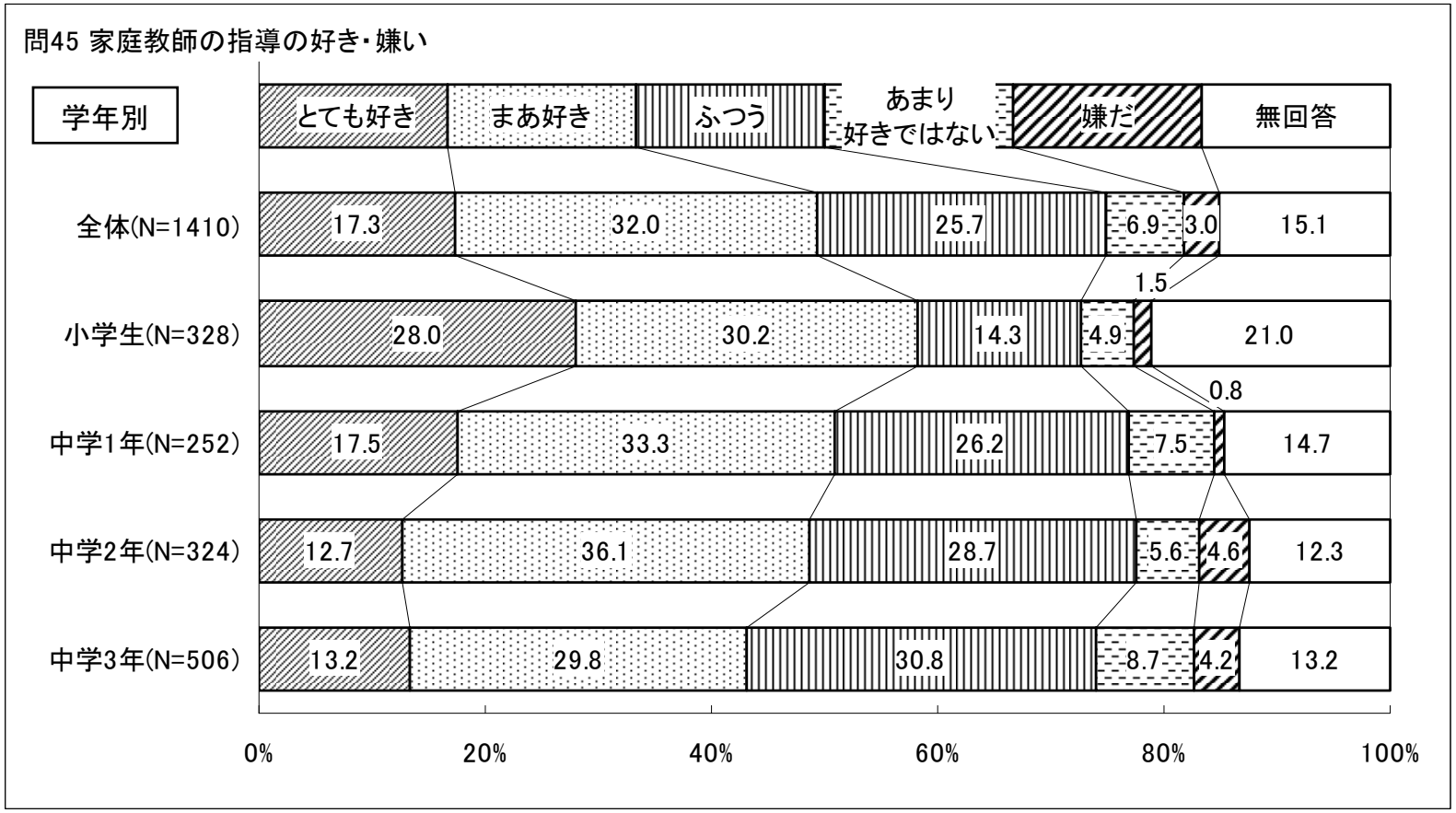


イ．家庭教師

「平成19年11月中に家庭教師による指導を受けていた子ども自身」の好き・嫌いは、

・小学生では、「好き」（とても好き＋まあ好き）とする子どもは、全体で6割弱であり、「嫌い」（あまり好きではない＋嫌だ）とする子どもは、全体で6.4%。

・中学生では、「好き」とする子どもは、中学1年では5割を超えているが、学年が上がるにつれて減少。逆に「嫌い」とする子どもは、どの学年とも1割前後であるが、その割合は学年が上がるにつれて増加。

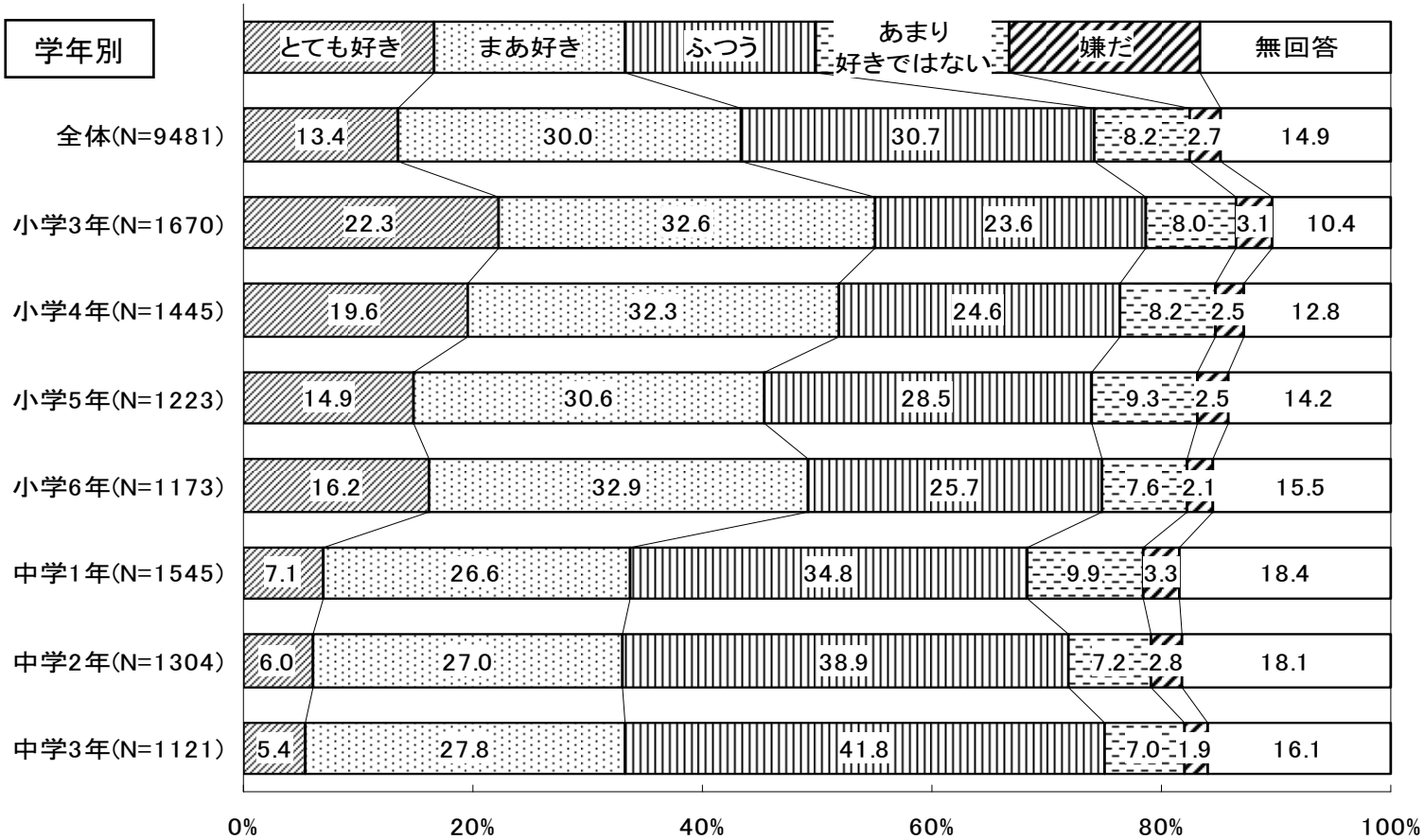


※小学生（3～6年）は各学年ごとの対象者数（N）が小さいため、小学生全体で集計。

ウ．通信添削

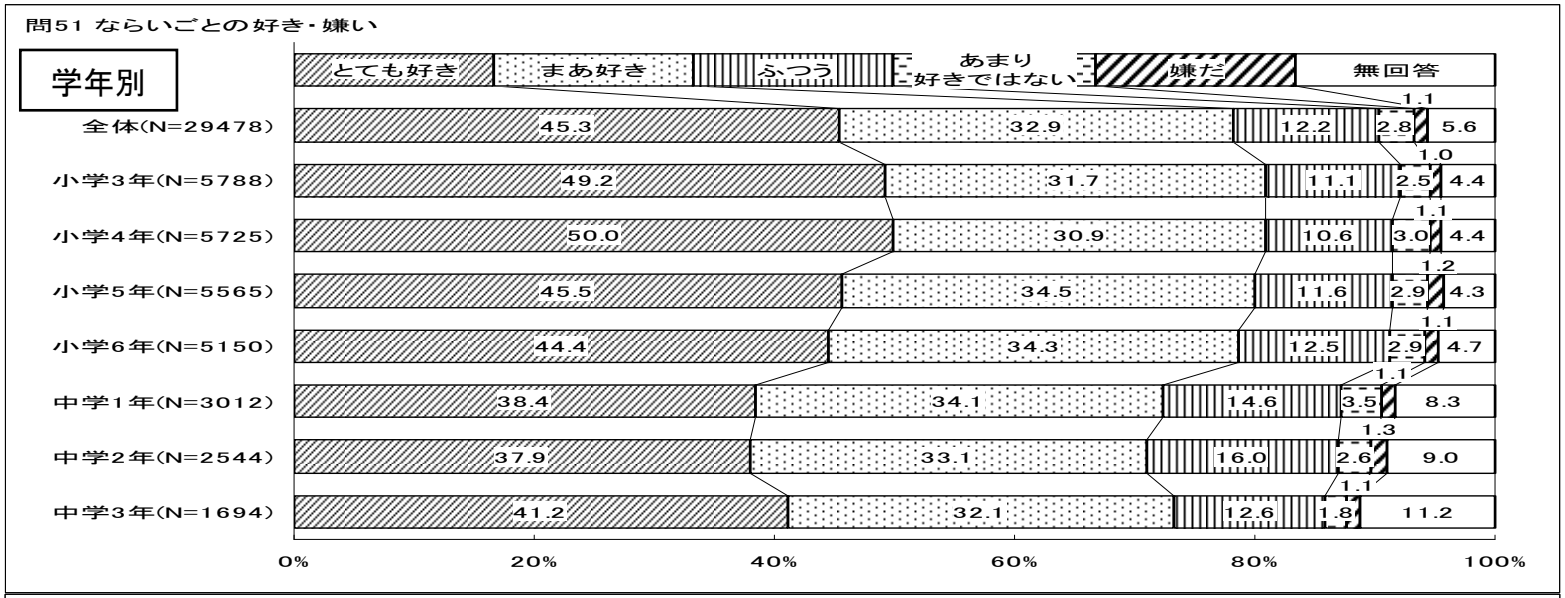
「平成19年11月中に通信添削による指導を受けていた子ども自身」の好き・嫌いは、
・小学生では、「好き」（とても好き＋まあ好き）とする子どもは、各学年とも5割前後であり、「嫌い」（あまり好きではない＋嫌だ）とする子どもは、どの学年も1割前後。
・中学生では、「好き」とする子どもは、各学年とも33%台であり、「嫌い」とする子どもは、各学年とも1割前後であるが、学年が上がるにつれて減少。

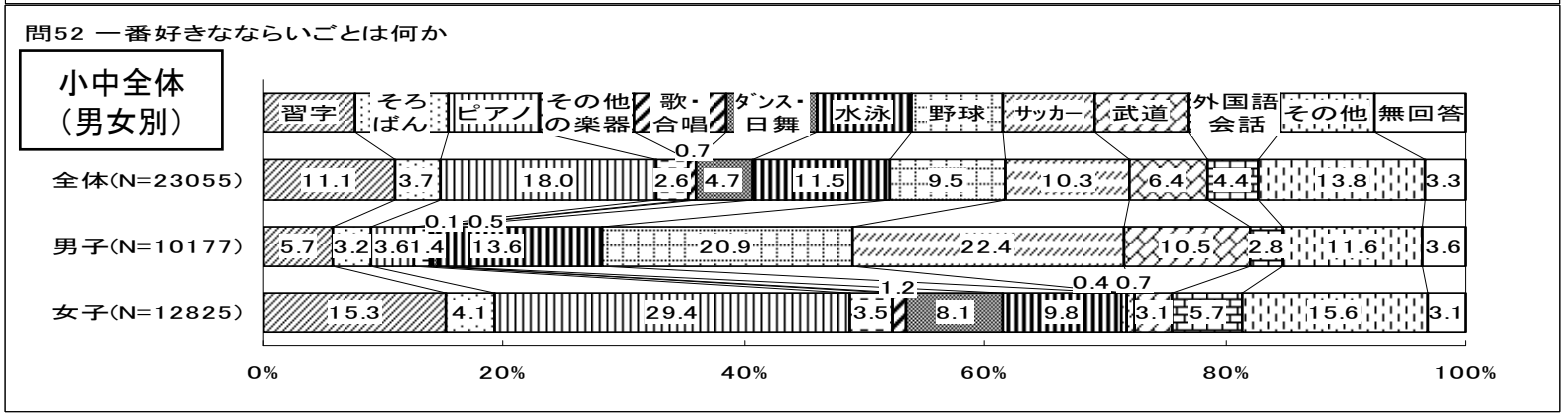
問48 通信添削の指導の好き・嫌い



エ. ならいごと

「平成19年11月中にならいごとをしていた子ども自身」の好き・嫌いは、
・「好き」（とても好き＋まあ好き）とする子どもは、小学生では各学年とも約8割、中学生では各学年とも約7割強。
・逆に「嫌い」（あまり好きではない＋嫌だ）とする子どもは、小中全体を通じて、各学年とも3～4%。
・「好き」な「ならいごと」をみると、小中全体を通じて、男子では「サッカー」や「野球」、女子では「ピアノ」や「習字」の割合が高い。

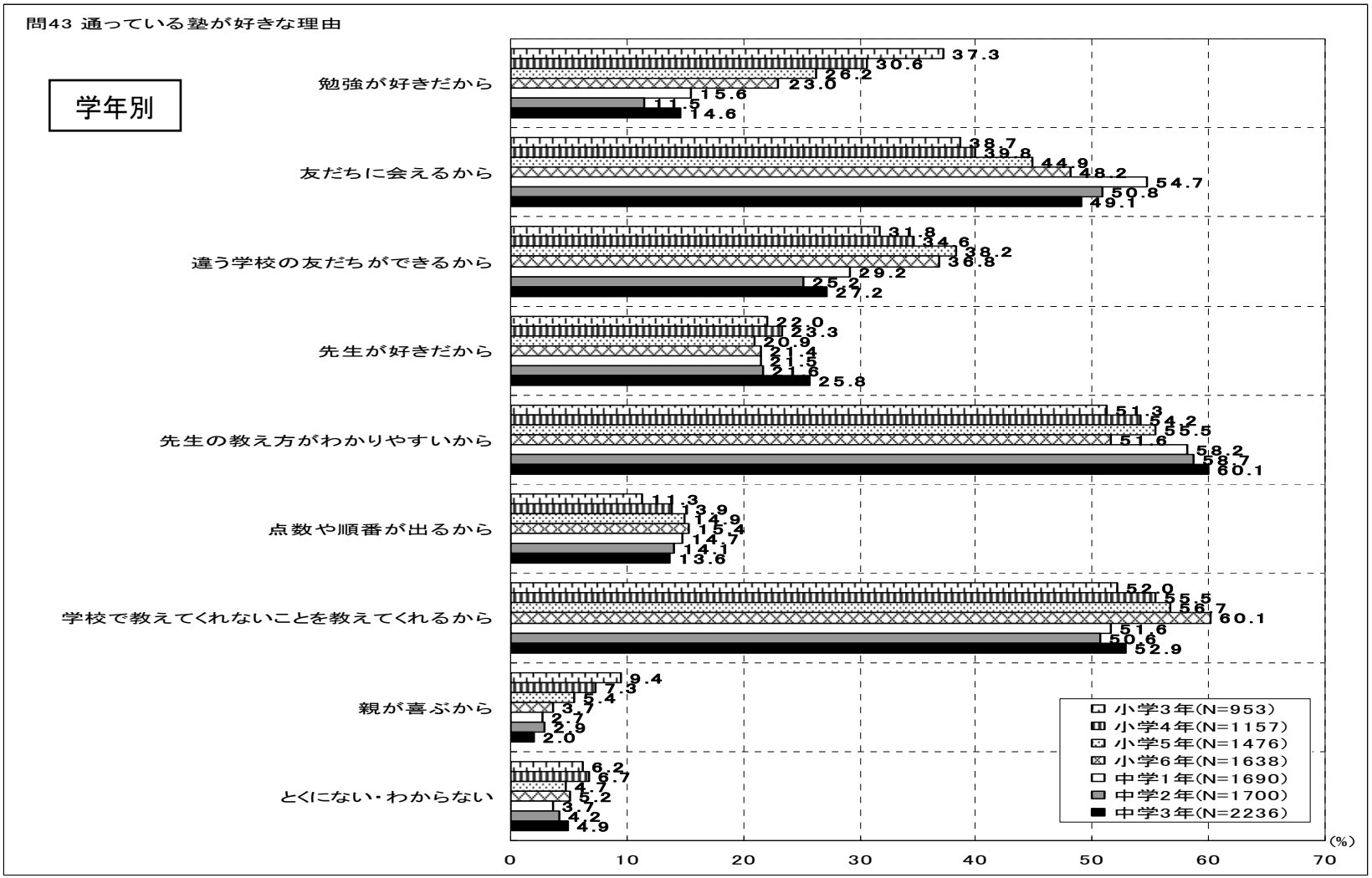




②　好きな理由

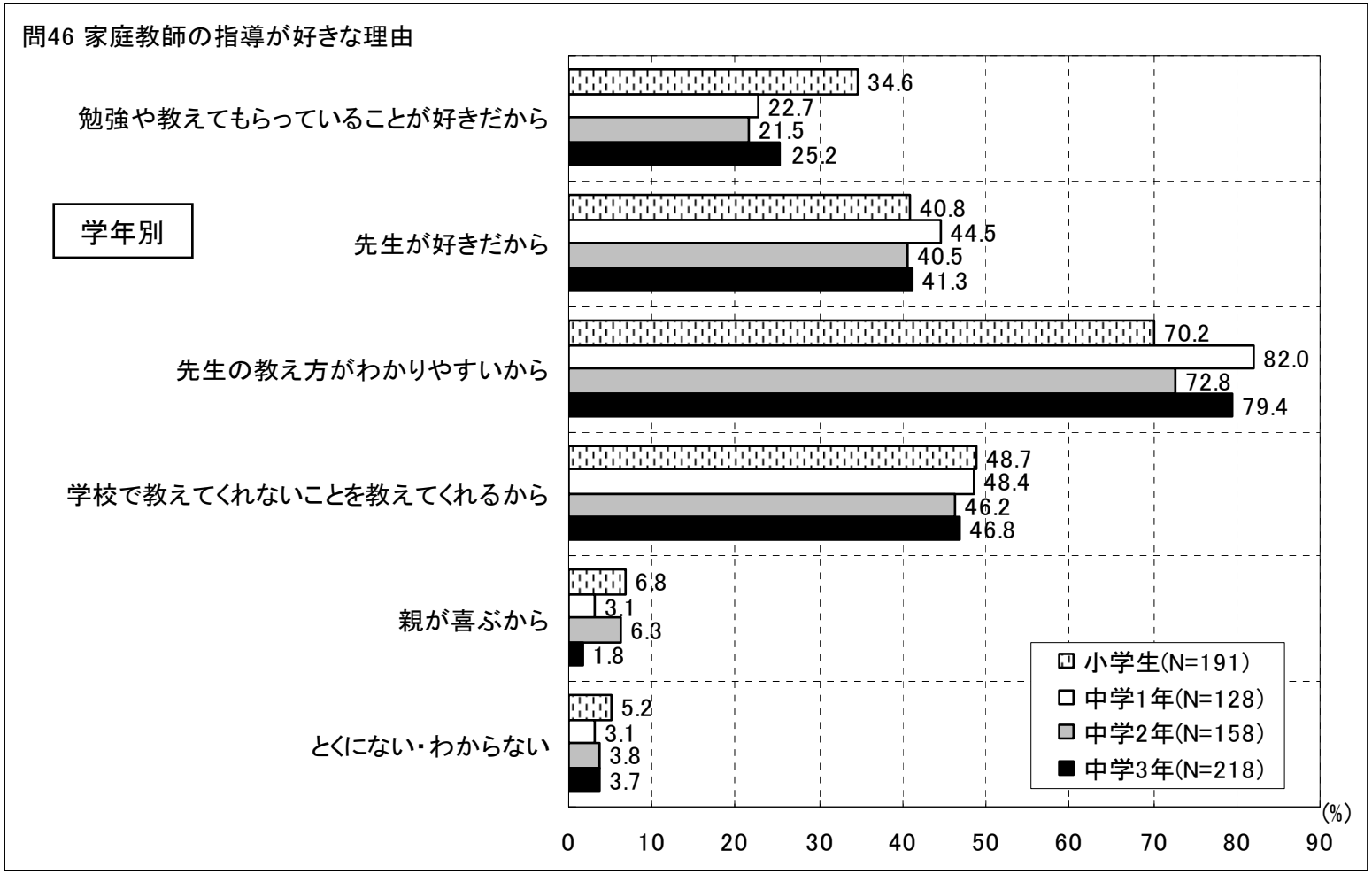
ア．学習塾

・小中ともに「先生の教え方がわかりやすいから」や「学校で教えてくれないことを教えてくれるから」がどの学年とも5割以上。
・「友だちに会える」は、中学生の方が小学生より割合が高いが、小学生では学年が上がるにつれて増加するのに対し、中学生では学年が上がるにつれて減少。「勉強が好きだから」は、小中全体を通じて、概ね学年が上がるにつれて減少。



イ． 家庭教師

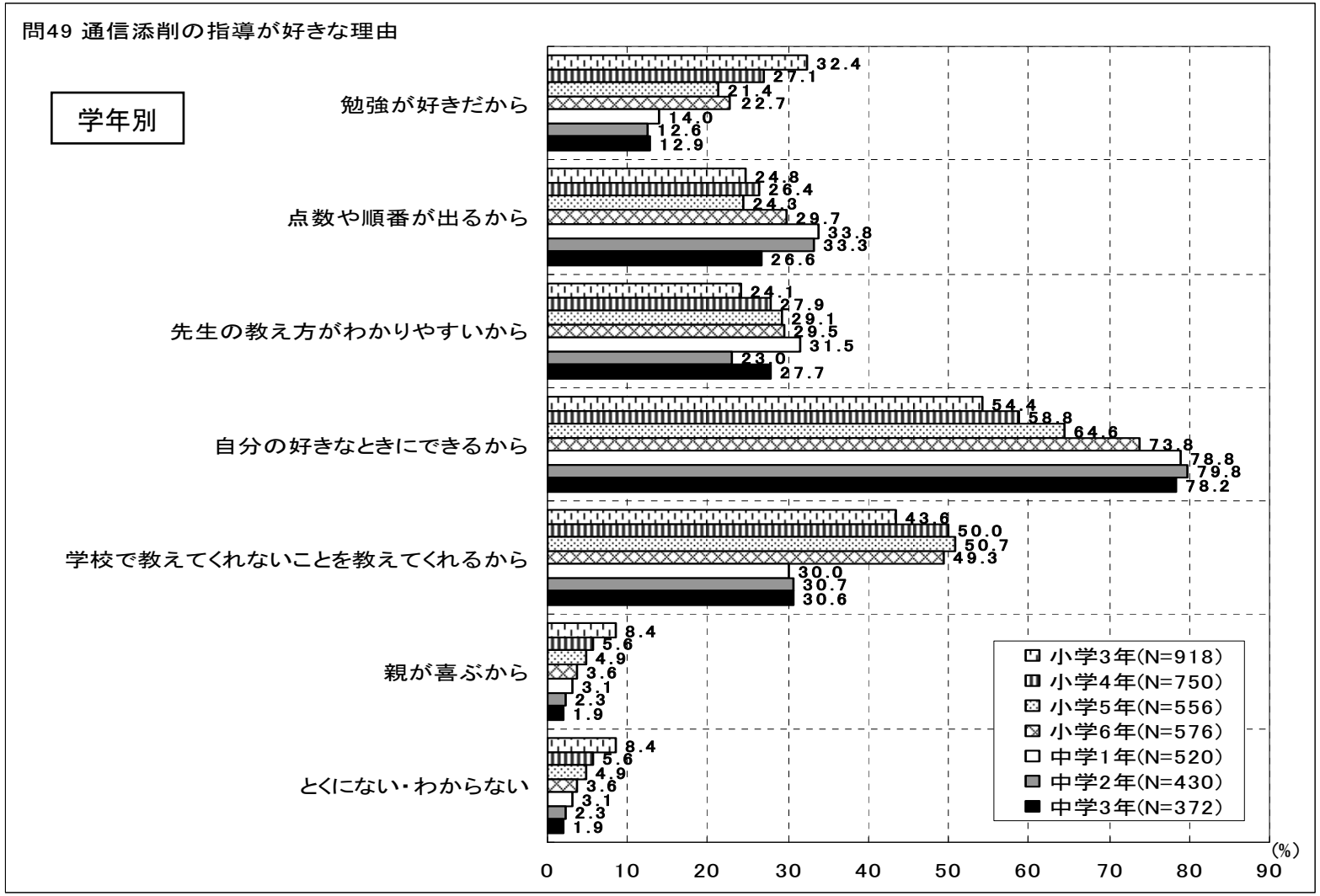
・小学生全体と中学生の各学年において、「先生の教え方がわかりやすいから」が7割以上、特に中1では8割を超える。
・「学校で教えてくれないことを教えてくれるから」や「先生が好きだから」は、小学生全体と中学生の各学年において、4割から5割弱である。



※小学生（3～6年）は各学年ごとの対象者数（N）が小さいため、小学生全体で集計。

ウ. 通信添削

・小中全体を通じて、各学年において、「自分の好きなときにできるから」の割合が最大であり、その割合は概ね学年が上がるにつれて増加。
・「学校で教えてくれないことを教えてくれるから」は、小学生の各学年で5割程度、中学生の各学年で約3割。

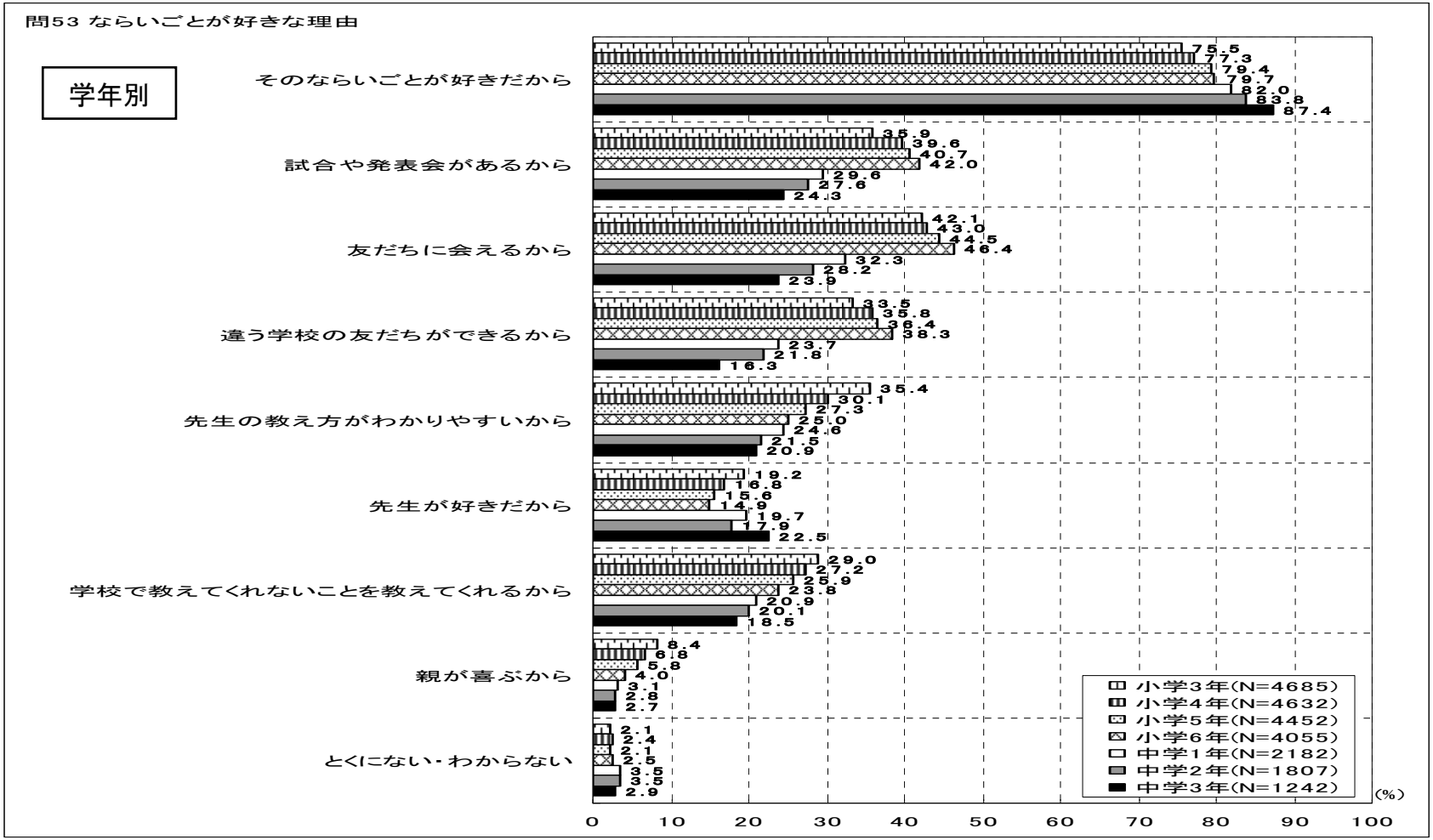


エ．ならいごと

・小中全体を通じて、各学年で「そのならいごとが好きだから」が75％以上と最も割合が高く、その割合は学年が上がるにつれて増加。

・「試合や発表会があるから」や「友だちに会えるから」、「違う学校の友だちができるから」は、小学生では各学年で3割以上であり、学年が上がるにつれて増加するのに対し、中学生では各学年で概ね3割以下であり、学年が上がるにつれて減少。

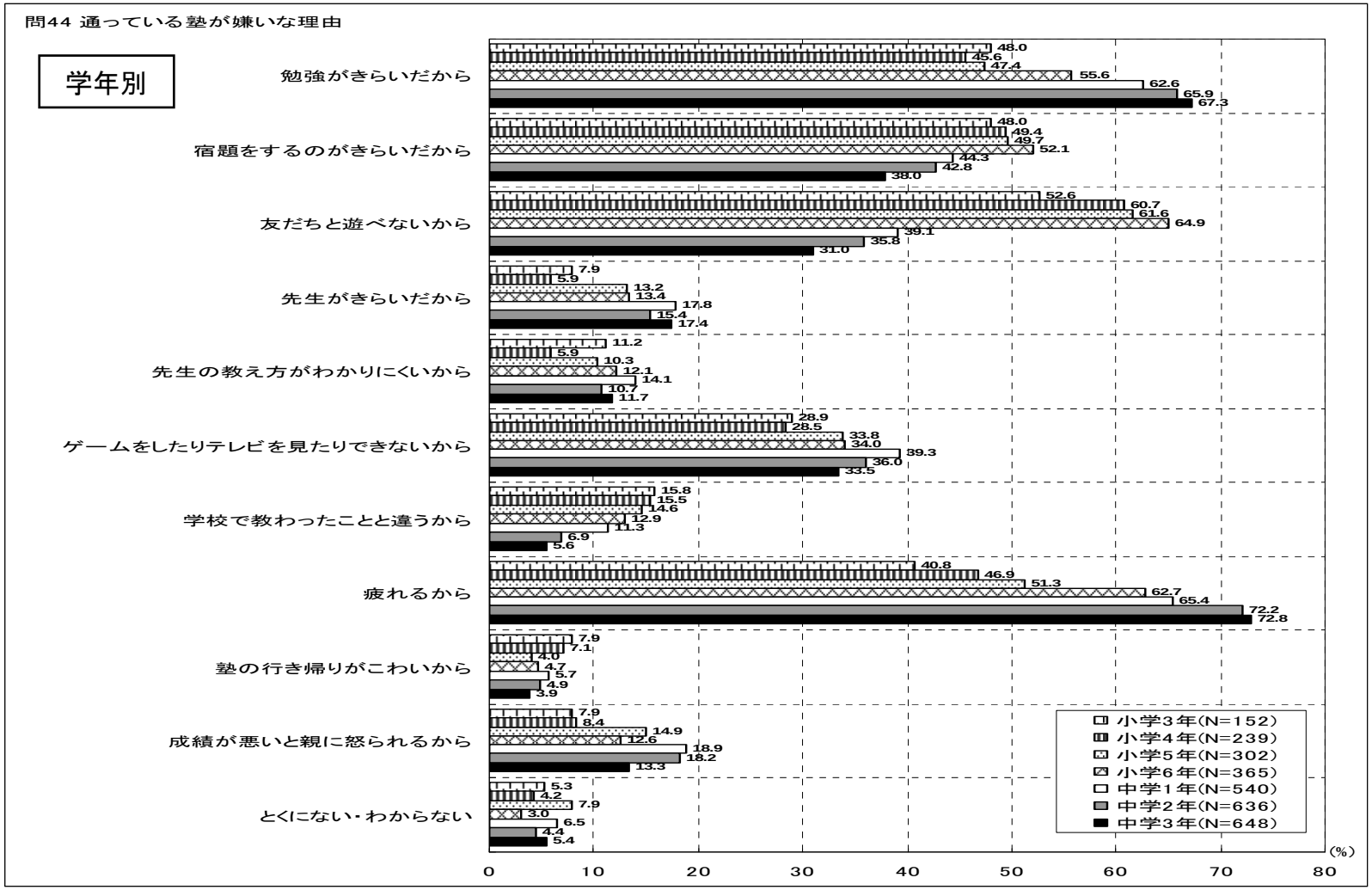
・「先生の教え方がわかりやすいから」や「学校で教えてくれないことを教えてくれるから」は、小中全体を通じて、学年が上がるにつれて減少。



③　嫌いな理由

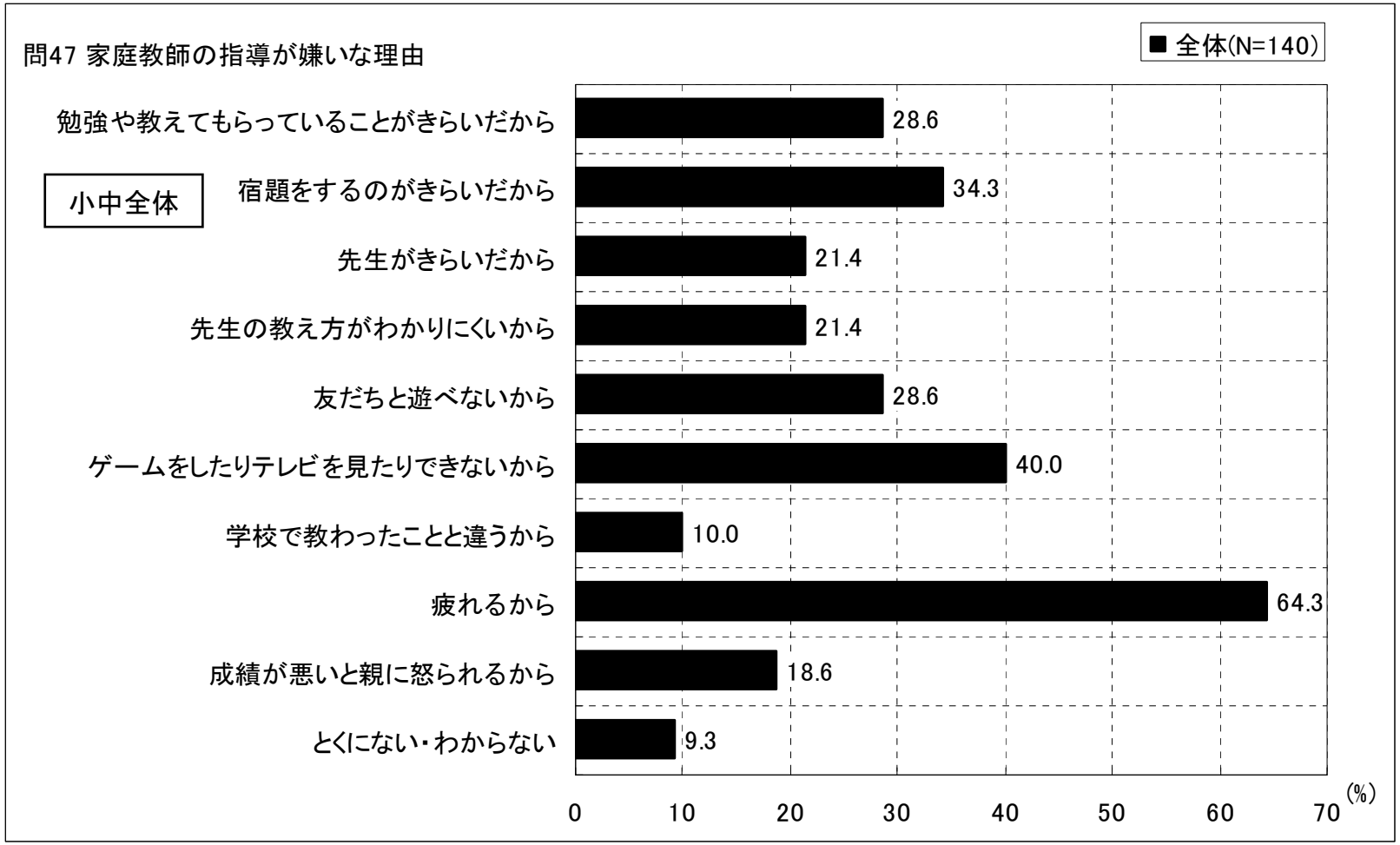
ア．学習塾

・小学生では、どの学年でも「友だちと遊べないから」の割合が最大であり、その割合は学年が上がるにつれて増加。
・中学生では、どの学年でも「疲れるから」や「勉強がきらいだから」の割合が高く、両理由は学年が上がるにつれて増加。



イ．家庭教師

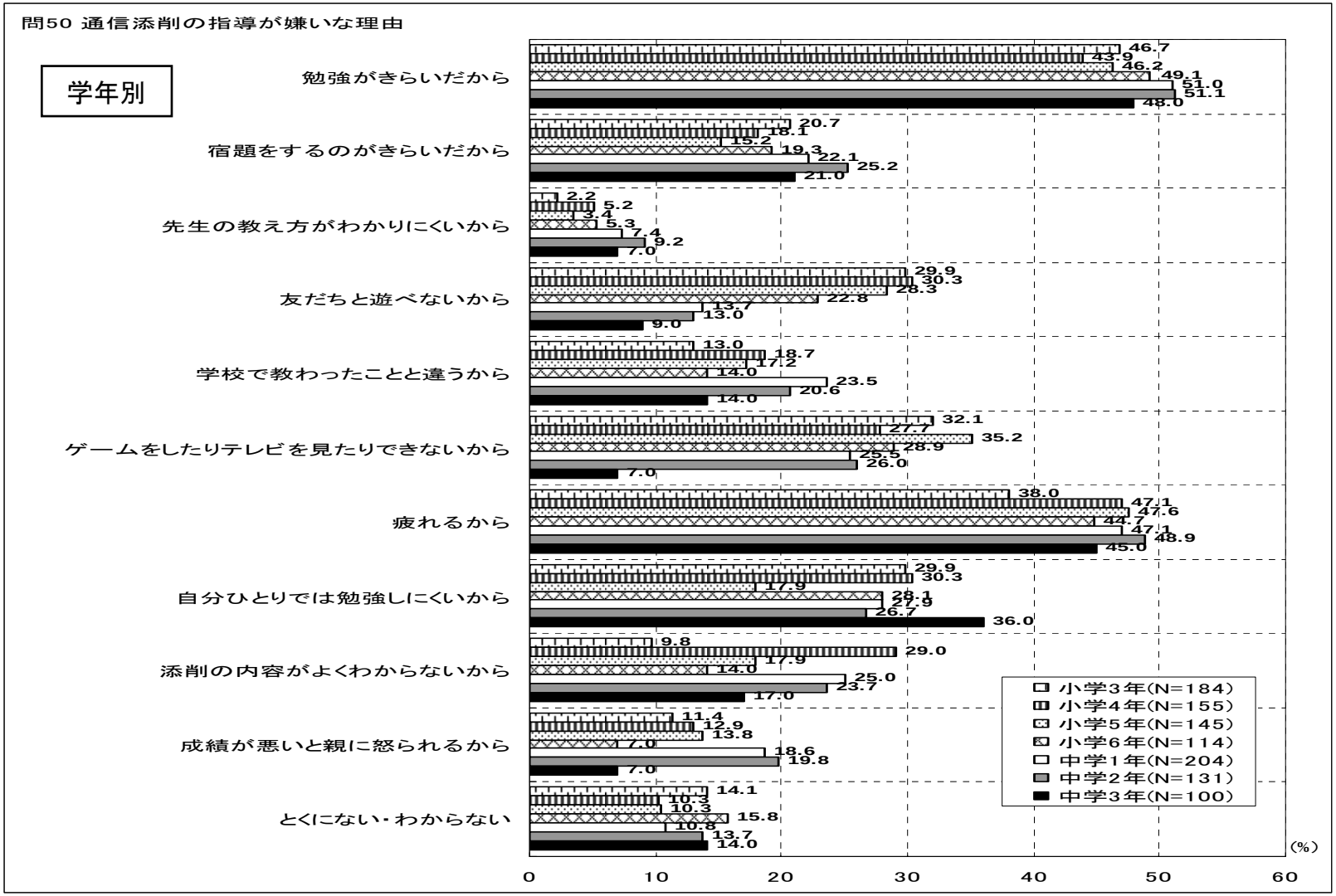
・小中全体で「疲れるから」が最大であり、その他、「ゲームをしたりテレビを見たりできないから」や「宿題をするのがきらいだから」が3割～4割。



※各学年ごとの対象者数（N）が小さいため、小中全体で集計。

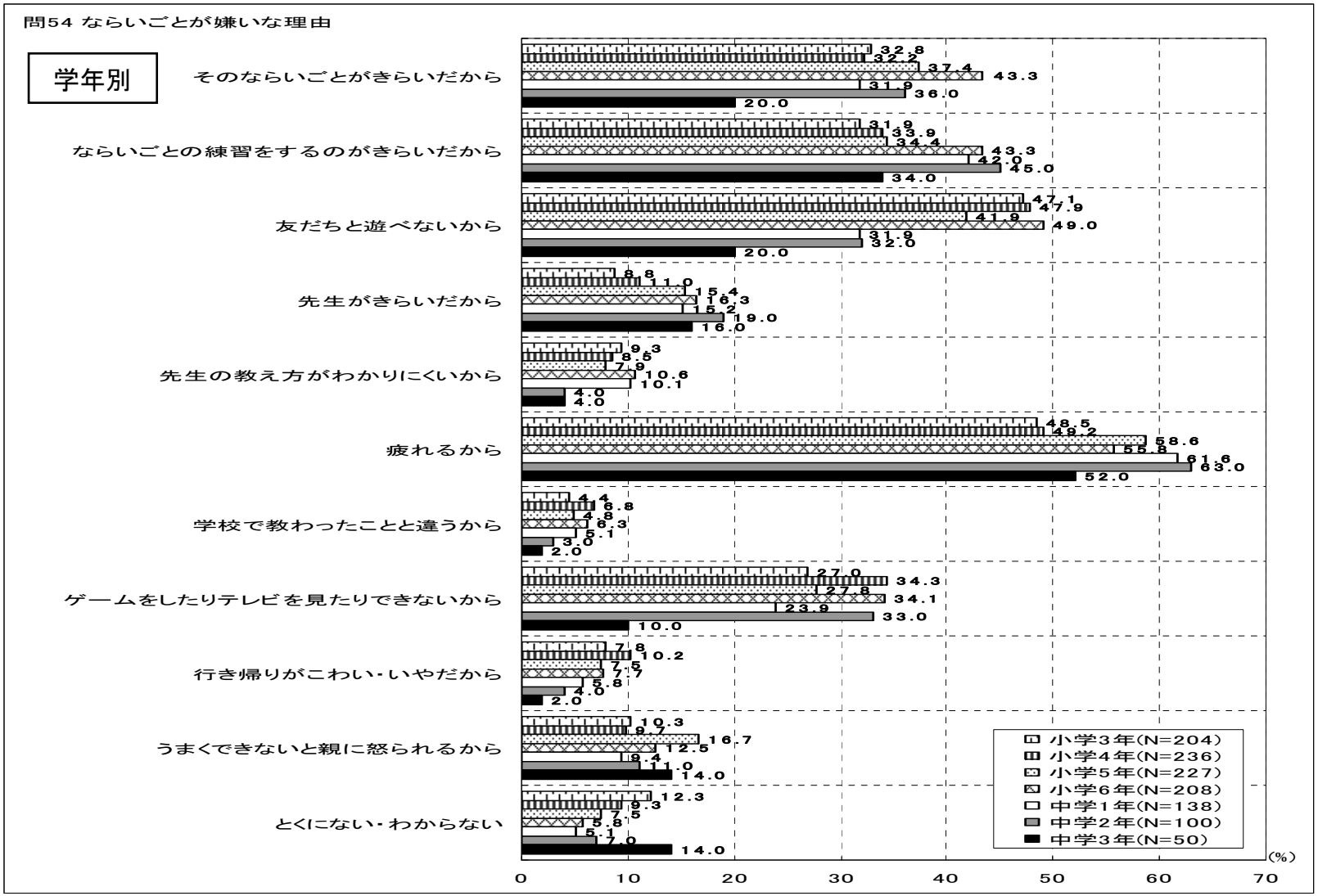
ウ．通信添削

・小中ともに、各学年において、「勉強がきらいだから」や「疲れるから」が概ね4割から5割と割合が高い。
・「自分ひとりでは勉強しにくいから」は、小中全体を通じて、各学年で概ね3割以下であるが、中学3年のみ36.0%と比較的割合が高い。



エ．ならいごと

・小中全体を通じて、各学年ともに「疲れるから」の割合が最も高く、その他、「友だちと遊べないから」や「ならいごとの練習をするのがきらいだから」、「そのならいごとがきらいだから」、「ゲームをしたりテレビを見たりできないから」の割合が高い。



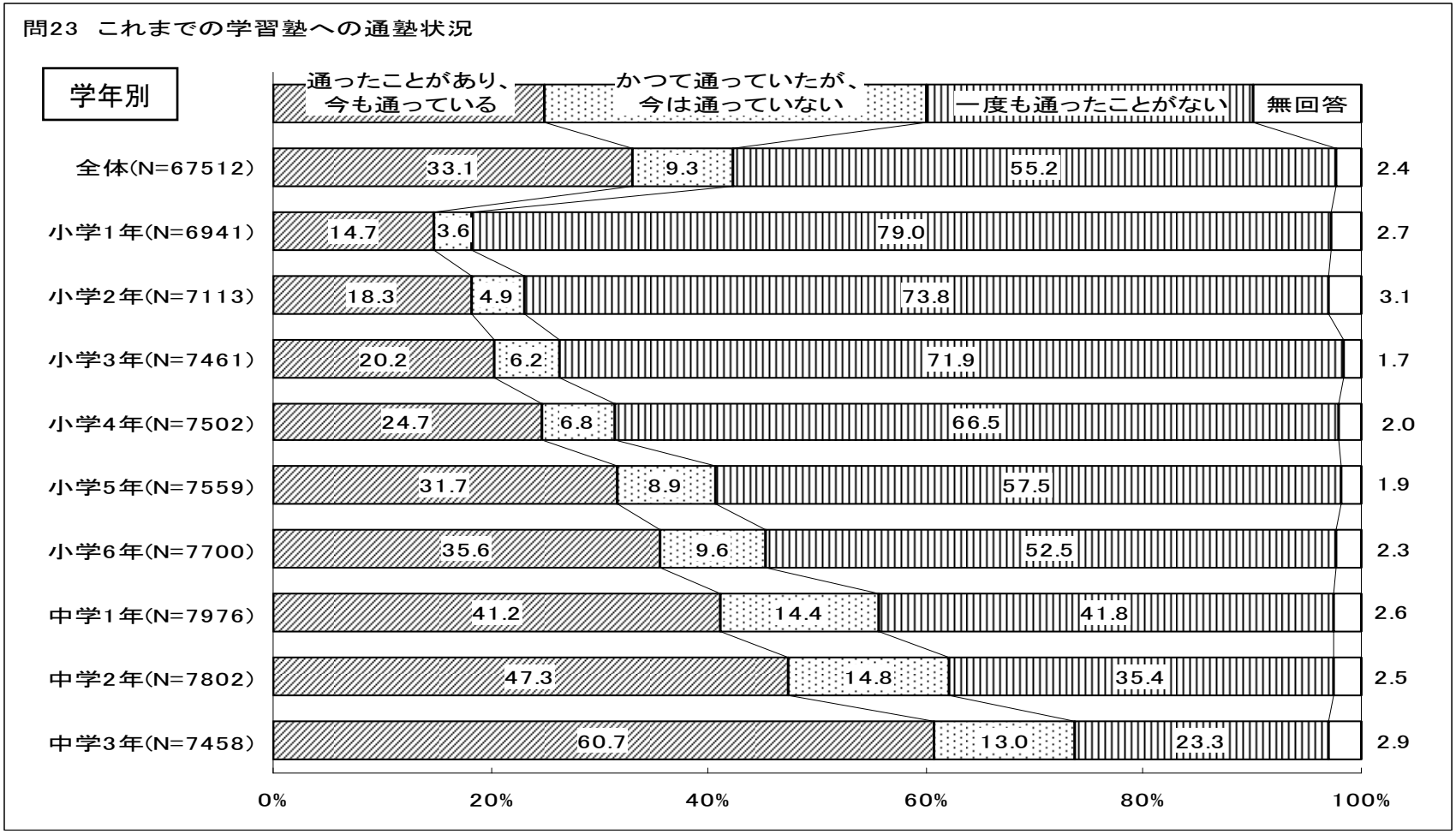
２．学習塾通い

（１）通塾経験の有無【保護者調査（小１～中３）】

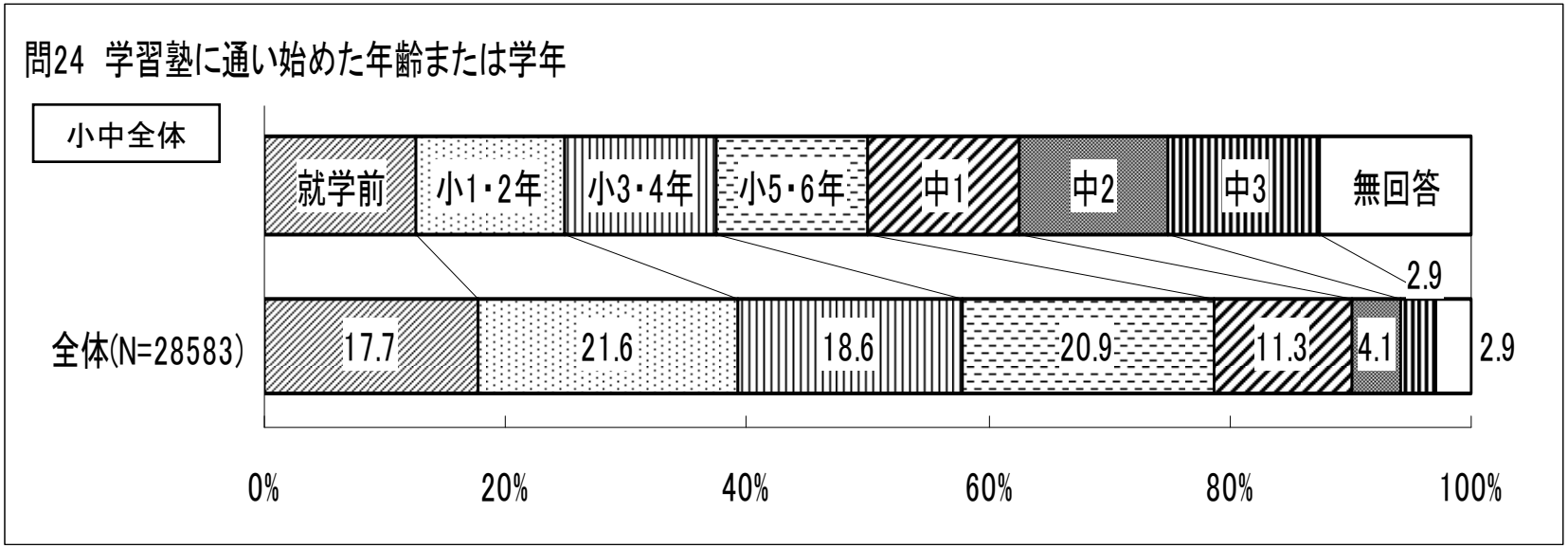
「平成19年11月中に限らず、調査対象となった子どもをこれまでに学習塾に通わせた経験の有無」は、

・小中全体を通じて、「通ったことがあり今も通っている」、「かつて通っていたが今は通っていない」は学年が上がるにつれて概ね増加。

・一方、「一度も通ったことがない」は、学年が上がるにつれて減少しているが、小学生では、どの学年でも5割を超え、特に低学年では7割を超える。



「平成19年11月中に限らず、調査対象となった子どもをこれまでに学習塾に通わせた経験がある場合」について、
・学習塾に通い始めた年齢を見ると、小中全体を通じて、「小学1・2年」が21．6%と最も割合が高く、次いで「小学5・6年」が20．9%と割合が高くなっている。

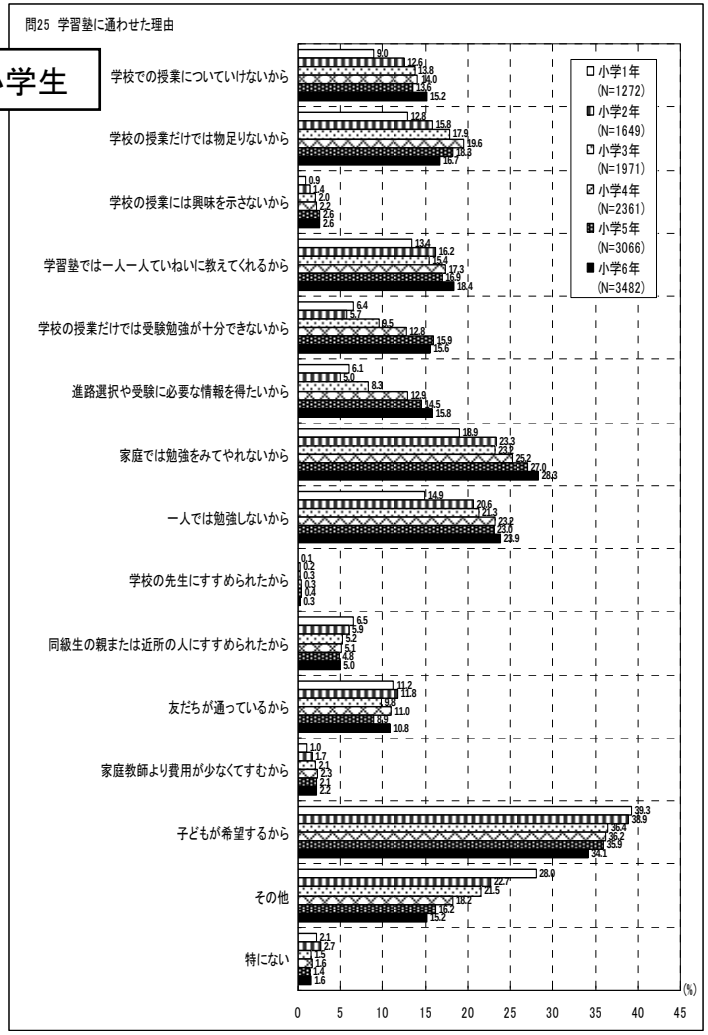


（２）通塾経験に係る理由【保護者調査（小１～中３）】

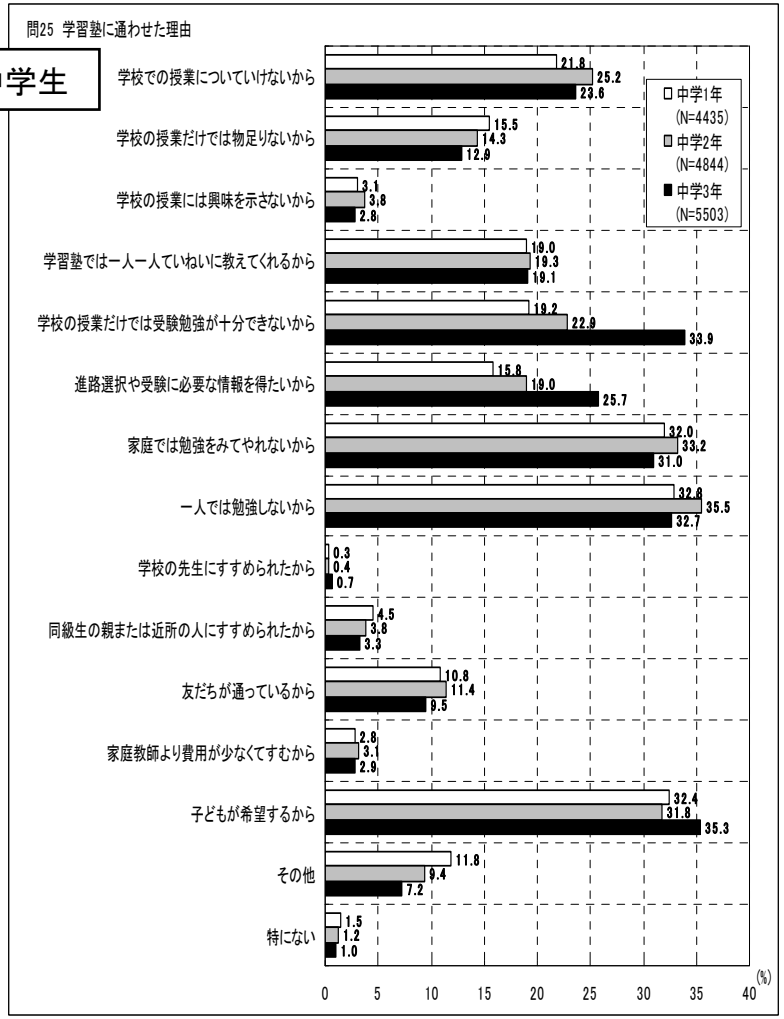
①通塾させた理由

・小学生では、「子どもが希望するから」はどの学年でも最も割合が高いが、学年が上がるにつれて割合は減少。
・その他は、「家庭では勉強をみてやれないから」や「一人では勉強しないから」が、各学年とも比較的割合が高くなっており、その割合は高学年になるほど概ね高くなっている。
・中学生では、中学１，２年では「一人では勉強しないから」が、中学3年では「子どもが希望するから」が最も割合が高い。
・「学校の授業だけでは受験勉強が十分できないから」や「進路選択や受験に必要な情報を得たいから」などの受験勉強を意識した理由は、学年が上がるほど割合も高くなっており、中学3年ではそれぞれ33.9%、25.7%となっている。

小学生

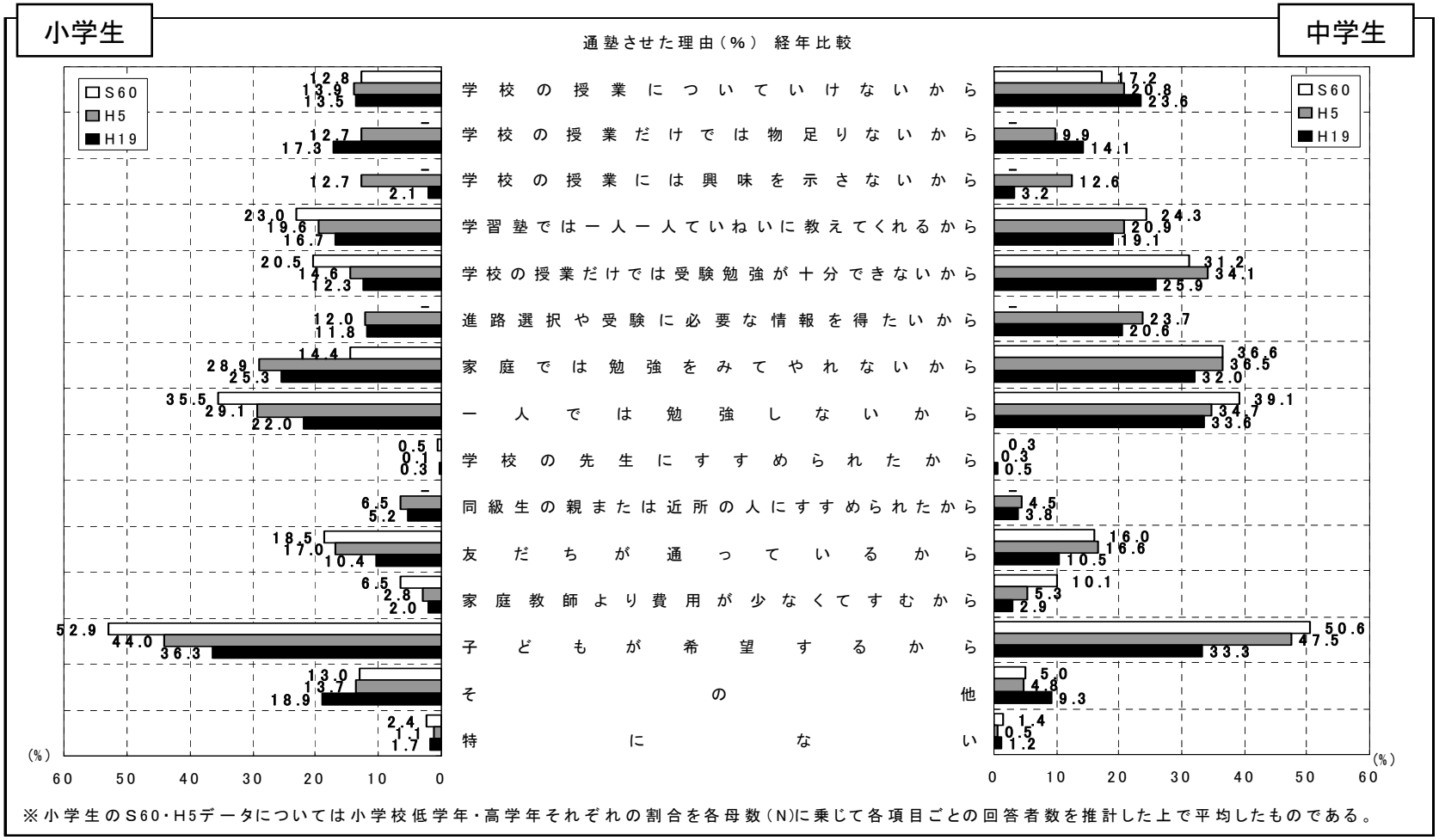


中学生



（経年比較）

・小学生では、調査を追うごとに割合は低下しているが、各調査時において「子どもが希望するから」が最も高い割合となっている。
・一方、経年でみると、過去の調査において比較的割合の高かった「家庭では勉強をみてやれないから」や「一人では勉強しないから」など、ほとんどの項目で割合が低下する中、「その他」に加えて、「学校の授業だけでは物足りないから」の割合が増加。
・中学生では、過去の調査で最も割合の高かった「子どもが希望するから」の割合が低下し、今回調査では「一人では勉強しないから」や「家庭では勉強をみてやれないから」がほぼ同じ割合で最も高くなっている。
・一方、平成5年調査と比べて、ほとんどの項目で割合が低下する中、「学校の授業についていけないから」や「学校の授業だけでは物足りないから」の割合が増加している。

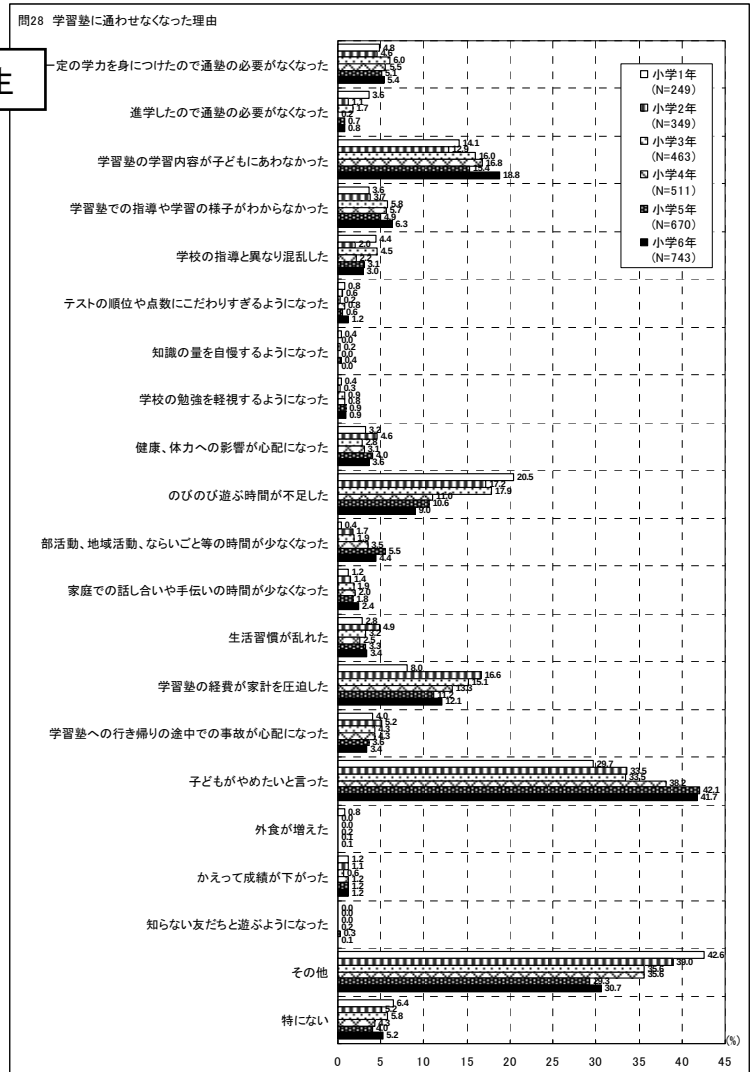


②通塾させなくなった理由

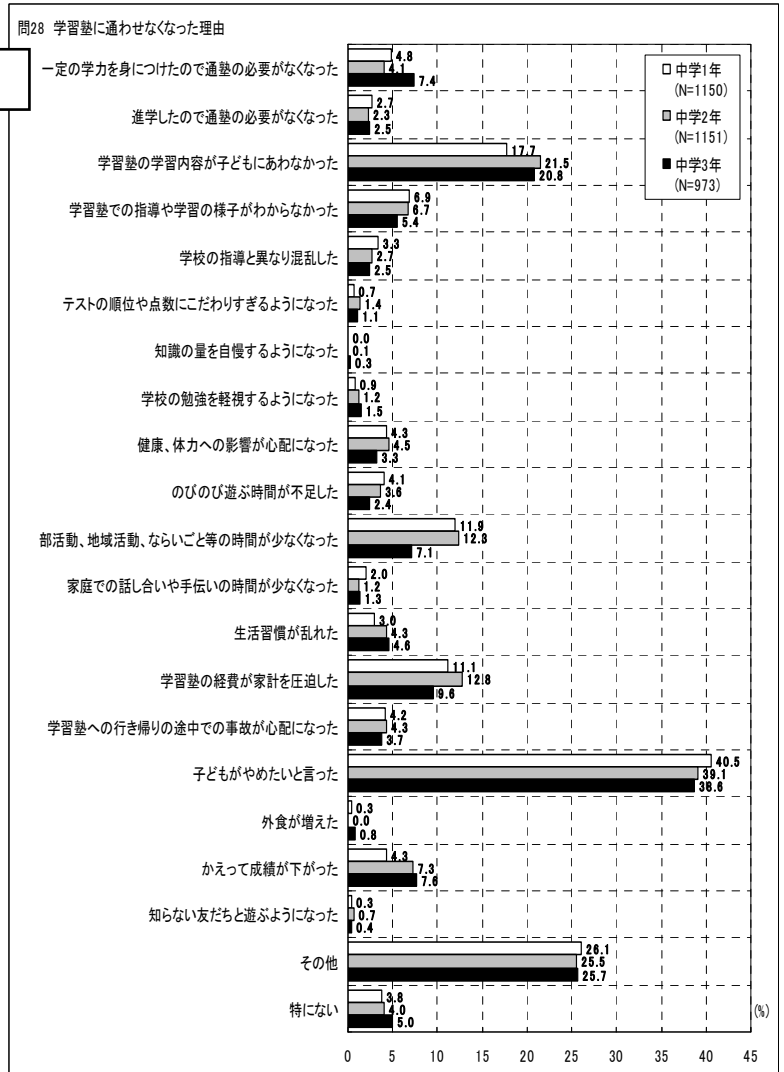
（平成19年11月時点）

・小学生では、「その他」を除き、どの学年でも「子どもがやめたいと言った」の割合が最も高く、低学年より高学年の方がその割合は高い。
・その他、「のびのび遊ぶ時間が不足した」は低学年で高く、「学習塾の経費が家計を圧迫した」は特に小学2年で16．6%。
・中学生では、「子どもがやめたいと言った」の割合が各学年とも最も高く約4割。
・また、「学習塾の学習内容が子どもにあわなかった」が各学年とも2割前後、「部活動、地域活動、ならいごと等の時間が少なくなった」や「学習塾の経費が家計を圧迫した」が各学年とも1割前後。

小学生

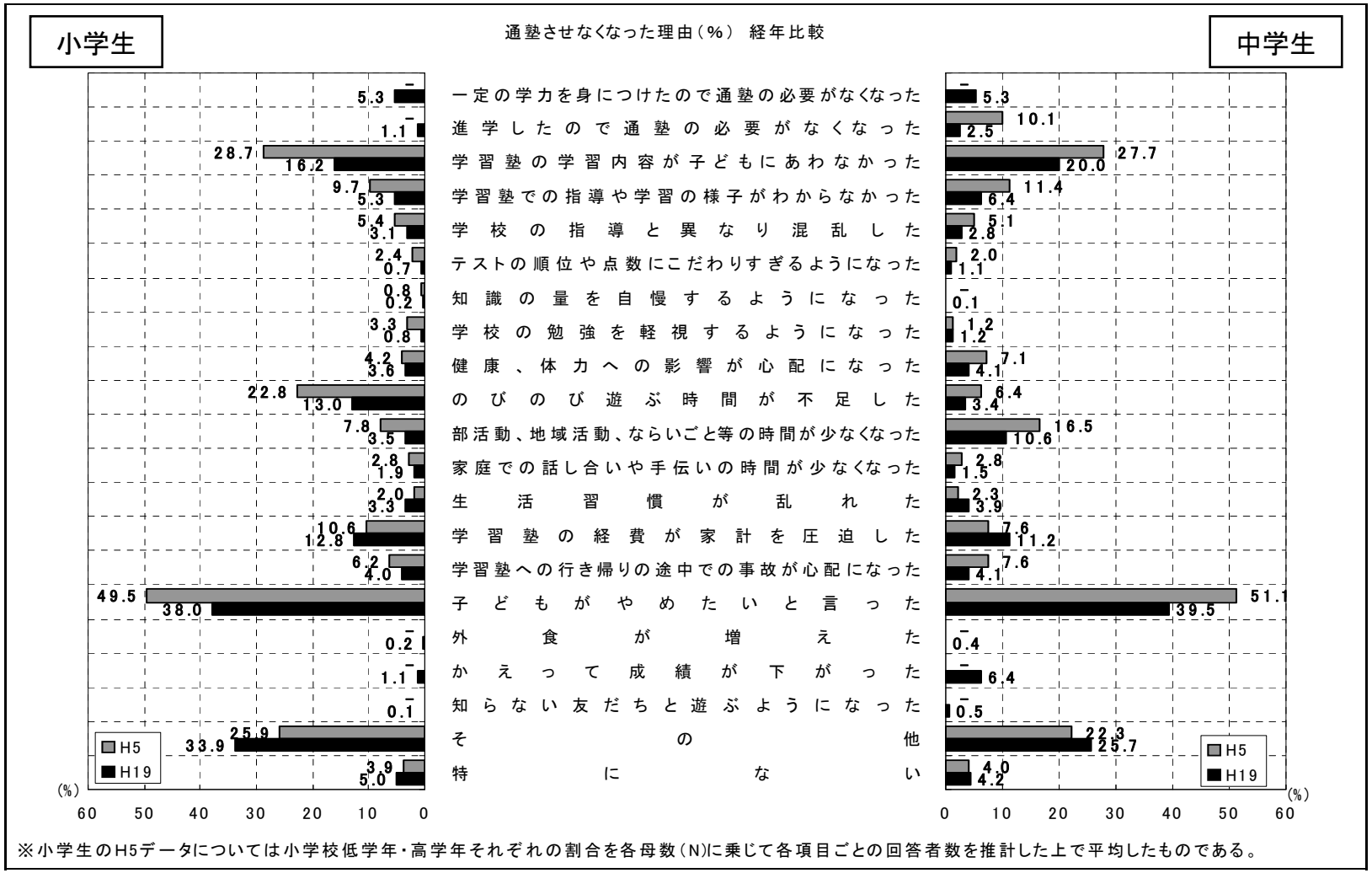


中学生



（経年比較）

・小中ともに、平成5年調査より10ポイント以上低下しているものの、平成5年調査、今回調査ともに、「子どもがやめたいと言った」の割合が最も高い。
・一方、平成5年調査から今回調査にかけて、ほとんどの項目で割合が低下する中、低率ではあるが、「その他」に加えて、「学習塾の経費が家計を圧迫した」や「生活習慣が乱れた」の割合が増加。



※小学生のH5データについては小学校低学年・高学年それぞれの割合を各母数（N)に乗じて各項目ごとの回答者数を推計した上で平均したものである。

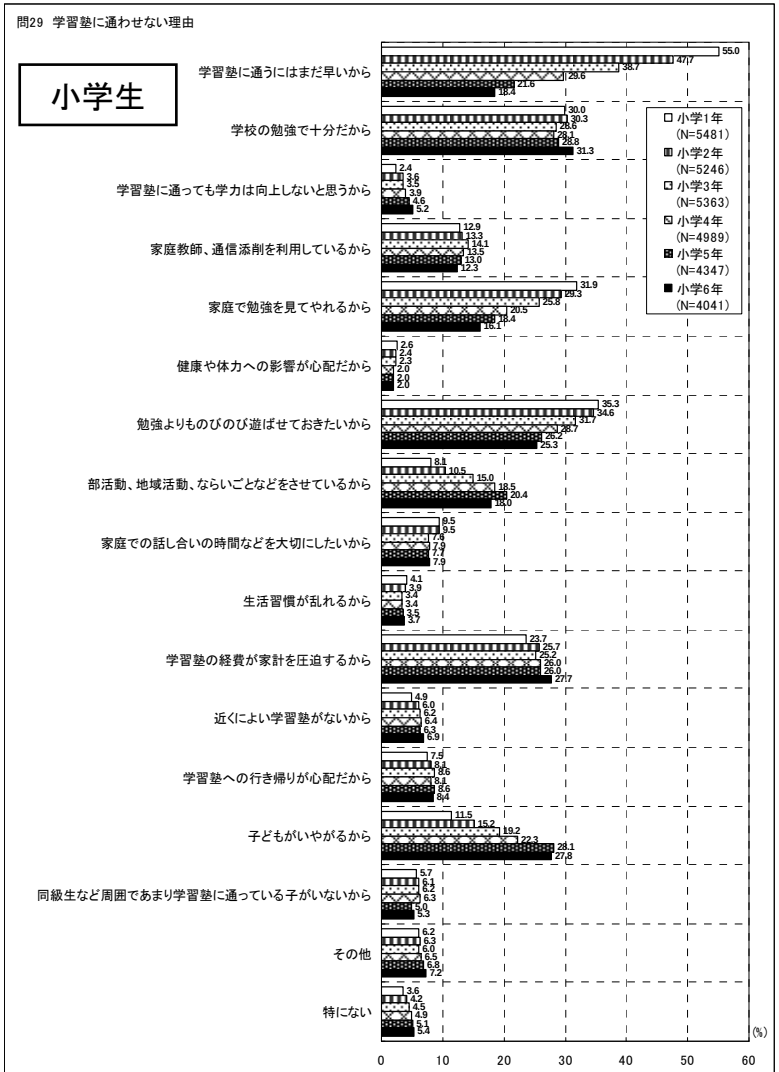
③通塾させていない理由

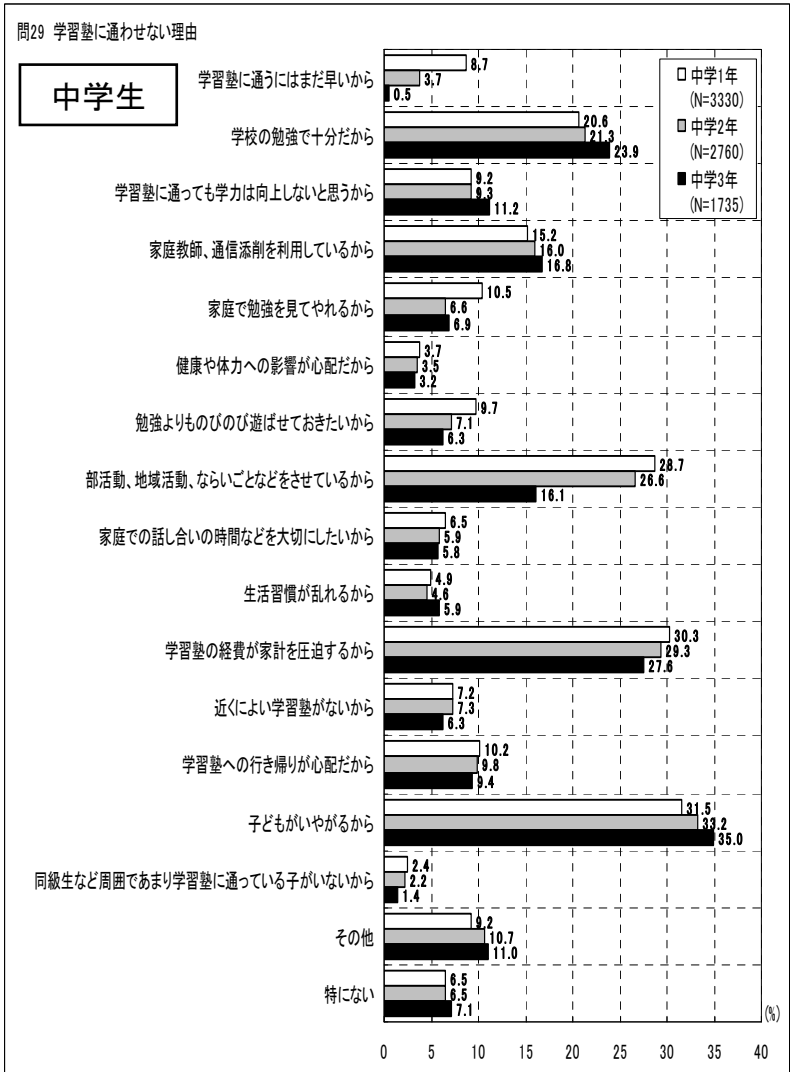
（平成19年11月時点）

・小学生では、「学習塾に通うにはまだ早いから」や「勉強よりものびのび遊ばせておきたいから」、「家庭で勉強を見てやれるから」などは学年が低いほど割合が高く、特に「学習塾に通うにはまだ早いから」については小学１年で5割を超える。

・一方、「学校の勉強で十分だから」や「学習塾の経費が家計を圧迫するから」は、どの学年も2～3割となっている。

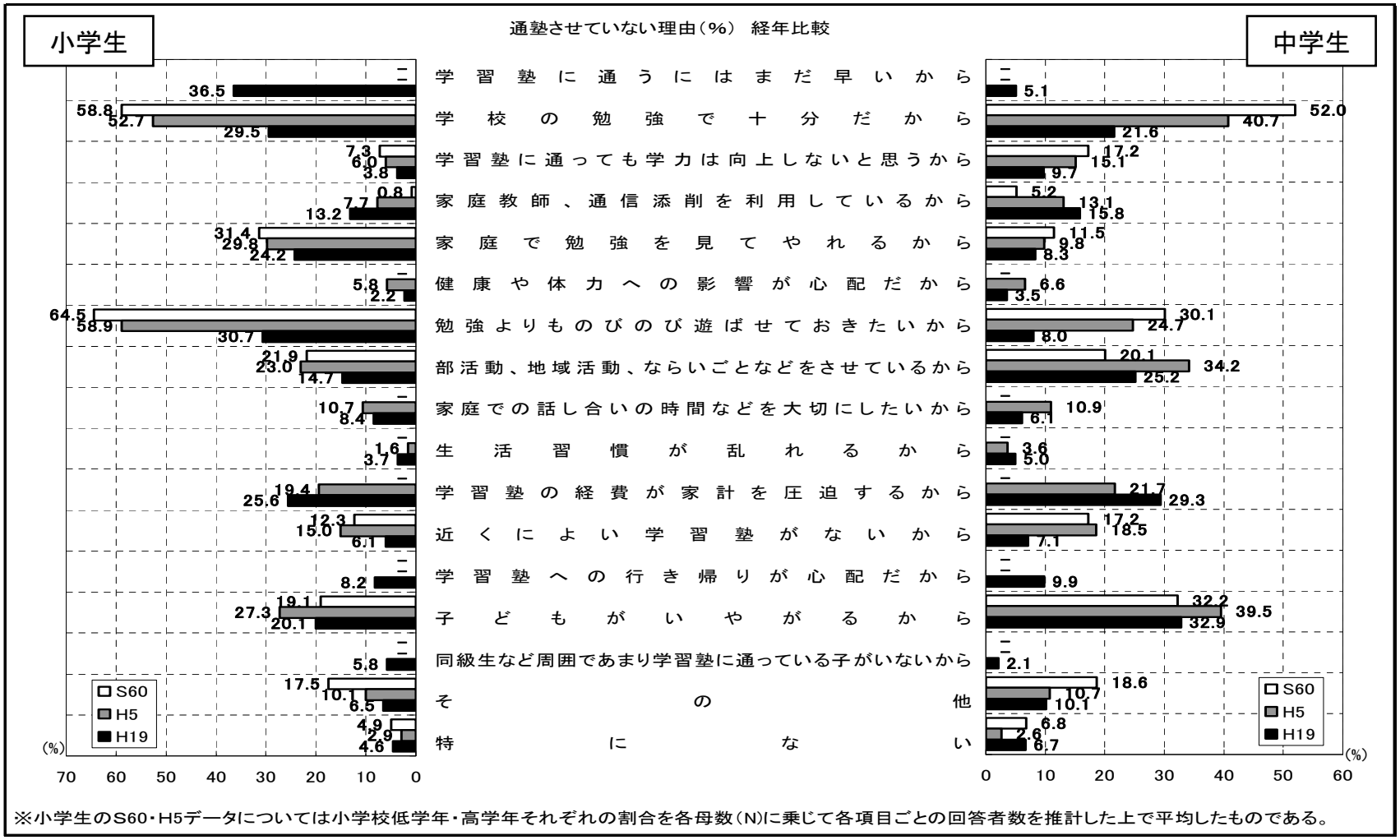
・中学生では、各学年とも「子どもがいやがるから」が3割以上と最も割合が高く、次いで「学習塾の経費が家計を圧迫するから」が3割前後、「学校の勉強で十分だから」が2割強であり、「部活動、地域活動、ならいごとなどをさせているから」も比較的割合が高い（特に中学1，2年）。





（経年比較）

・小学生では、過去の調査で5割を超えていた「勉強よりものびのび遊ばせておきたいから」や「学校の勉強で十分だから」の割合が減少し、今回調査では、「学習塾に通うにはまだ早いから」（過去調査データなし）の割合が最も高くなっている。
・中学生では、過去の調査では、「学校の勉強で十分だから」の割合が最も高かったが、今回調査では「子どもがいやがるから」や「学習塾の経費が家計を圧迫するから」の割合が高くなっている。
・また、小中全体を通じて、平成5年調査から今回調査にかけて、前回調査より減少している理由が多い中、小中ともに「学習塾の経費が家計を圧迫するから」や「家庭教師、通信添削を利用しているから」などの割合が増加している。



※小学生のS60・H5データについては小学校低学年・高学年それぞれの割合を各母数（N)に乗じて各項目ごとの回答者数を推計した上で平均したものである。

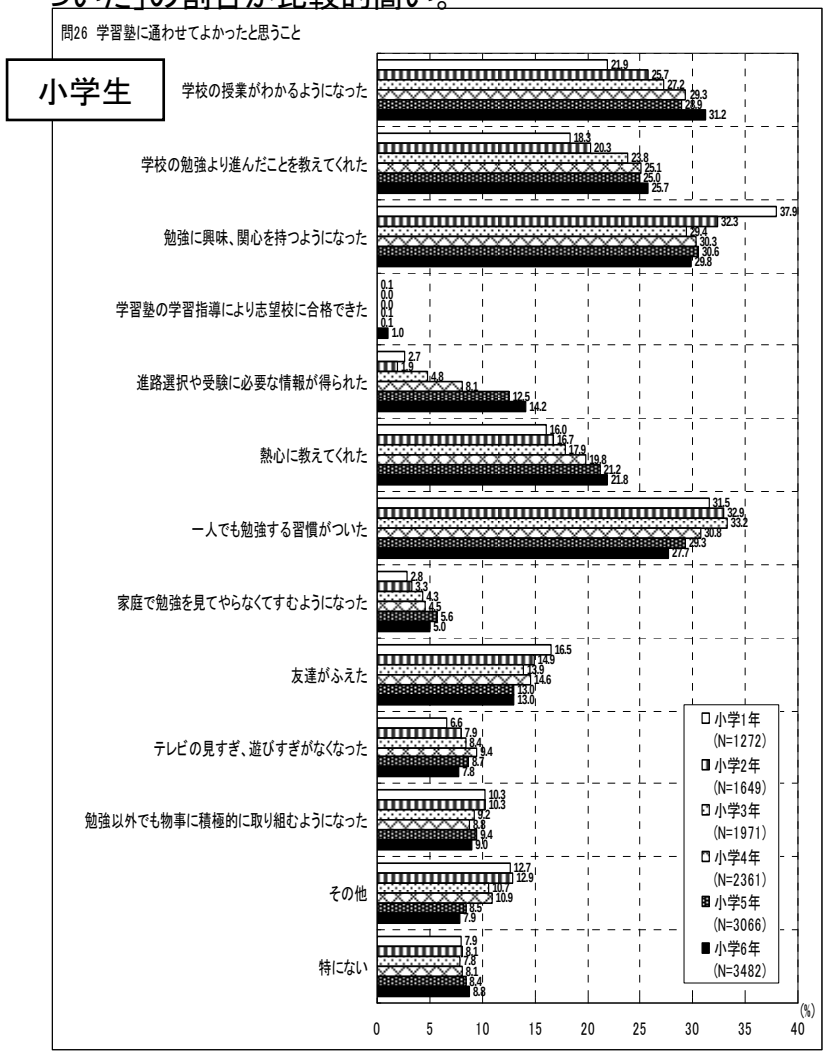
（３）通塾で良かったと思うこと【保護者調査（小１～中３）、子ども調査（小３～中３）】

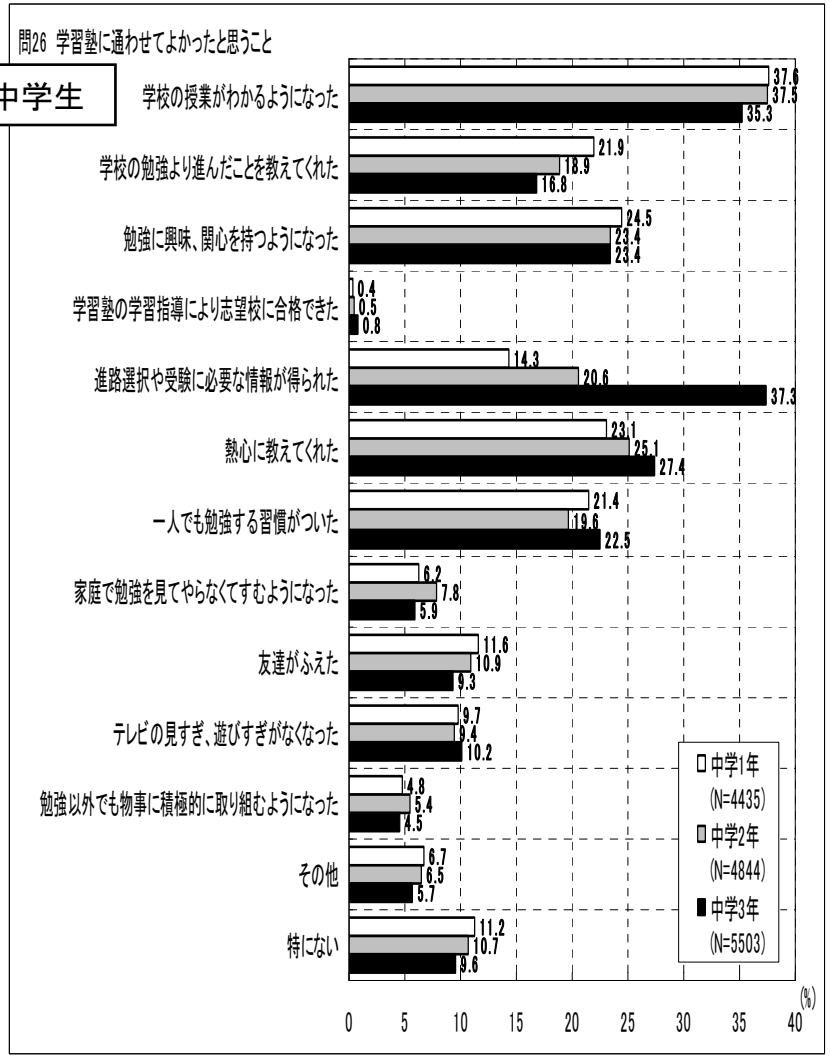
①保護者の意識（平成19年11月時点）

・小学生では、「学校の授業がわかるようになった」は高学年の方が比較的高く、「勉強に興味、関心を持つようになった」や「一人でも勉強する習慣がついた」、「学校の勉強より進んだことを教えてくれた」は低学年の方が比較的割合が高い。

・一方、「進路選択や受験に必要な情報が得られた」は、小学5・6年で10%を超え、「熱心に教えてくれた」は学年が上がるほど割合が高い。

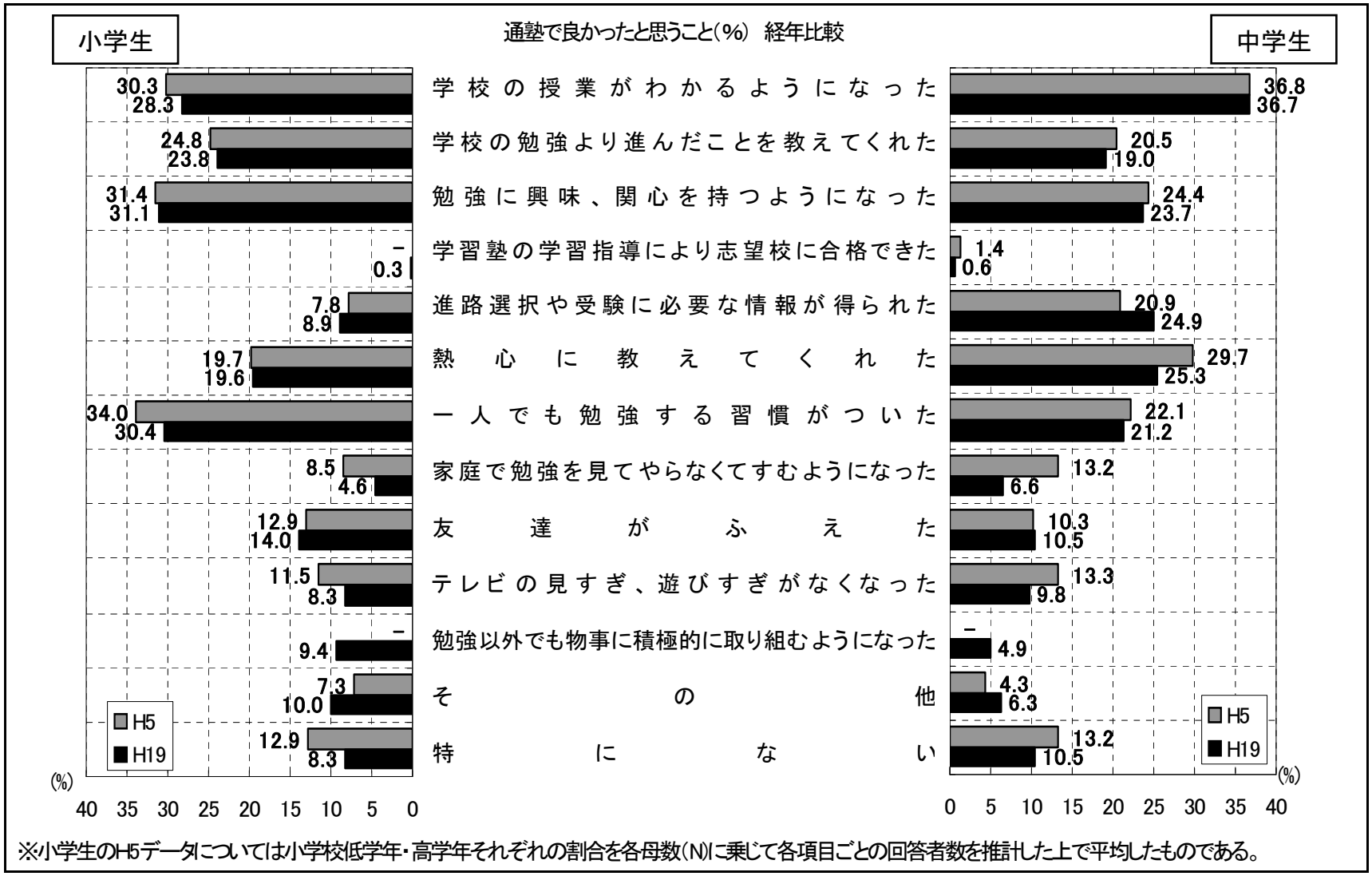
・中学生では、各学年とも「学校の授業がわかるようになった」の割合が高いが、中学3年では「進路選択や受験に必要な情報が得られた」の割合が最も高い。その他、「熱心に教えてくれた」や「勉強に興味、関心を持つようになった」、「一人でも勉強する習慣がついた」の割合が比較的高い。





（経年比較）

・小学生では、平成５年調査と同様に、「勉強に興味、関心を持つようになった」や「一人でも勉強する習慣がついた」、「学校の授業がわかるようになった」の割合が3割前後で上位を占めている。
・中学生では、平成５年調査とほぼ同値で「学校の授業がわかるようになった」の割合が最も高い。



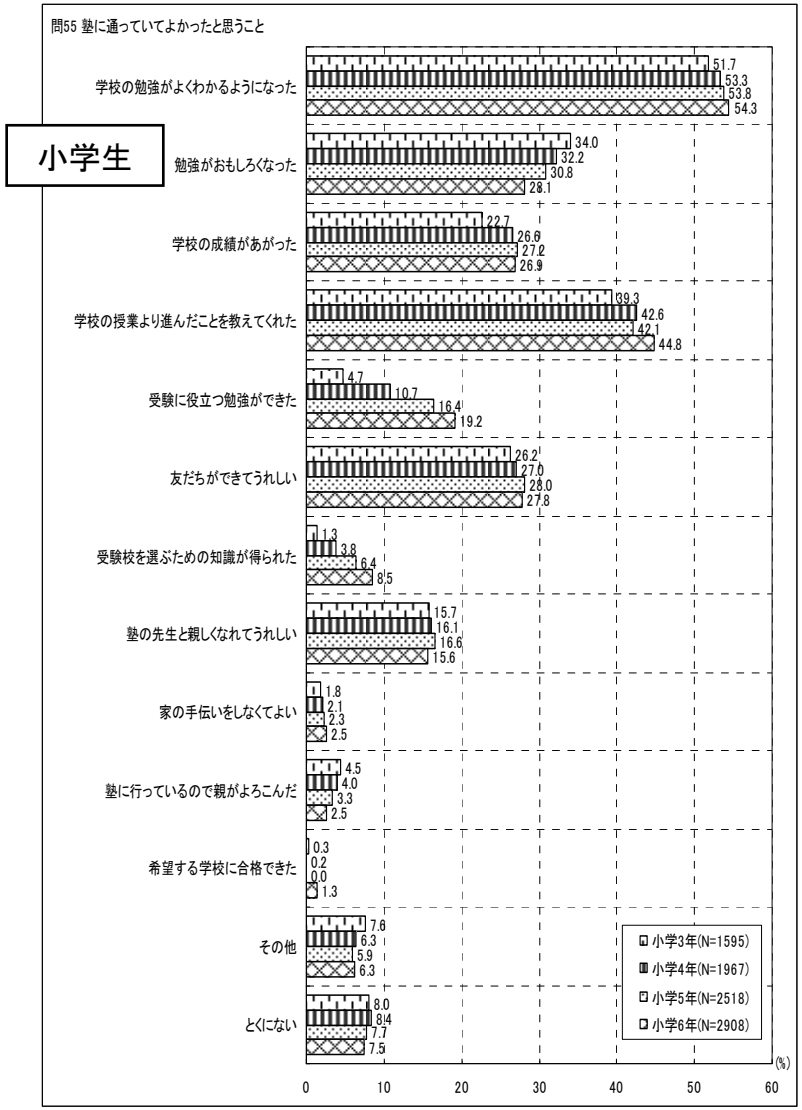
※小学生のH5データについては小学校低学年・高学年それぞれの割合を各母数（N）に乗じて各項目ごとの回答者数を推計した上で平均したものである。

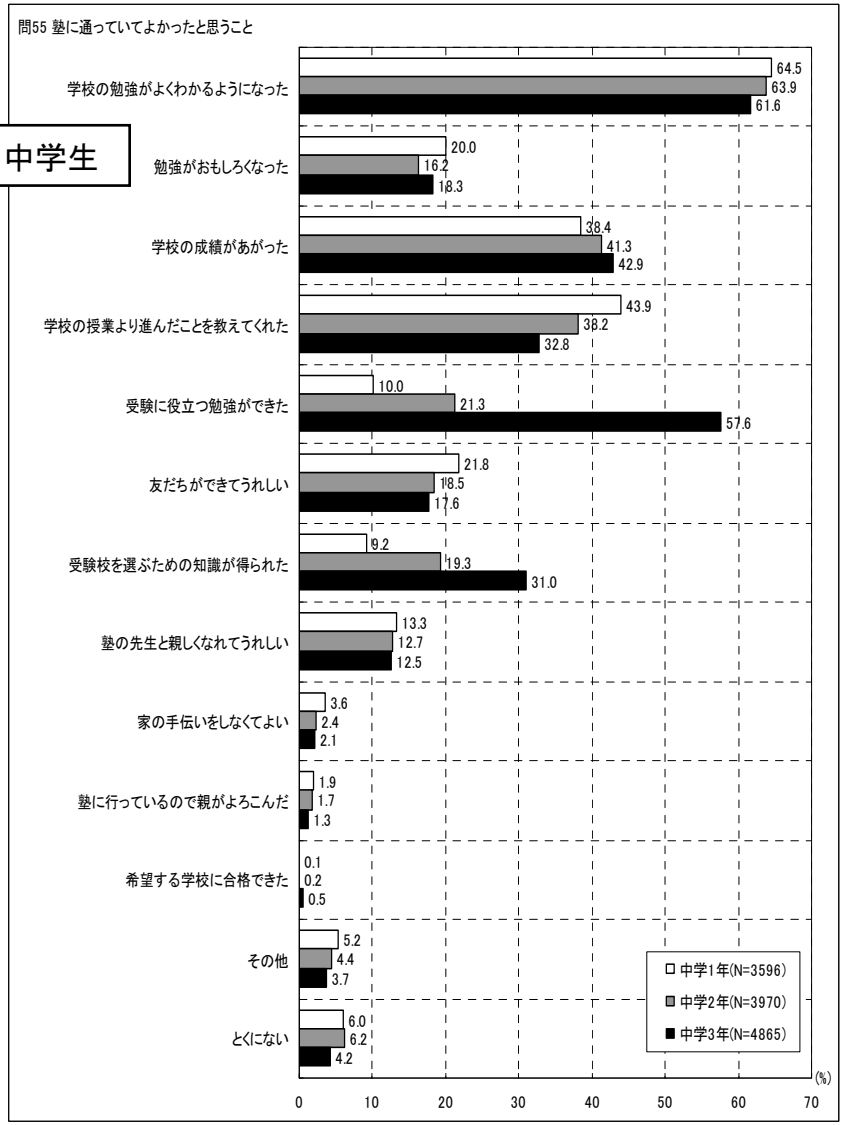
②子どもの意識

（平成19年11月時点）

・小学生では、「学校の勉強がよくわかるようになった」が各学年とも5割以上と高く、「学校の授業より進んだことを教えてくれた」が各学年とも4割前後と比較的割合が高くなっている。

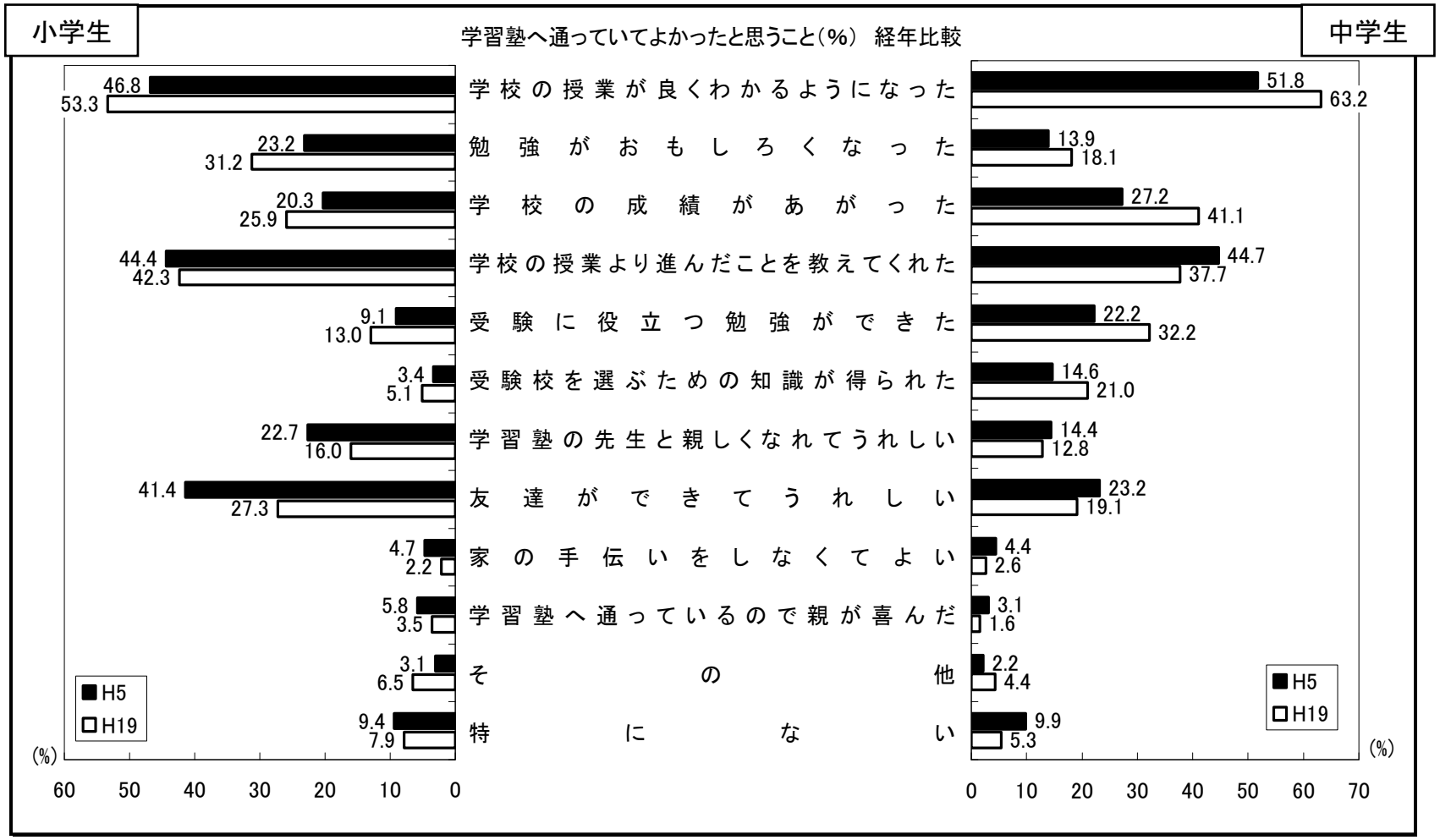
・中学生では、「学校の勉強がわかるようになった」が各学年とも6割を超え最も割合が高いが、中学3年では「受験に役立つ勉強ができた」が6割弱となっている。





（経年比較）

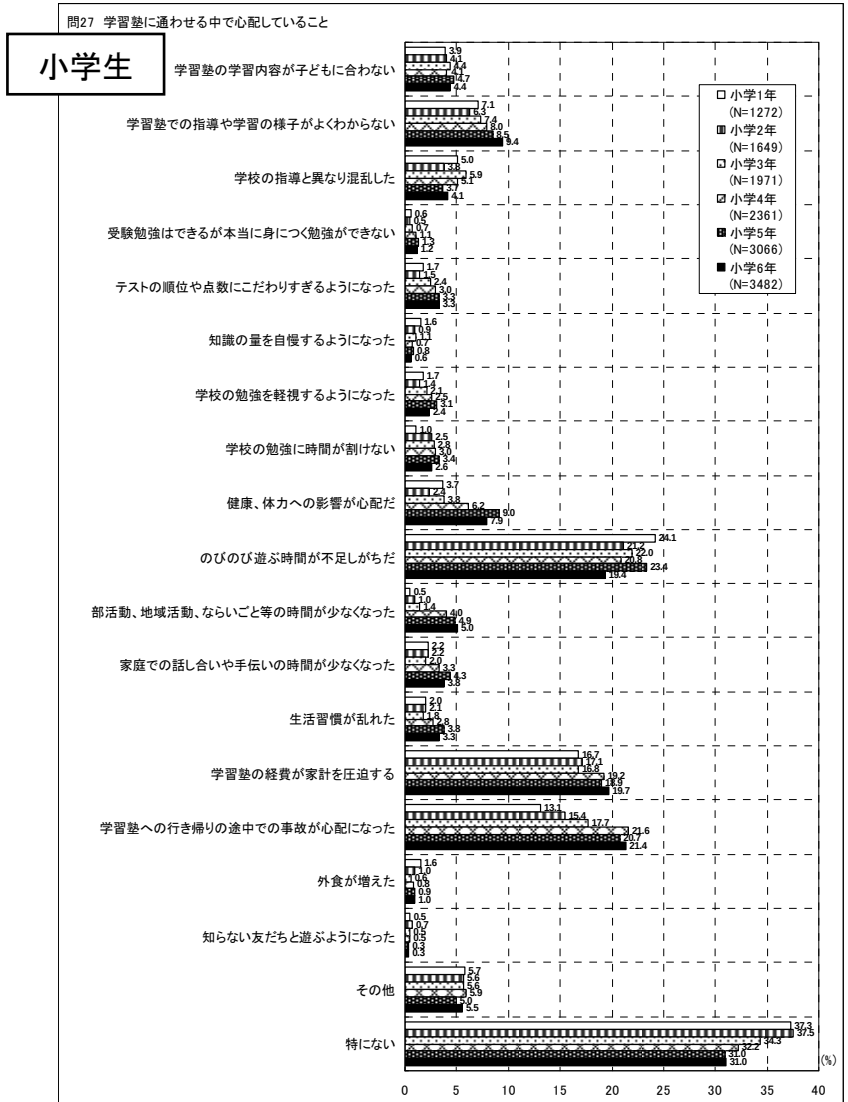
・小中ともに、全体でみると、平成5年調査と同様に今回調査においても「学校の授業が良くわかるようになった」の割合が最も高く、次いで「学校の授業より進んだことを教えてくれた」の割合が比較的高いが、特に中学生では、「学校の成績があがった」の割合も高い。
・その他、「勉強がおもしろくなった」や「受験に役立つ勉強ができた」、「受験校を選ぶための知識が得られた」などは、平成5年調査から今回調査にかけて割合が増加。

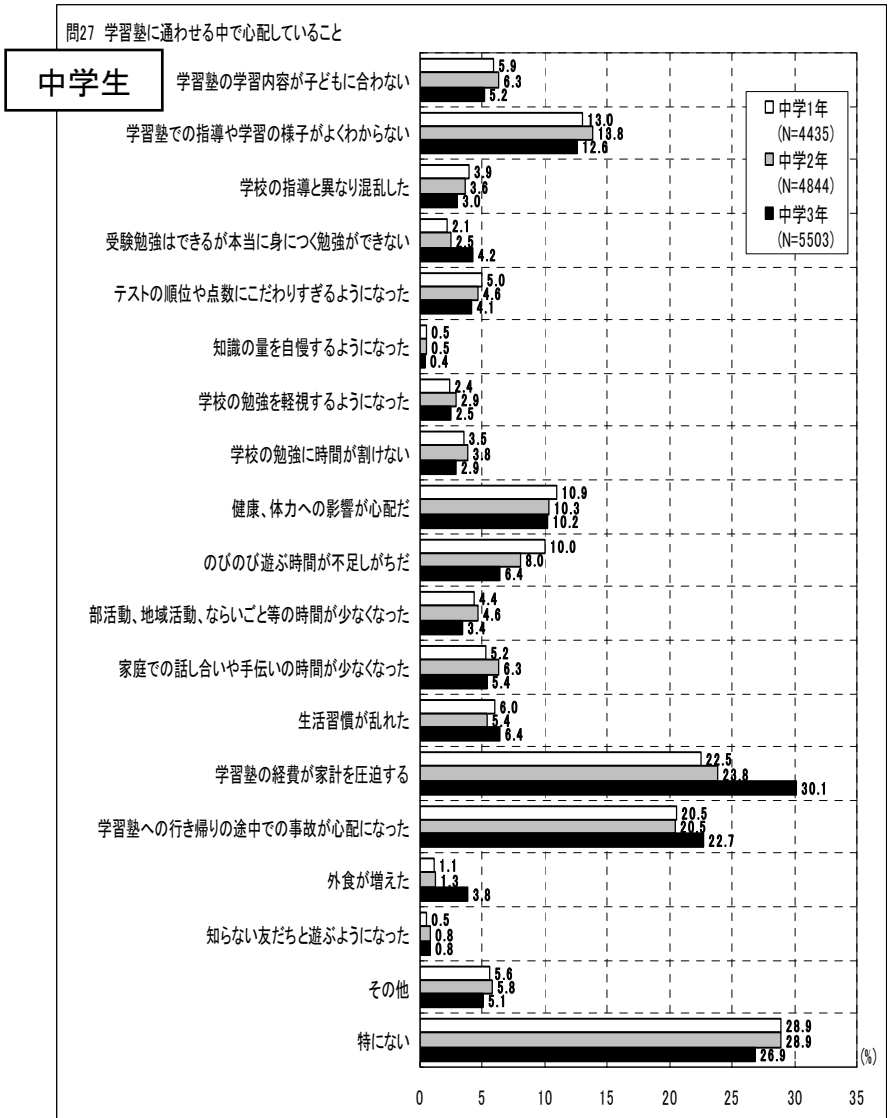


（４）通塾で心配していること【保護者調査（小１～中３）、子ども調査（小３～中３）】

①保護者の意識（平成19年11月時点）

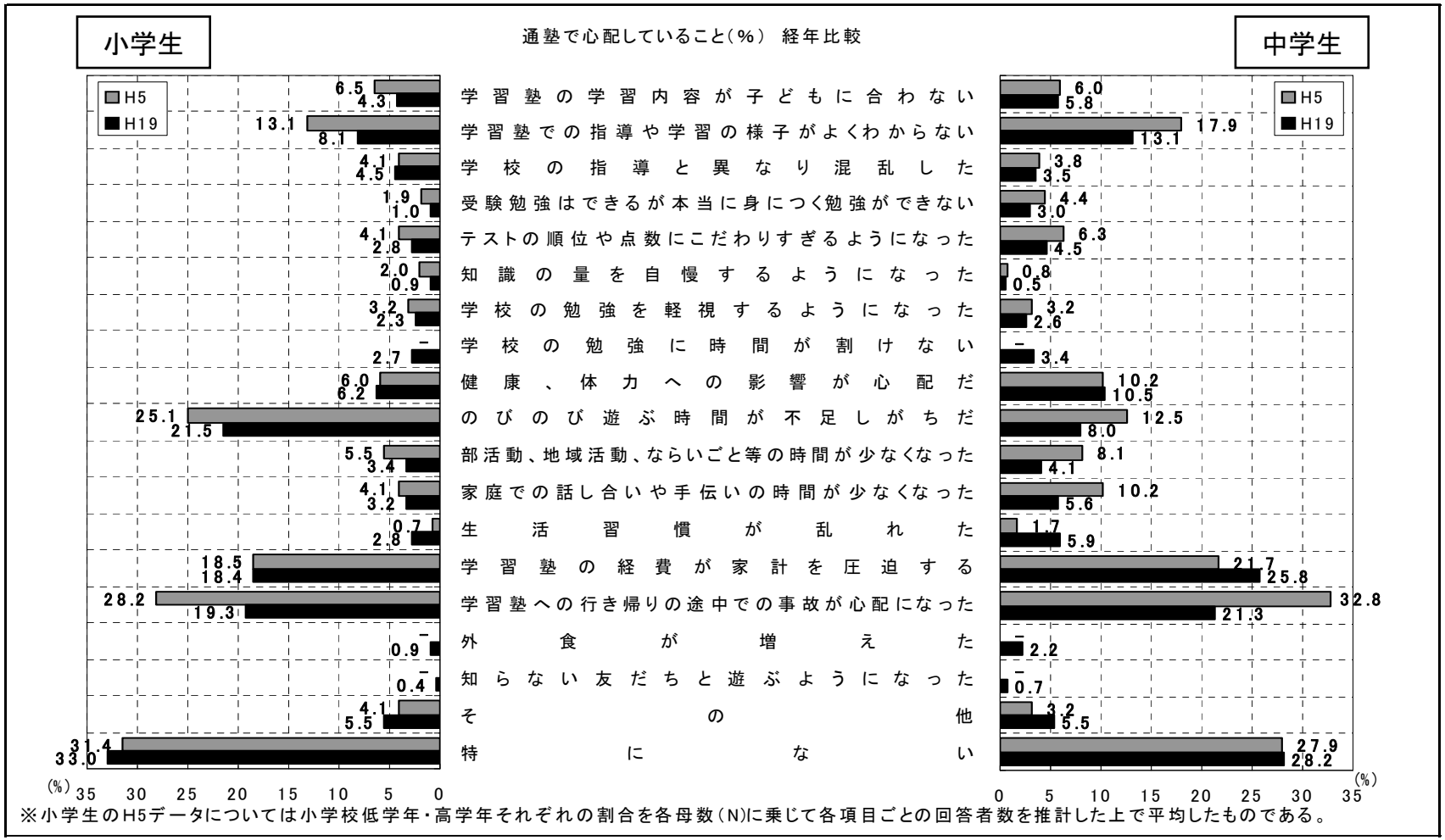
・小学生では、各学年とも「特にない」の割合が最も高いが、その割合は低学年の方がより高い。次いで、「のびのび遊ぶ時間が不足しがちだ」や「学習塾の経費が家計を圧迫する」、「学習塾への行き帰りの途中での事故が心配になった」の割合が比較的高い。
・中学生では、「特にない」は中学1年・2年ではともに3割弱と最も割合が高いが、「学習塾の経費が家計を圧迫する」は中学1・2年で約2割、中学3年では約3割で「特にない」の26．9%を上回って最大となっている。
・その他では、各学年とも「学習塾への行き帰りの途中での事故が心配になった」が2割強と比較的割合が高い。





（経年比較）

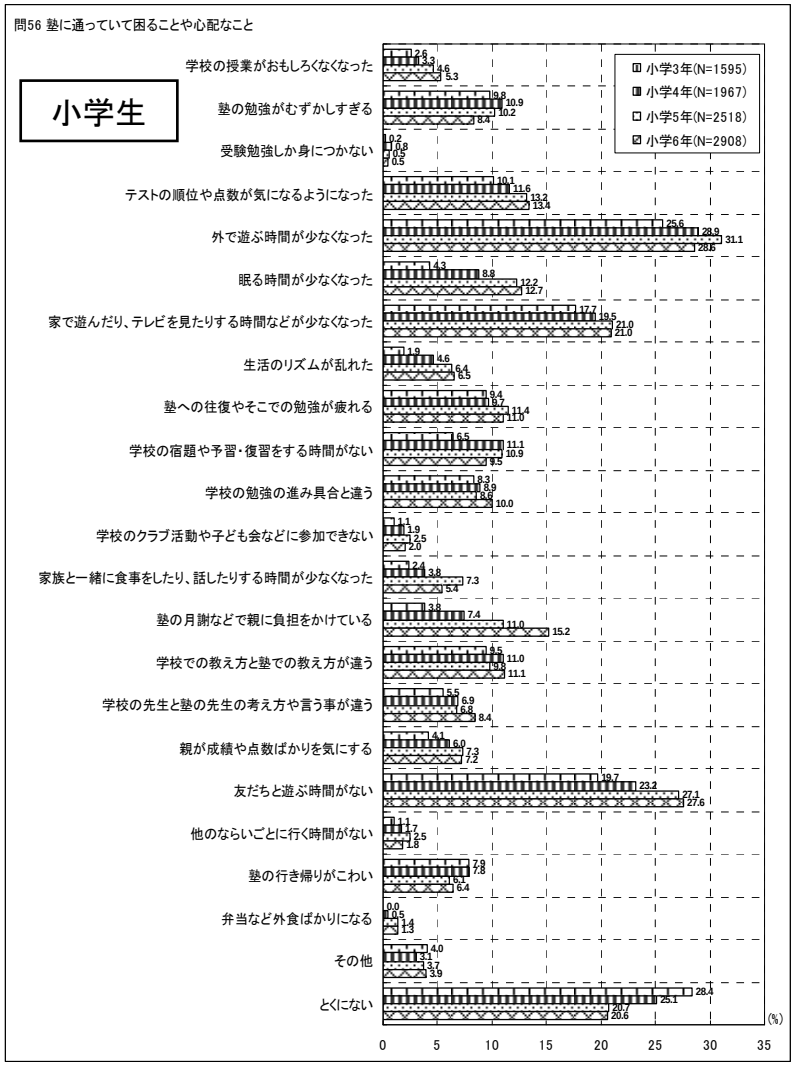
・小学生では、平成5年調査と同様、「特にない」の割合が最も高く、その他では「のびのび遊ぶ時間が不足しがちだ」や「学習塾への行き帰りの途中での事故が心配になった」、「学習塾の経費が家計を圧迫する」が上位を占めている。
・中学生では、平成5年調査で最も割合の高かった「学習塾への行き帰りの途中での事故が心配になった」が10ポイント以上低下し、今回調査では、小学生と同様、「特にない」の割合が最も高くなり、次いで「学習塾の経費が家計を圧迫する」が平成5年調査より4. 1ポイント上昇し、上位を占めている。

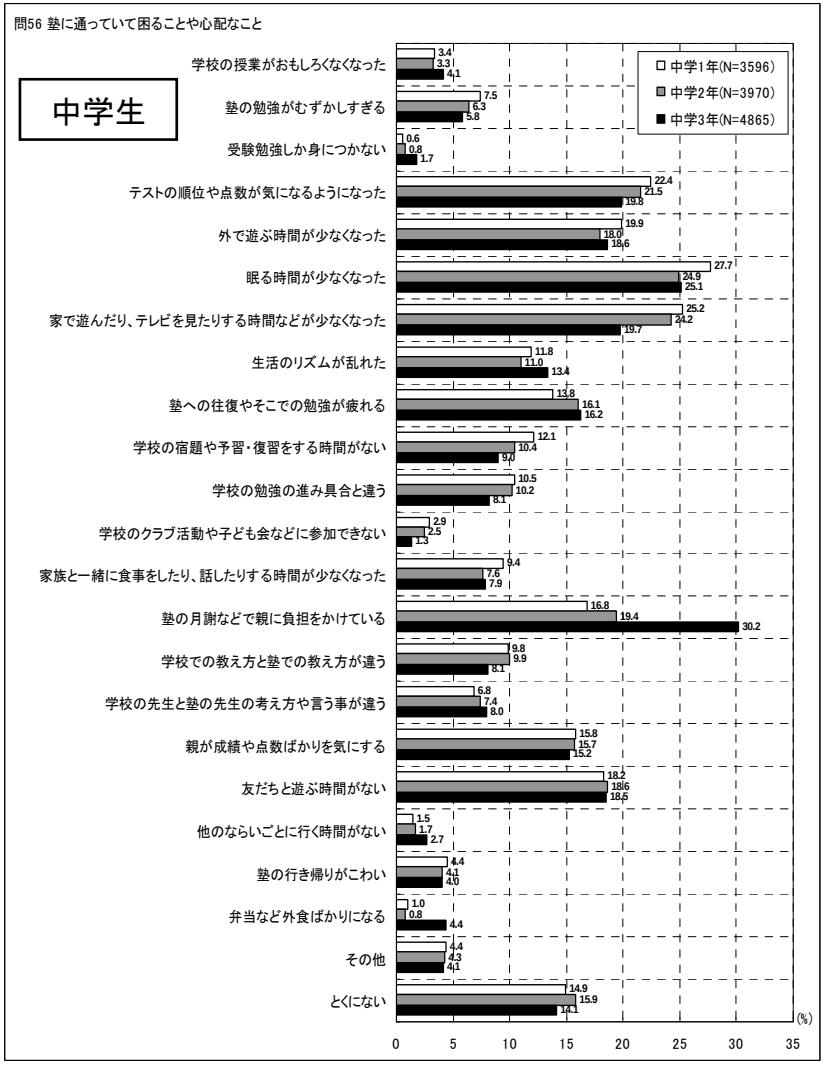


※小学生のH5データについては小学校低学年・高学年それぞれの割合を各母数（N)に乗じて各項目ごとの回答者数を推計した上で平均したものである。

②子どもの意識
（平成19年11月時点）

・小学生では、「とくにない」も比較的高い（特に小学3年生）が、「外で遊ぶ時間が少なくなった」や「友だちと遊ぶ時間がない」、「家で遊んだり、テレビを見たりする時間などが少なくなった」などが各学年で割合が高く、その割合は概ね学年が上がるほど高い。
・中学生では、特に中学3年で「塾の月謝などで親に負担をかけている」が約3割と最も高い。
・その他、各学年を通じて、「眠る時間が少なくなった」や「家で遊んだり、テレビを見たりする時間などが少なくなった」、「テストの点数が気になるようになった」などの割合が高い。なお、「とくにない」は各学年とも15%前後である。

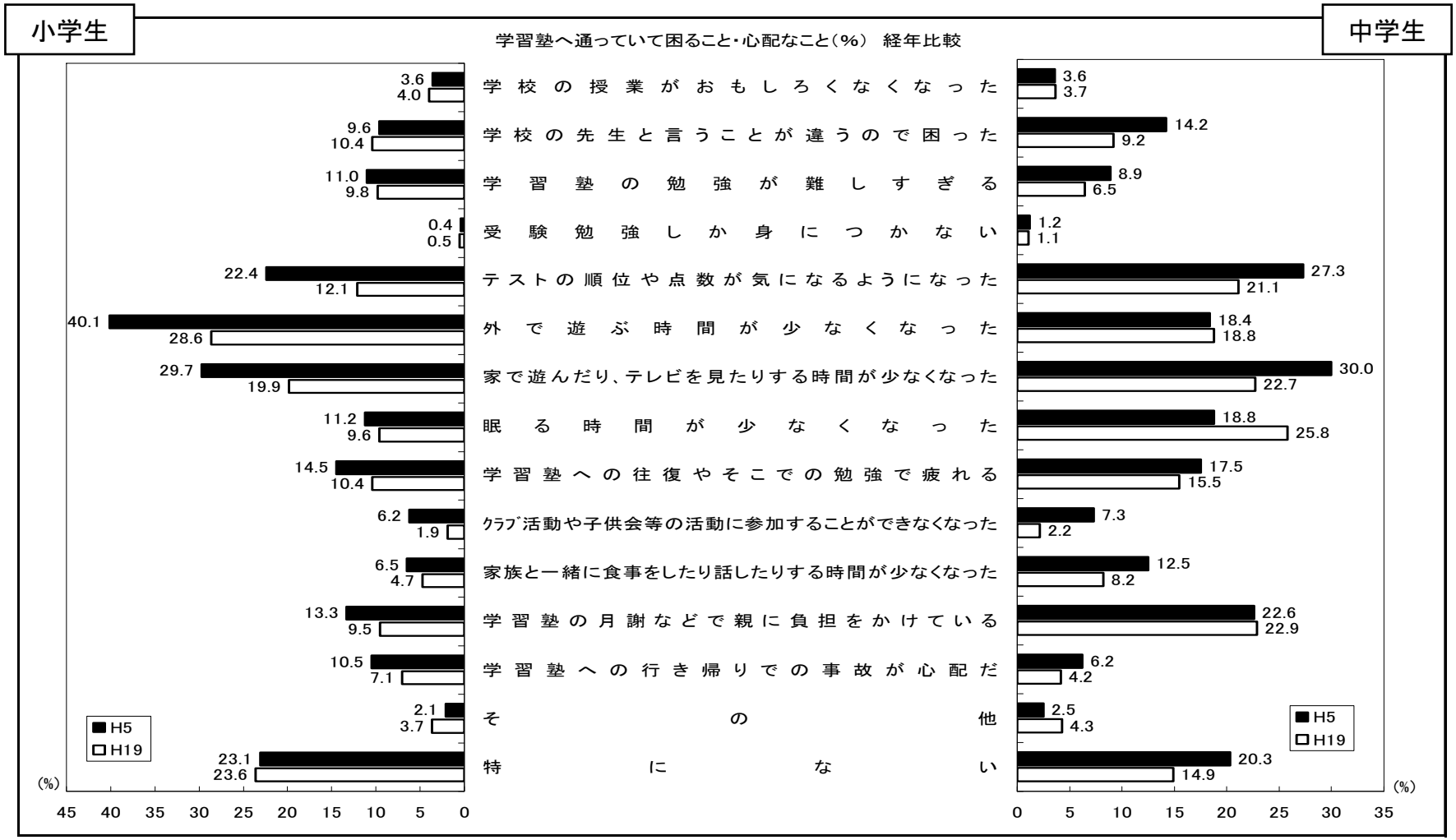




（経年比較）

・小学生では、平成5年調査と同様、「外で遊ぶ時間が少なくなった」の割合が最も高いが、その割合は10ポイント以上減少。また、「特にない」の他、ポイントは低下しているが、「家で遊んだり、テレビを見たりする時間が少なくなった」や「テストの順位や点数が気になるようになった」が平成5年調査と同様、上位を占めている。

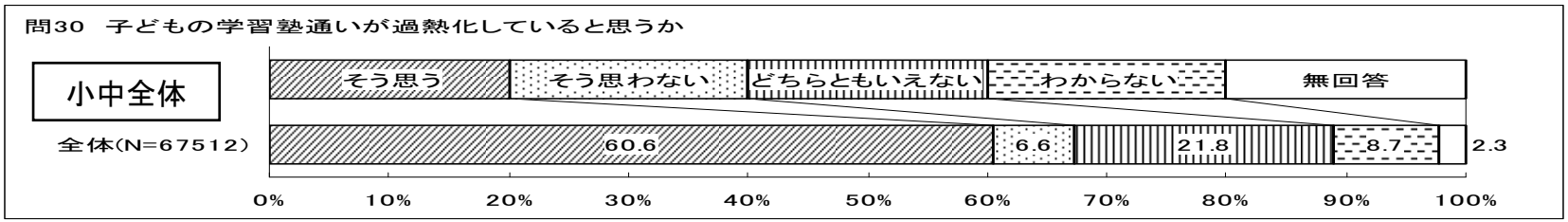
・中学生では、小学生とほぼ同様の傾向が見られるが、「眠る時間が少なくなった」の割合が7.0ポイント増加し最も高い割合となっており、次いで「学習塾の月謝などで親に負担をかけている」が平成5年調査と同様、上位を占めている。

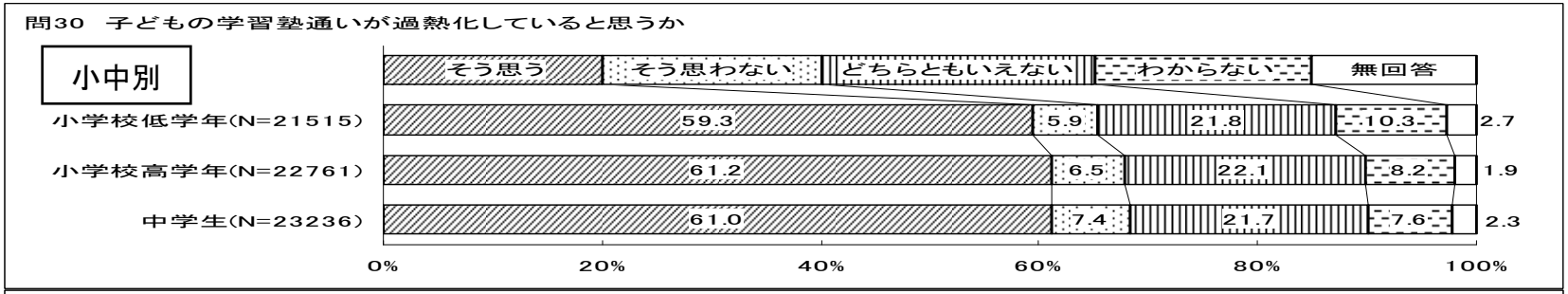


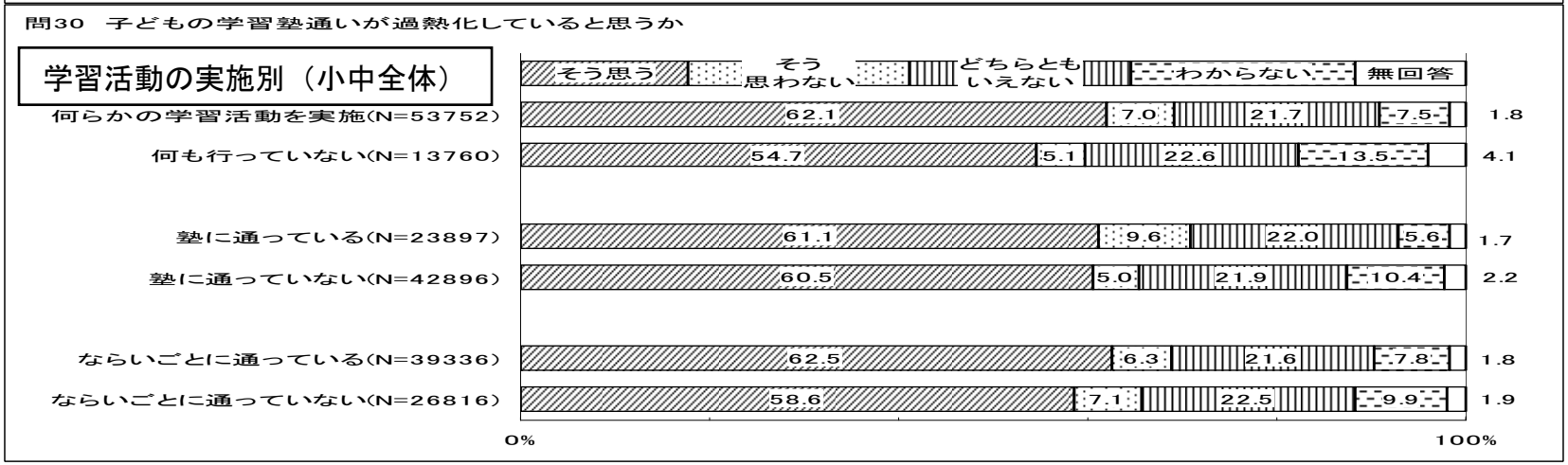
（５）塾通いの過熱化について【保護者調査（小１～中３）】

①塾通いの過熱化に対する意識（平成19年11月時点）

・小中全体で約6割の保護者が「過熱化していると思う」としており、「過熱化していると思わない」は6.6%であり、小低学年、小高学年、中学生の間で大きな差はみられない。
・また、「過熱化していると思う」の割合は、子どもを塾に通わせているか否かでは大きな差異はみられないが、「過熱化していると思わない」の割合は、塾に通っている子どもの保護者の方が割合が高い。



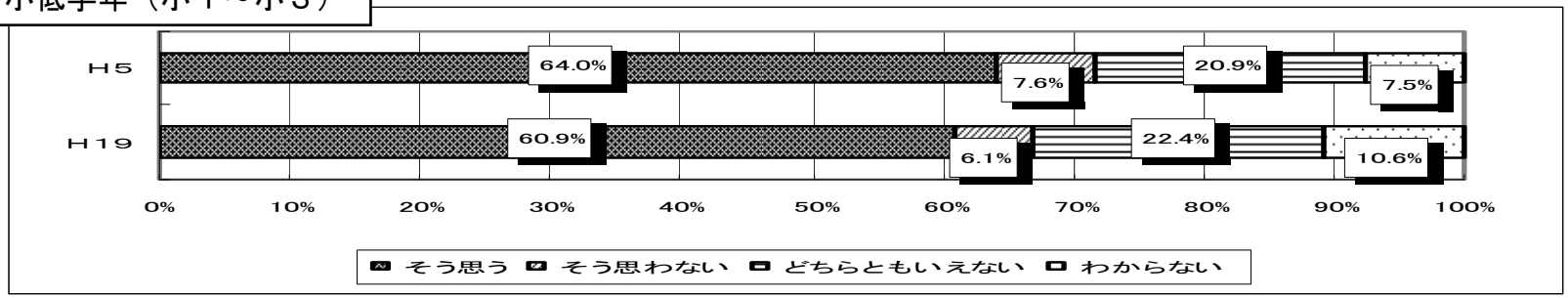




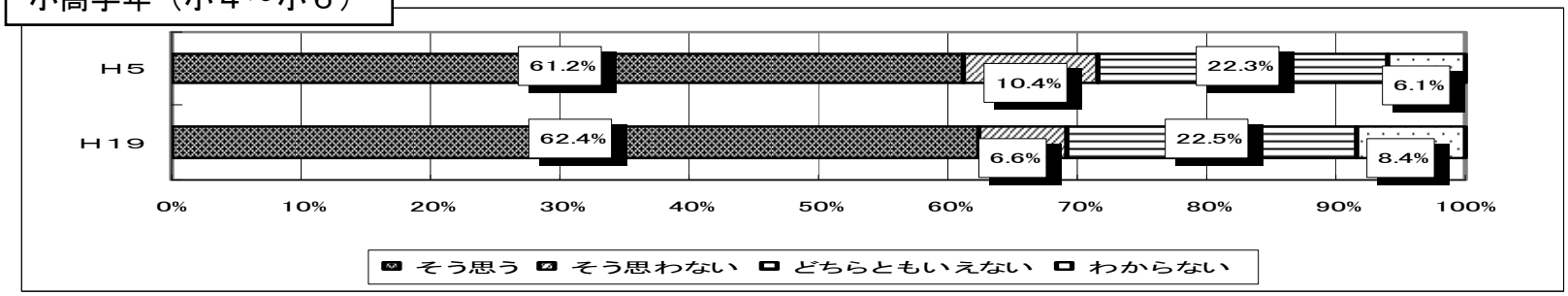
（経年比較）

・小中全体を通じて、平成5年調査から今回調査にかけて、「過熱化していると思う」の割合は、6割前後で大きな差はない。

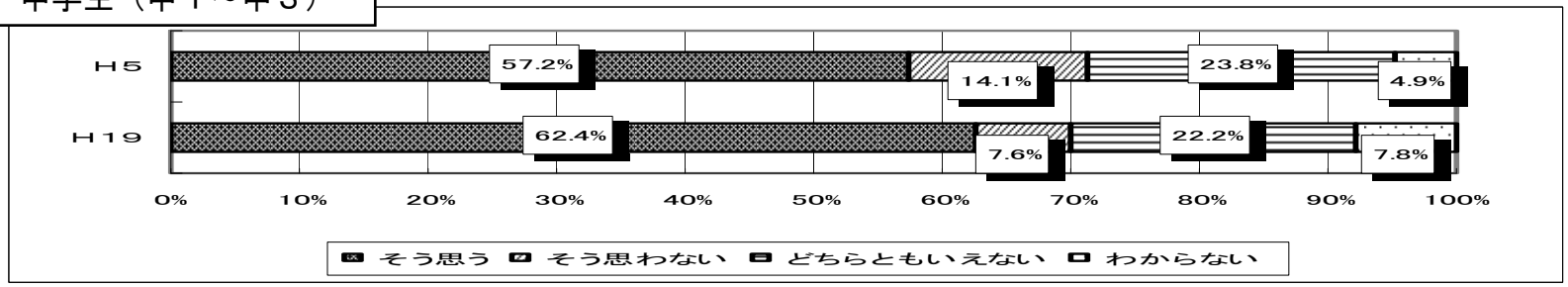
小低学年（小１～小３）



小高学年（小４～小６）



中学生（中１～中３）

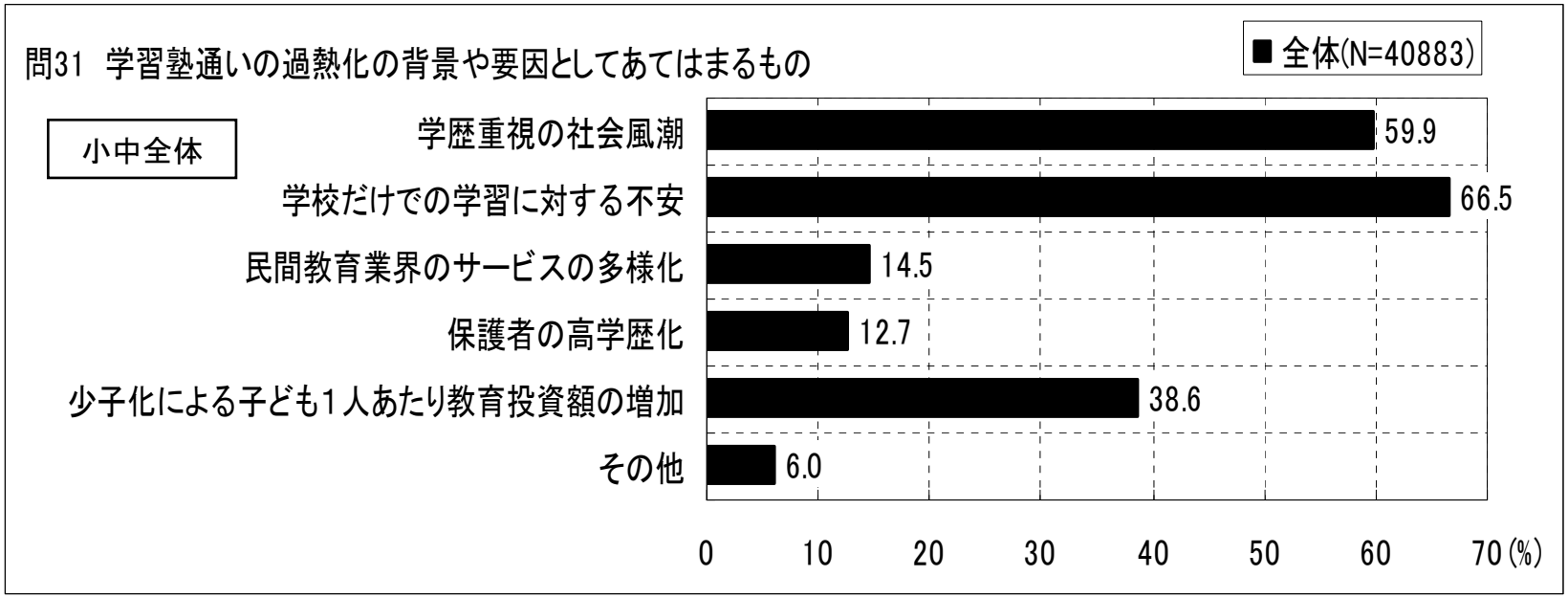


※平成5年調査の結果との経年比較をより正確に行うため、今回調査の結果については、「無回答」を除いた何らかの回答をした者の中で各項目の占める割合を算出している。したがって、P58の「小中別」の数値とは多少異なる。

②塾通いの過熱化の背景・要因（平成19年11月時点）

＜全　体＞

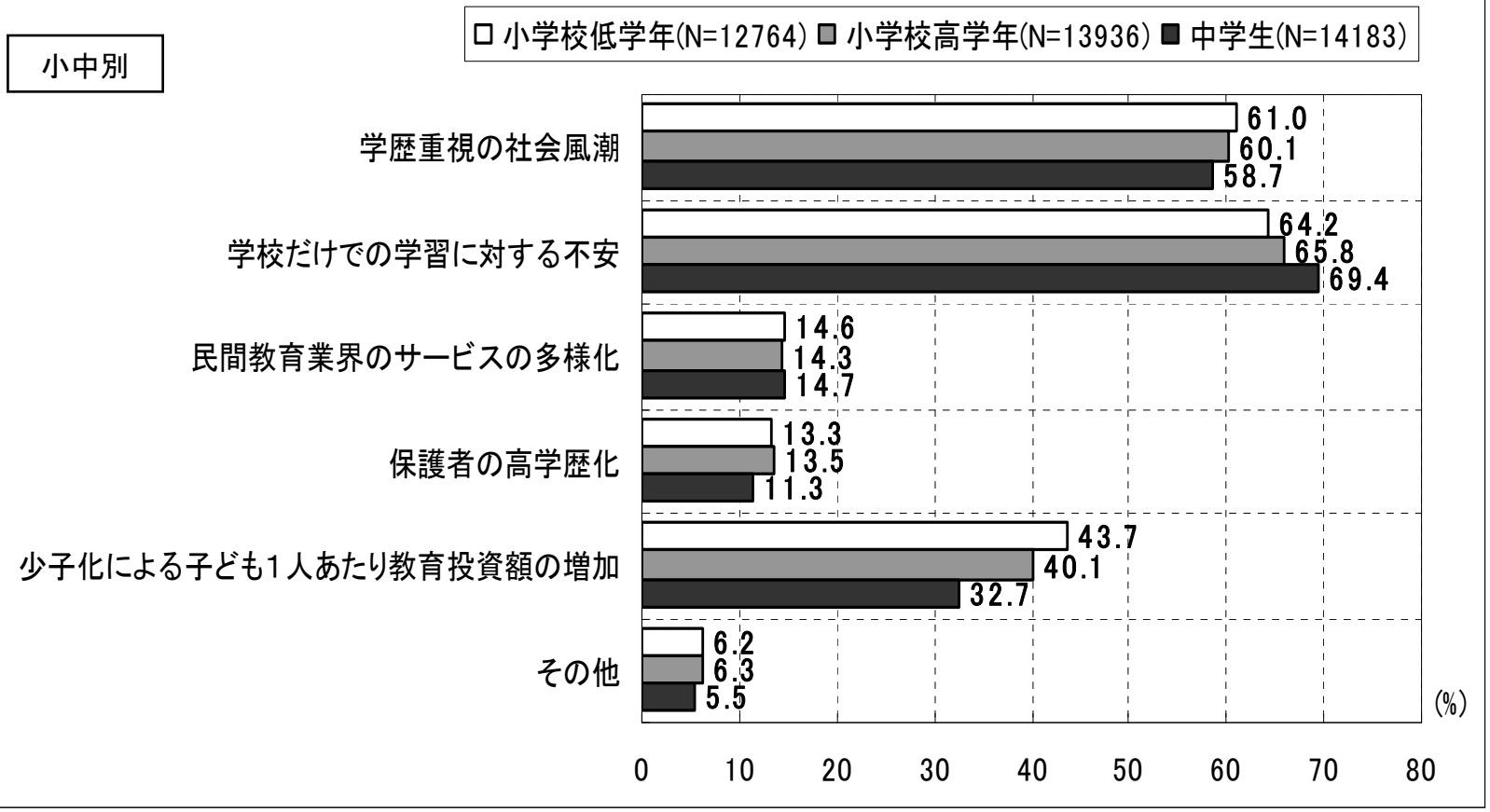
・塾通いが「過熱化していると思う」と回答した保護者について、小中全体を通じて、「学校だけでの学習に対する不安」や「学歴重視の社会風潮」を挙げる割合が高く、６割前後となっている。
・なお、「少子化による子ども１人あたり教育投資額の増加」は４割弱である。



＜小・中学校別＞

・「学校だけでの学習に対する不安」の割合は、小低学年、小高学年、中学生と学年層が上がるにつれて増加。
・一方、「学歴重視の社会風潮」は、その逆の傾向がみられ、「少子化による子ども1人あたり教育投資額の増加」も、学年層が上がるにつれて減少しており、その減少幅は比較的大きい。

問31　学習塾通いの過熱化の背景や要因としてあてはまるもの

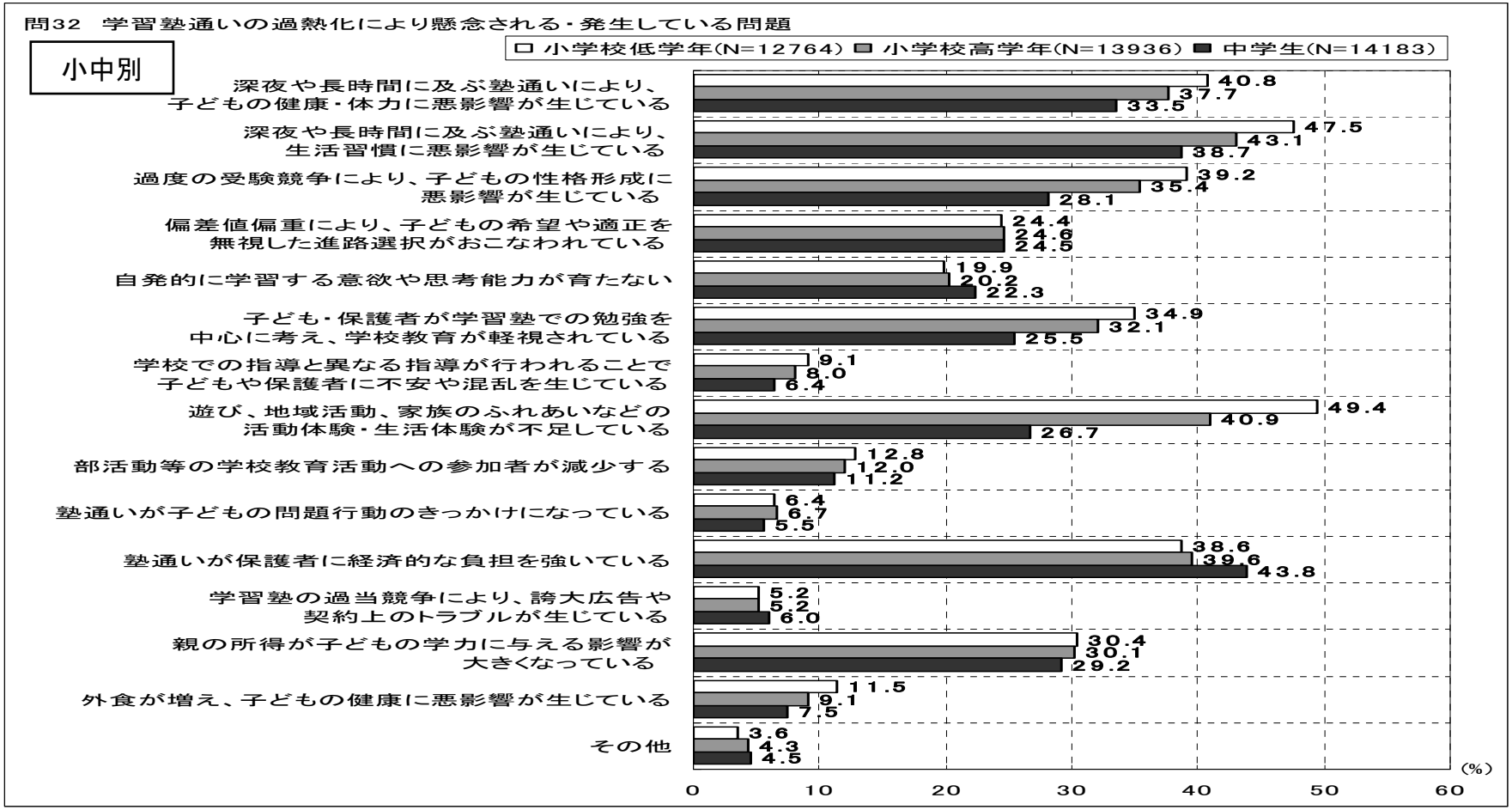


③塾通いの過熱化により懸念される問題

（平成19年11月時点）

＜小・中学校別＞

・小低学年、小高学年、中学生で比較すると、特に小低学年の保護者ほど「遊び、地域活動、家族のふれあいなどの活動体験・生活体験が不足している」ことを懸念する声が高く、小低学年では約5割となっている。
・このほか、健康面や生活習慣、子どもの性格形成への悪影響を懸念する声も、低学年の保護者ほど高くなっている。
・また、「子ども・保護者が学習塾での勉強を中心に考え、学校教育が軽視されている」との指摘も小低学年の保護者では比較的高い。
・一方、「塾通いが保護者に経済的な負担を強いている」は高学年ほど割合が高くなっており、中学生の保護者では43.8%と最も懸念される問題となっている。

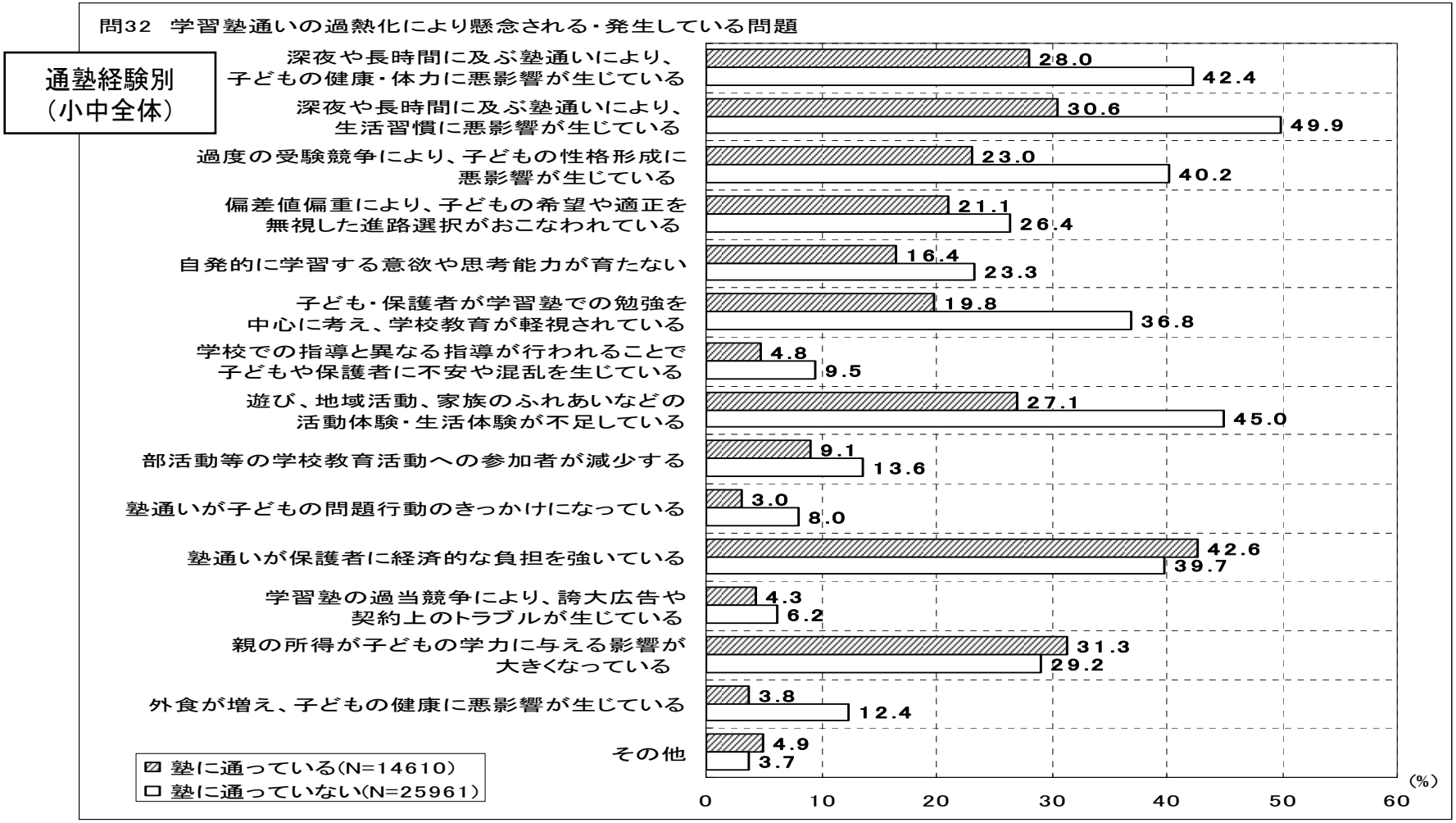


＜通塾経験別＞

・通塾の有無で比較すると、小中全体で、子どもの健康や体力、生活習慣や性格形成に悪影響が生じることを懸念する声は、「学習塾に通わせていない保護者」において4割以上と高くなっており、「学習塾に通わせている保護者」との開きが大きくなっている。

・「子ども・保護者が学習塾での勉強を中心に考え、学校教育が軽視されている」や「遊び、地域活動、家族のふれあいなどの活動体験・生活体験が不足している」についても、「学習塾通いをさせていない保護者」でより多くから指摘されている。

・一方、「学習塾に通わせている保護者」からは、塾通いの経済的な負担や所得による影響を懸念する声がより高くなっている。



（経年比較）

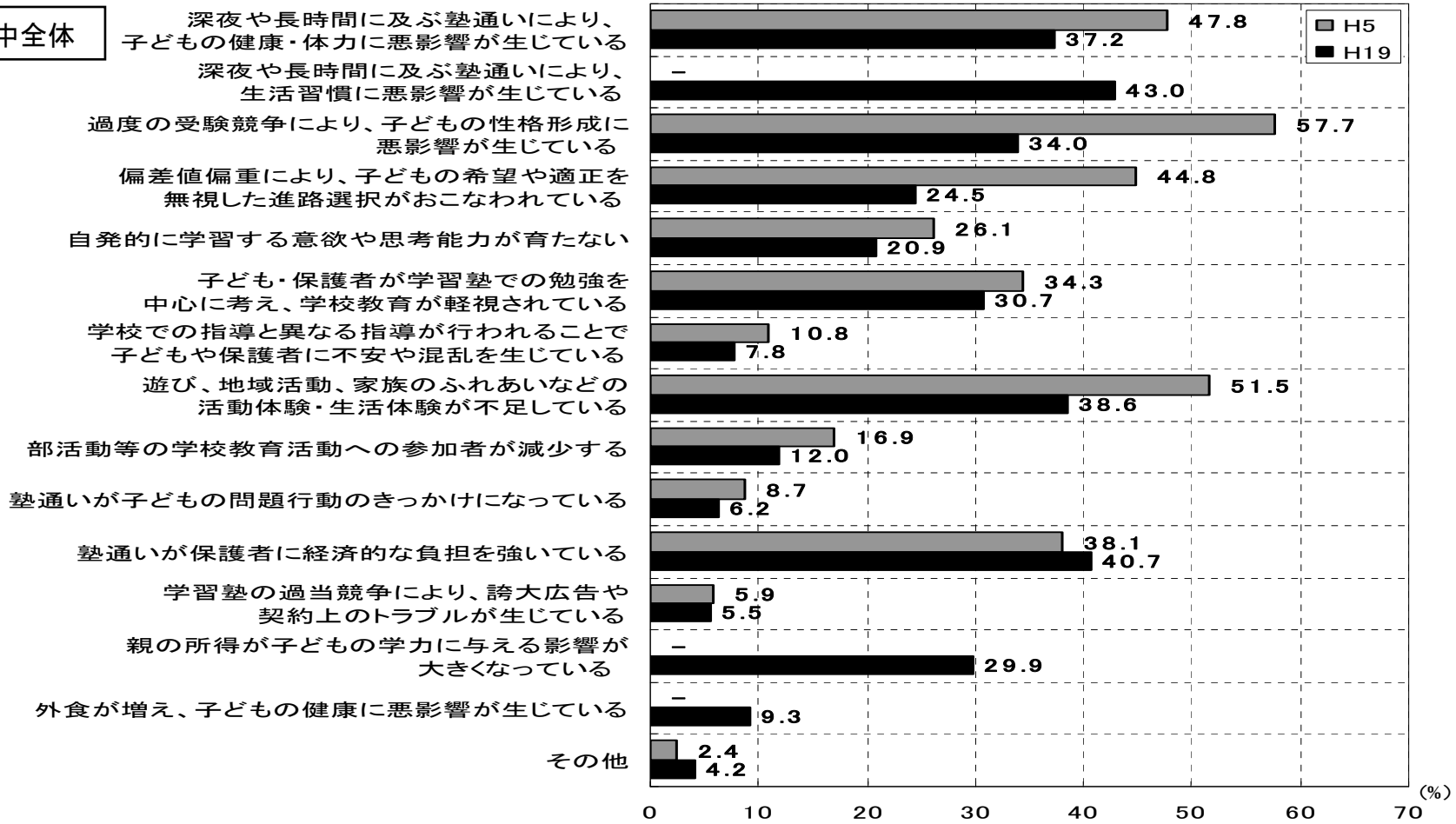
＜全　体＞

・小中全体でみると、平成5年調査で50%以上と上位を占めていた「過度の受験競争により、子どもの性格形成に悪影響が生じている」や「遊び、地域活動、家族のふれあいなどの活動体験・生活体験が不足している」の他、「偏差値偏重により、子どもの希望や適正を無視した進路選択がおこなわれている」などが、平成5年調査から減少している。

・一方、「塾通いが保護者に経済的な負担を強いている」については、平成5年調査に引き続き高い割合となっている。

学習塾通いの過熱化により懸念される・発生している問題　経年比較

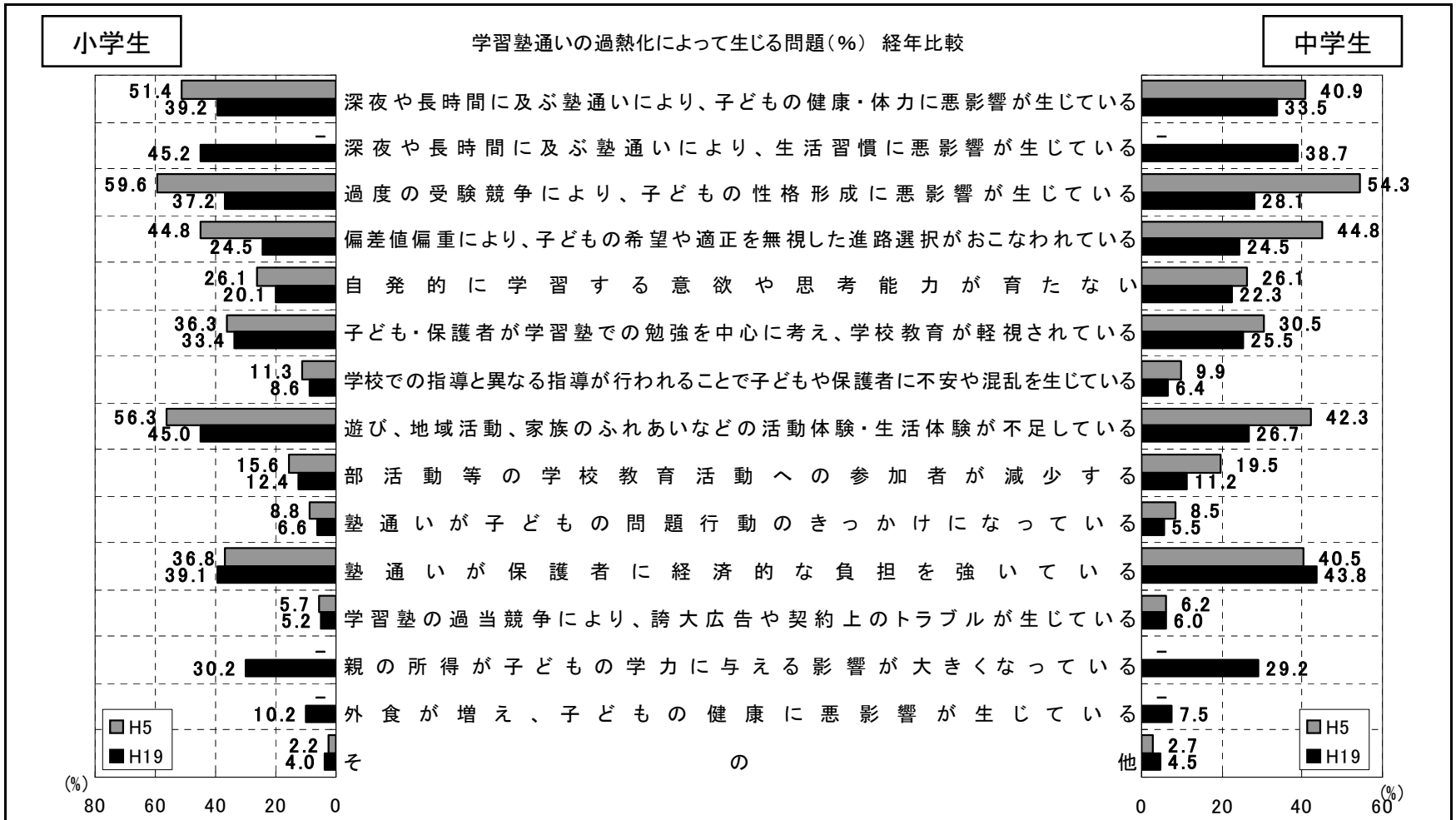
小中全体



＜小・中学校別＞

・小学生では、平成5年調査で最大であった「過度の受験競争により、子どもの性格形成に悪影響が生じている」など、平成5年調査から今回調査にかけて、ほとんどの項目でポイントが低下する中、「塾通いが保護者に経済的な負担を強いている」は若干ポイントが増加し、前回調査と同様、上位を占めている。

・一方、中学生では、小学生とほぼ同様の傾向にあるが、「塾通いが保護者に経済的な負担を強いている」は、平成5年調査より若干ポイントが上昇し、最も高い割合となっている。



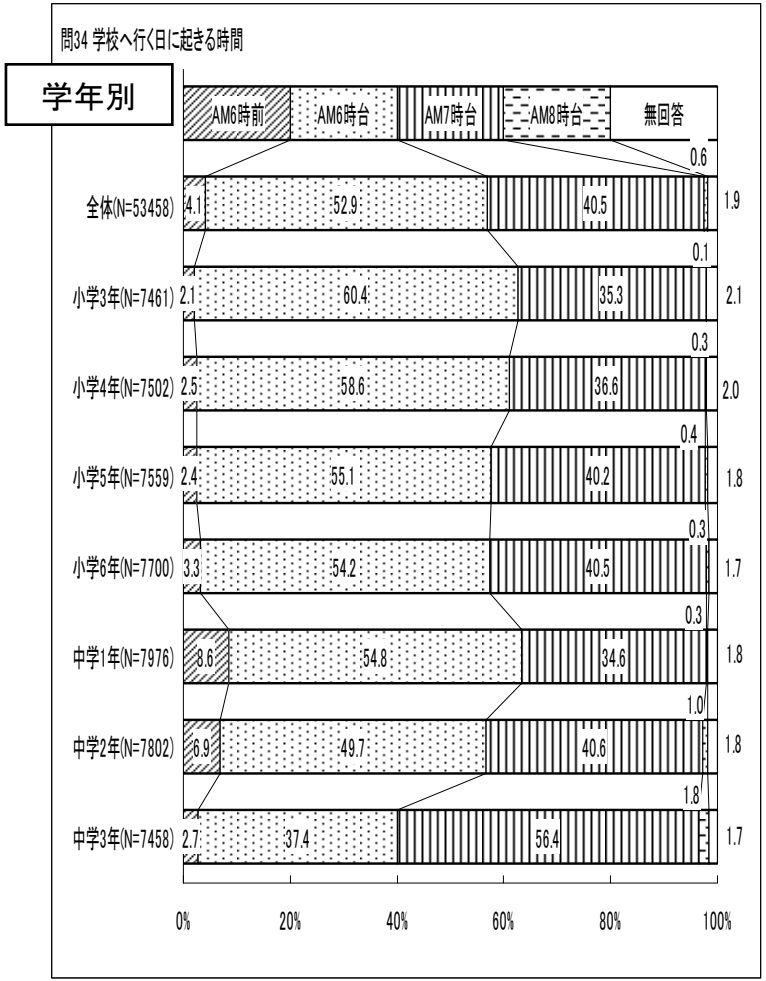
※小学生のH5データについては小学校低学年・高学年それぞれの割合を各母数（N)に乗じて各項目ごとの回答者数を推計した上で平均したものである。

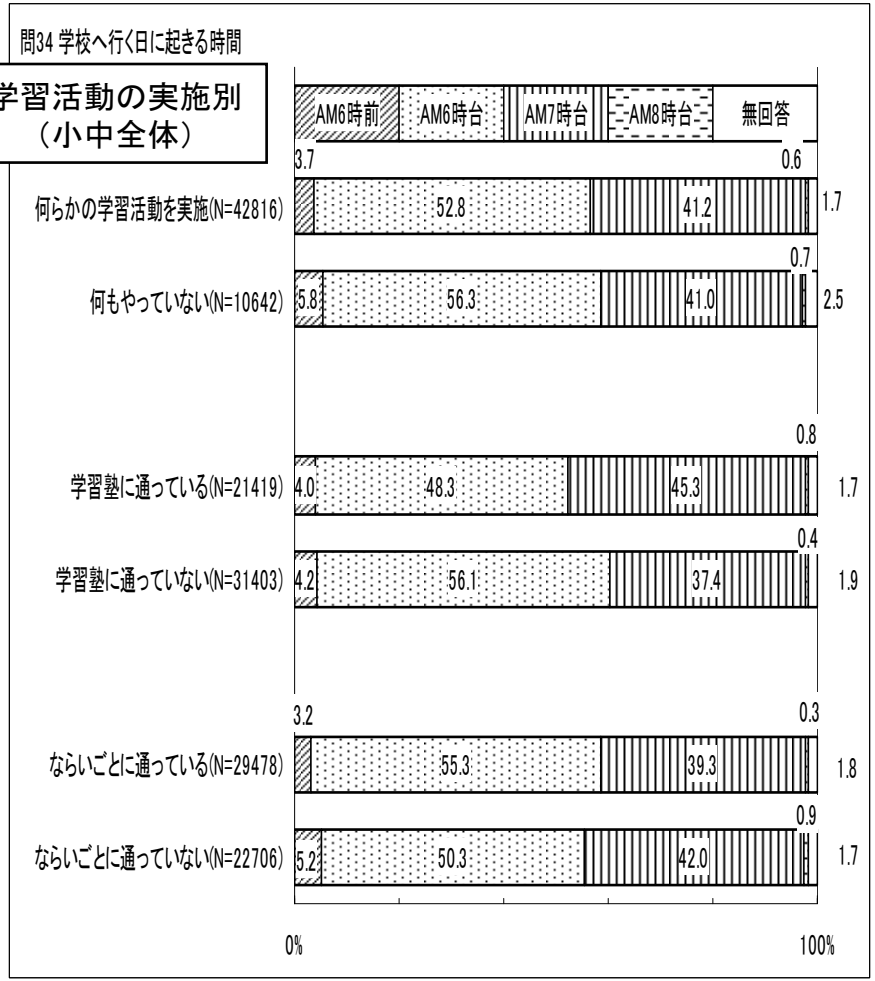
３．子どもの生活習慣と学校外での学習活動との関係【子ども調査（小３～中３）】

①起床時間（平成19年11月時点）

＜学校に行く日＞

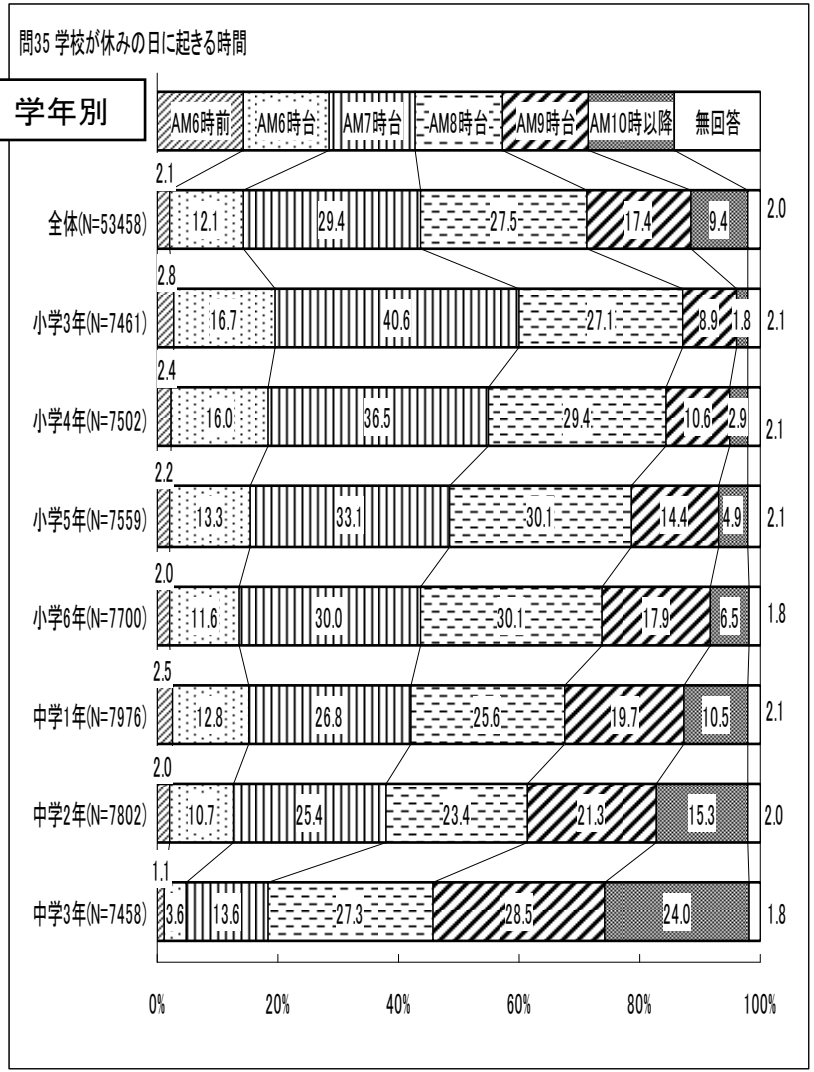
・小学生では、各学年とも「午前6時台」が5割以上となっているが、その割合は学年が上がるにつれて低下。一方、各学年とも「午前7時台」の割合も比較的高いが、その割合は学年が上がるにつれて増加。
・中学生では、中学1，2年で「午前6時台」が5割前後と最大であるが、中学3年では「午前7時台」が56.4%と最大。
・小中全体を通じて、学習塾に通っていない子どもは、「午前6時台」が5割を超えており、学習塾に通っている子どもよりも高い割合となっており、「午前6時前」の割合を含めて、学習塾に通っている子どもの方が遅い時間帯に起床する割合が高い。
・一方、ならいごとに通っていた子どもの方が通っていない子どもよりも早い時間帯に起床する割合が若干高くなっている。

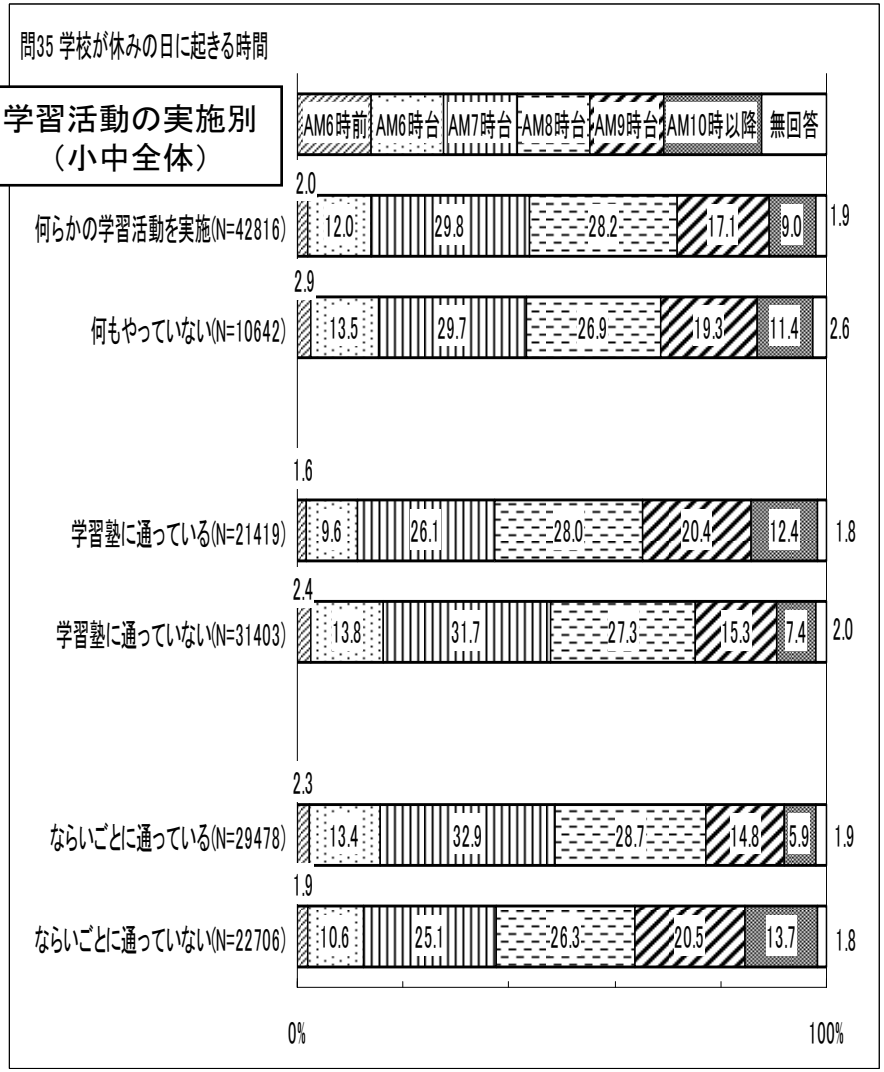




＜学校が休みの日＞

・小中全体を通じて、学年が上がるほど遅い時間帯に起床する子どもの割合が高くなっている。
・小学3年では、午前8時前の起床割合が6割以上だが、学年を追うごとにその割合は低くなり、中学3年では2割を下回っている。
・逆に「午前9時台」及び「午前10時以降」の割合は、学年が上がるにつれて高くなっており、中学3年では5割を超える。
・小中全体を通じて、学習塾に通っている子どもでは「午前9時台」の起床割合が約2割、「午前10時以降」の起床割合が1割強、と9時以降に起きる子どもが3割を超えており、学習塾に通っていない子どもより約10ポイント高い。
・一方、ならいごとに通っている子どもの5割弱は午前8時前に起床しているが、その割合はならいごとに通っていない子どもと比べて10ポイント以上高い。





②就寝時間

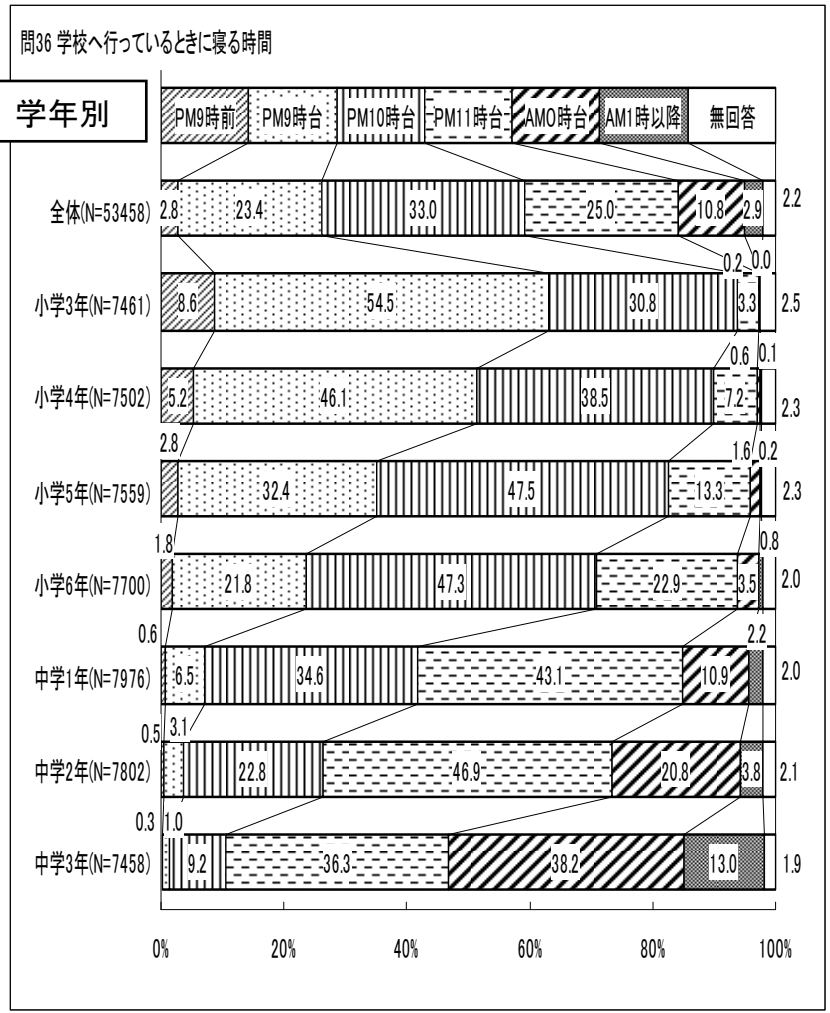
（平成19年11月時点）

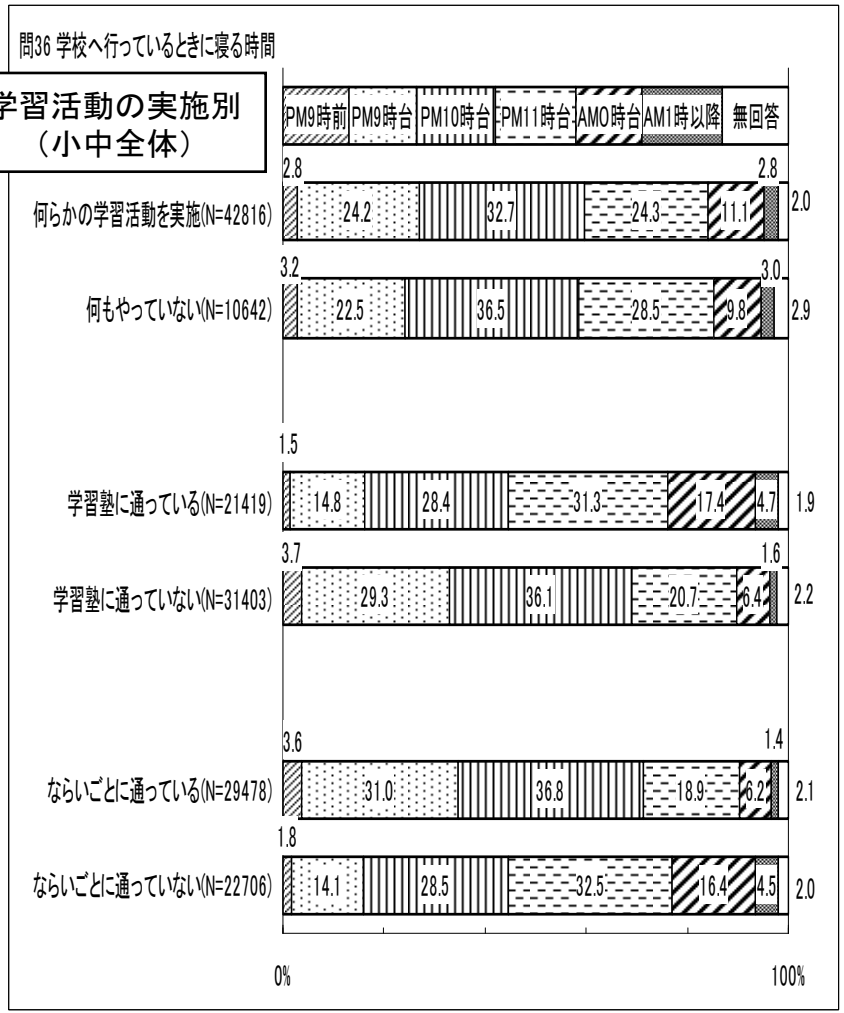
＜学校に行く前日＞

・小中全体を通じて、午後10時前までの就寝割合は、学年が上がるにつれて低くなっており、一方で、午前0時以降の就寝割合は小学生ではあまり高くないが、中学生になると高くなり、中学3年では5割を超える。

・一方、小中全体でみると、学習塾に通っている子どもの方が遅い時間帯に就寝する割合が高く、5割以上が午後11時以降に就寝しているのに対し、学習塾に通っていない子どもでは午後11時前の就寝割合が約7割となっている。

・一方、ならいごとに通っている子どもでは、午後11時前の就寝割合が7割以上となっているが、ならいごとに通っていない子どもでは午後11時台以降の就寝割合が5割以上となっている。



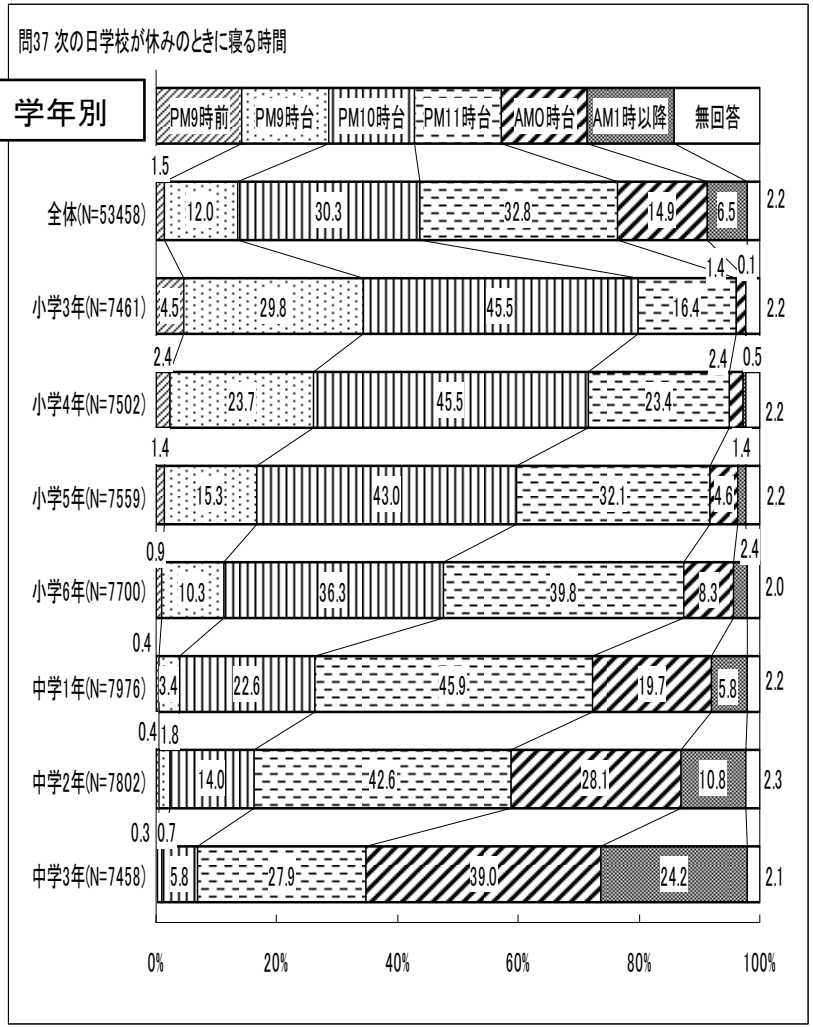


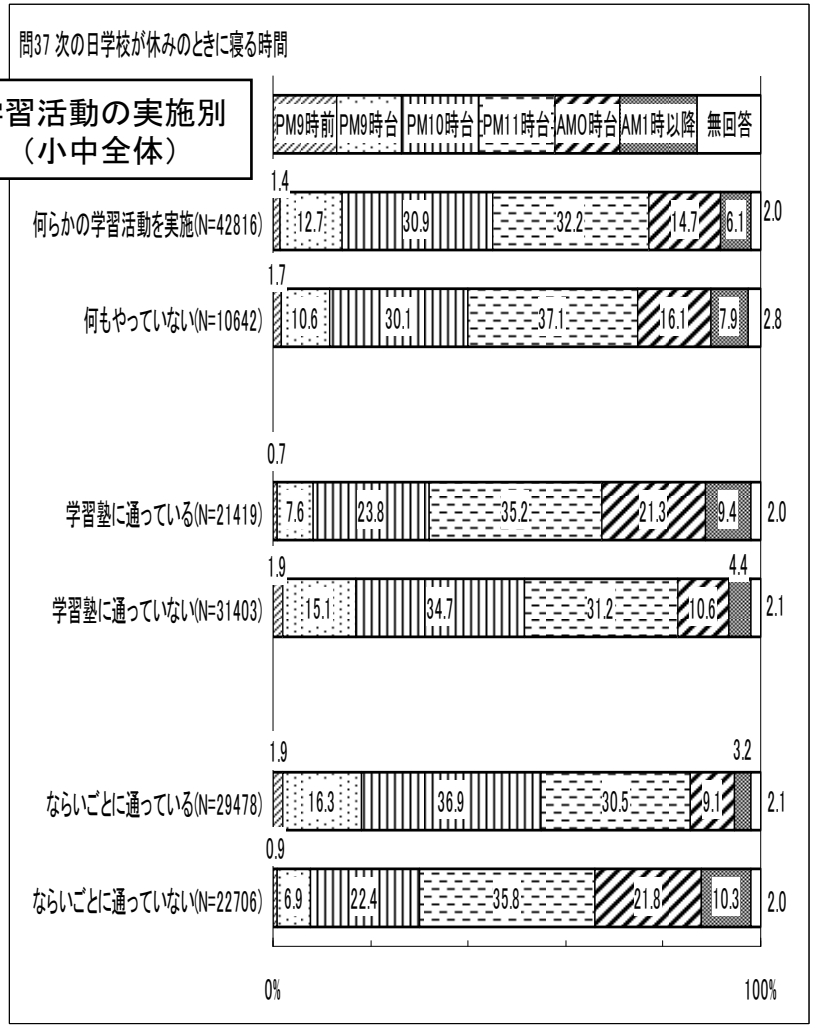
＜翌日学校が休みの日＞

・小中全体を通じて、高学年ほど遅い時間帯に就寝する割合が高くなり、午後10時までに就寝する割合は、小学3年では3分の1程度だが、中学生では5%未満。一方、小学5年までは「午後10時台」が4割以上と最も割合が高いが、小学6年・中学1年・2年では「午後11時台」が、中学3年では「午前0時台」の割合が最も高い。特に中学3年では、午前0時以降に就寝する子どもの割合は6割を超えている。

・また、小中全体を通じて、学習塾に通っている子どもでは、午後11時台以降に就寝している割合は7割近くであるのに対して、学習塾に通っていない子どもでは、午後11時前に就寝する割合が約5割となっている。

・一方、ならいごとに通っている子どもでは、午後11時前に就寝する割合は5割以上であるのに対して、ならいごとに通っていない子どもでは午後11時前に就寝している割合は約3割。

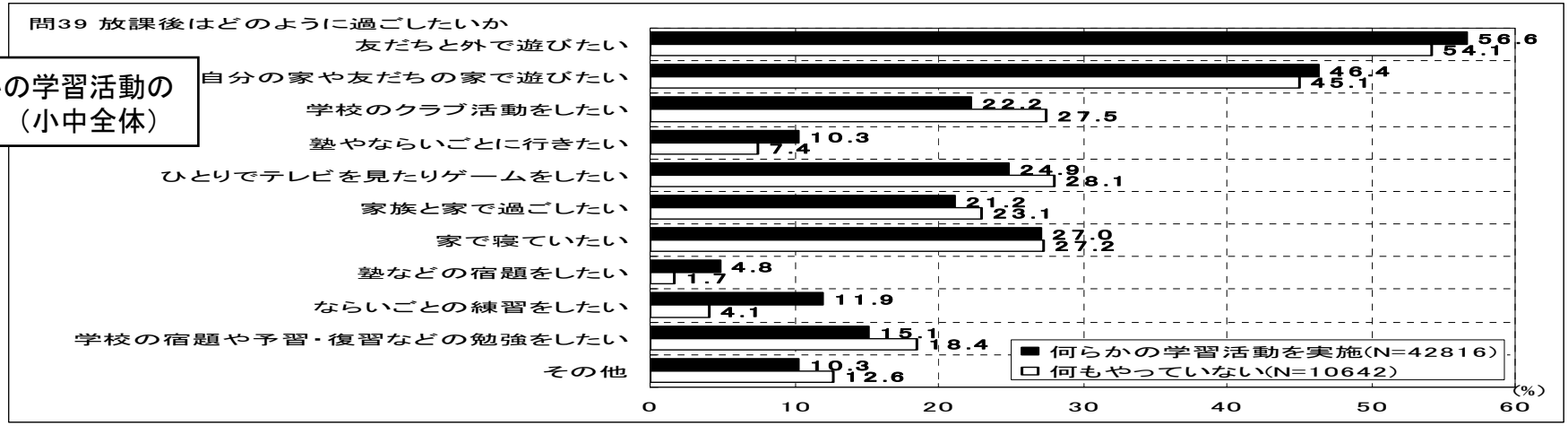




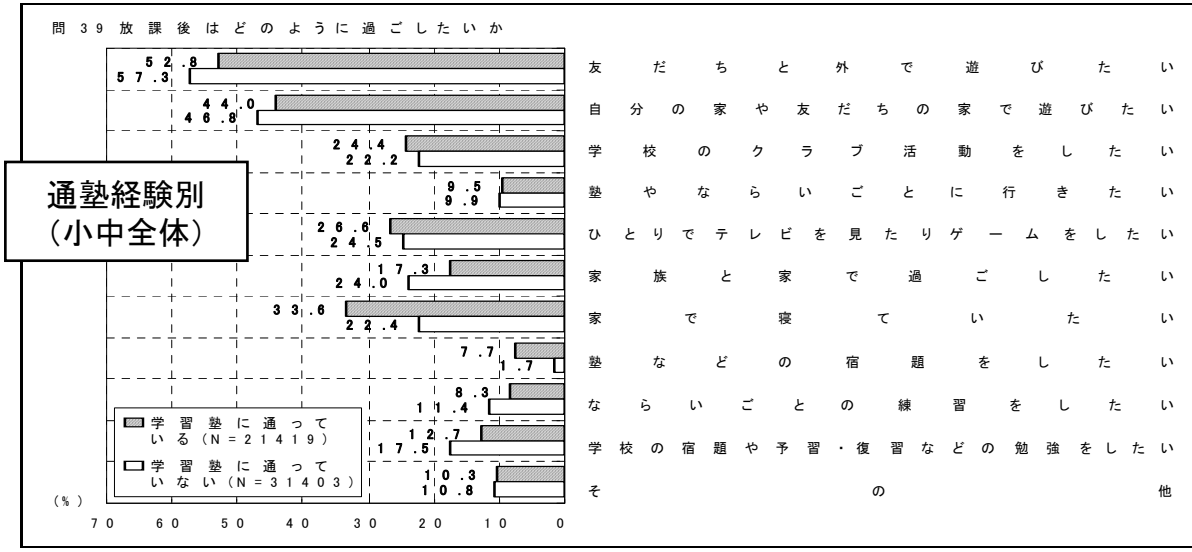
③放課後の過ごし方（平成19年11月時点）＜希望＞

・何らかの学習活動をしていた子どもの方が、友だちとの遊びや塾・ならいごとに行くこと、あるいはそれらの宿題や練習をすることなどの割合が高くなっているのに対して、「ひとりでテレビを見たりゲームをしたい」や「学校のクラブ活動をしたい」などが、学校外での学習活動を何もしていない子どもの方が、何らかの学習活動を実施している子どもより高くなっている。
・一方、「家で寝ていたい」は、学習塾に通っている子どもの方が、通っていない子どもより比較的高い割合となっている。
・また、ならいごとに通っている子どもの方が、通っていない子どもより、友だちとの遊びやならいごとの練習などをしたいとする割合が高くなっている。

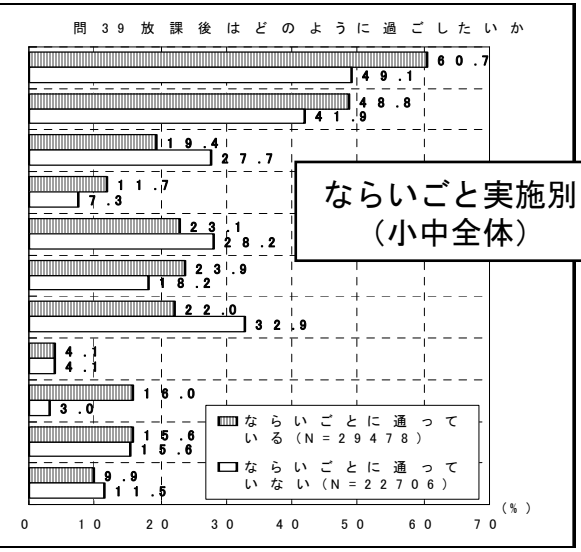
何らかの学習活動の実施別（小中全体）



通塾経験別（小中全体）



ならいごと実施別（小中全体）



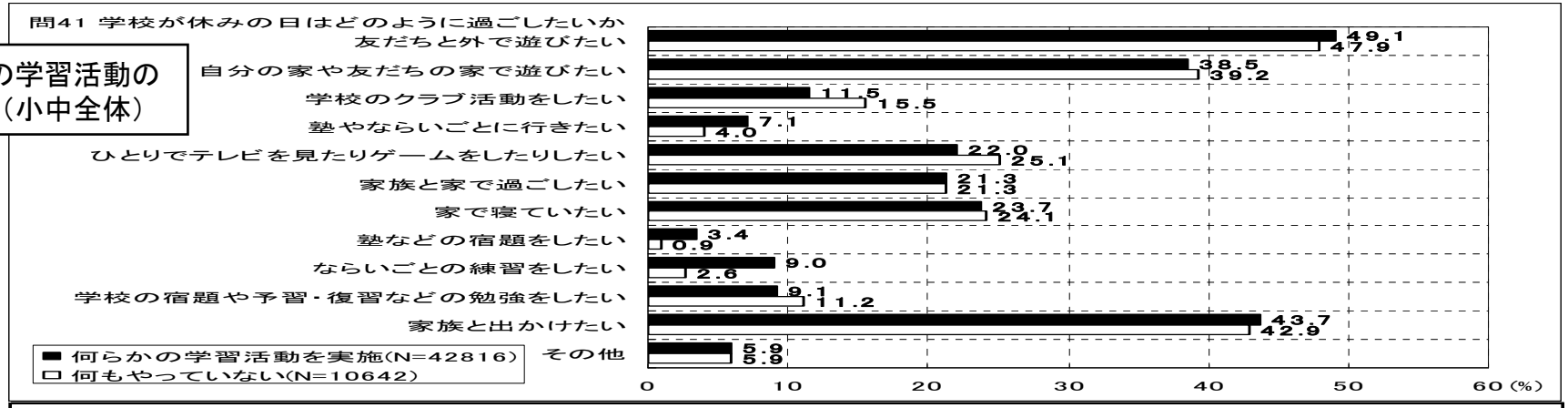
④休日の過ごし方＜希望＞

・何らかの学習活動をしている子どもでは「塾やならいごとに行きたい」や「塾などの宿題をしたい」、「ならいごとの練習をしたい」などが比較的割合が高くなっている。

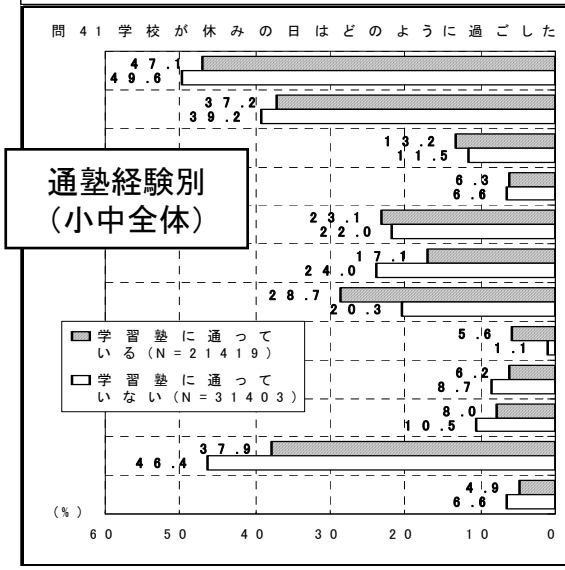
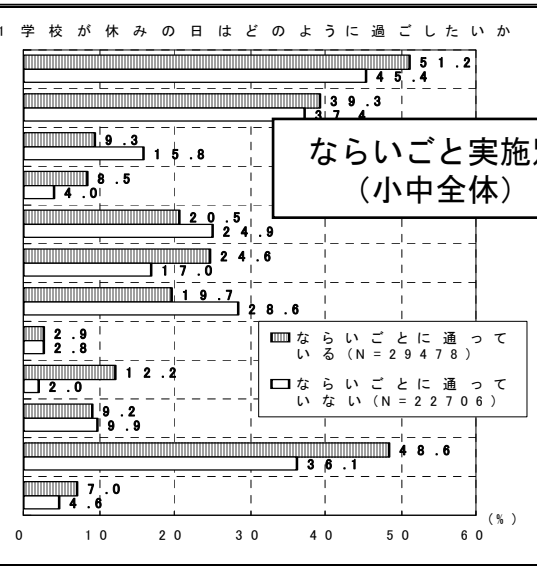
・学習塾に通っている子どもでは「家で寝ていたい」などが学習塾に通っていなかった子どもよりもやや高い割合となっている。これに対して、「友だちと外で遊びたい」や「自分の家や友だちの家で遊びたい」「家族と出かけたい」などは、学習塾に通っていなかった子どもの方が高い割合となっている。

・「友だちと外で遊びたい」「ならいごとの練習をしたい」「家族と出かけたい」などでは、ならいごとに通っていた子どもと通っていなかった子どもとの差が大きくなっている。

何らかの学習活動の実施別（小中全体）



通塾経験別（小中全体）



ならいごと実施別（小中全体）